



SUBARU

# CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report

## 2009

[フルレポート]

地球と社会と人にやさしい企業を目指して



スバルのありたい姿  
「存在感と魅力ある企業」を目指して



特集1 「富士重工業 CSR座談会」

## 地域に根付いた CSR活動の現状と展望

各事業所・製作所のCSR推進責任者による座談会を開催し、今後のCSR活動への想いを語りました。



P11

特集2 「販売特約店の取り組み」

## 富士スバル株式会社の CSR

富士スバル株式会社が実践するCSR活動に焦点を当て、34年連続「スバルダイヤモンド賞」受賞の秘密を探りました。



P13

特集3 「スバルの“地球温暖化対策”」

## 商品開発での 取り組み

世界共通の重要課題「地球温暖化防止」への、スバルとしての取り組みを紹介しています。

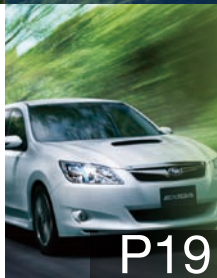


P15

特集4 「快適・信頼の新しいスバルの走り」

## スバルの7シーター 「エクシーガ」が目指したもの

お客様のニーズに合わせて新車開発に取り組み、スバルならではの多人数乗用車「エクシーガ」の開発に成功しました。



P19

特集5 「世界に向けて、地域に向けて」

## 産業機器カンパニーと 社会とのかかわり

産業機器カンパニーの、「ロビン」ブランド商品によるグローバルな社会貢献、また、埼玉県を拠点とする企業としての地域貢献活動を紹介しています。



P21

3	編集方針
4	報告メディアの考え方
5	トップメッセージ
7	CSR・環境担当役員メッセージ
8	富士重工業グループの概要
9	事業紹介
<hr/>	
11	特集1 富士重工業 CSR座談会
13	特集2 販売特約店の取り組み
15	特集3 スバルの“地球温暖化対策”
19	特集4 快適・信頼の新しいスバルの走り
21	特集5 世界に向けて、地域に向けて

【社会性報告】

23	CSRマネジメント
27	コーポレート・ガバナンス
28	リスクマネジメント
29	コンプライアンス
31	すべてはお客様のために
35	お取引先とともに
36	株主の皆さまとともに
37	従業員とともに
40	社会とのかかわり

【環境報告】

43	環境マネジメント
49	第4次環境ボランティアプラン
51	クリーンな商品
55	自動車リサイクル
58	クリーンな工場
61	クリーンな物流
62	クリーンな販売・サービス

【サイトレポート】

63	群馬製作所
66	宇都宮製作所
69	埼玉製作所
71	東京事業所
73	本社
75	国内関係会社
78	海外関係会社
<hr/>	
81	環境・社会への取り組みの歴史
83	第三者評価
84	第三者評価をいただいて

2009 CSRレポートは、冊子版(ダイジェスト)とweb版(フルレポート)を発行しています。  
報告メディアの考え方については、4ページをご覧ください。

## 編集方針

本レポートは、富士重工業株式会社・国内関連会社・海外関連会社のCSR(企業の社会的責任)の取り組み成果をご紹介します。お客さま・株主の皆様、お取引先・地域社会・従業員などのステークホルダーとコミュニケーションを図り、取り組み内容のさらなる向上を目指すことを目的として発行しました。

なお、本レポートは冊子版(ダイジェスト)とweb版(フルレポート)で構成されています。ポイントを絞った内容を冊子版に、当社各工場、関連企業の活動を含め、詳細な活動内容をweb版に掲載しています。中でも、よりステークホルダーにお読みいただきたい特徴的な取り組み成果については特集記事として取り上げています。

(冊子版、web版の掲載内容については4ページをご覧ください。)

【環境・社会活動ご紹介ページのアドレス:

<http://www.fhi.co.jp/about/envi/report/index.html>】

また、本レポートの内容につきましては、2007年度版から引き続きCSRコンサルタントの海野氏(株式会社創コンサルティング代表)に第三者評価を依頼しました。これは当社が「社会的責任を全うする企業」を目指した取り組みを進めるうえで、役立つ意見、評価を継続的にいただきたいと考えたからです。この評価書は本レポート83ページに記載しています。

## 対象範囲

### 対象企業

#### 富士重工業株式会社(主要生産拠点の所在地)

- スバル自動車部門  
[群馬製作所(群馬県太田市ほか)、東京事業所(東京都三鷹市)]
- 産業機器カンパニー[埼玉製作所(埼玉県北本市)]
- 航空宇宙カンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市、愛知県半田市)]
- エコテクノロジーカンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)]

#### 国内関係会社(国内関連企業部会参画の5社)

- 輸送機工業株式会社(愛知県半田市)
- 富士機械株式会社(群馬県前橋市)
- 株式会社イチタン(群馬県太田市)
- 桐生工業株式会社(群馬県桐生市)
- 株式会社スバルロジスティクス(群馬県太田市)

#### 海外関係会社(北米環境委員会参画の5社)

- SIA:Subaru of Indiana Automotive,Inc.(インディアナ州ラファイエット)
- SOA:Subaru of America,Inc.(ニュージャージー州チェリーヒル)
- SC1:Subaru Canada,Inc.(オンタリオ州ミシサーガ)
- SRD:Subaru Research & Development,Inc.(ミシガン州アンナーパー)
- RMI:Robin Manufacturing U.S.A.,Inc.(ウィスコンシン州バドソン)

上記以外の関係会社につきましては一部活動状況を紹介しています。

### 対象期間

2008年度(2008年4月~2009年3月)の実績と一部それ以前の取り組みや本レポート発行直前までのものを含みます。

※海外関係会社については2008年1月~12月の実績となります。

## 発行時期

前回発行:2008年7月

今回発行:2009年8月

次回発行予定:2010年7月

## 参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

## 本レポートに関するお問い合わせ先

富士重工業株式会社 総務部 CSR環境推進室  
〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号 スバルビル  
TEL 03-3347-2036 FAX 03-3347-2381

## 2008社会・環境報告書 第三者評価への対応について

昨年度いただきました第三者評価に次のように取り組んでいます。

### 【CSR活動全体】

■今後ともCSR担当者だけでなく、富士重工業の社員全員が意識を高く維持していきけるよう、継続的な取り組みを進めること

●CSR活動は企業としてのトップダウンによる組織レベルの取り組みに加えて、ボトムアップによる個人レベルの取り組みによる活動が重要です。

当社では、個人レベルの取り組みとして従業員全員が継続的に取り組める共通活動項目である3つの柱(環境、交通安全、地域貢献)を掲げ、すべての製作所、事業所で計画的に活動を展開しています。今後も、この共通項目を基本として活動を推進していきます。

■自動車を中心としたモノづくり会社として基本的(守りの)CSRと戦略的(攻めの)CSRの両面を保つこと

●お客さまに喜んでいただける製品・サービスを継続的に提供するモノづくり企業の基本要件として、守りのCSRと攻めのCSRを明確にするためにCSR方針を改定しました。今後、このCSR方針の展開、浸透を図っていきます。

### 【CSR方針】

1. 私たちは、富士重工業の企業行動規範に基づき、法令、人権、国際行動規範、ステークホルダーの権利およびモラルを尊重します。(守りのCSRとして、企業行動規範や重要項目を明示しました)
2. 私たちは、企業市民として、現代社会が抱える世の中の社会問題の改善に向けて取り組みます。(攻めのCSRとして、事業活動を通じて社会課題に寄与する企業市民であることを明示しました)

■自動車会社ならではの特色ある戦略を柱とし、企業の姿勢が読み手にも明確にわかる報告書を目指すこと

●クルマを中心とした輸送機器メーカーとして、世界的な課題である環境問題や安全・安心なサービスなどへの対応などさまざまな社会課題への対応を進めていることを読者の方々にご理解いただけるようなレポートを目指しました。今後とも重要な課題として改善を進めます。

### 【トピック別】

■CSR調達ガイドライン構築に向けた準備を計画的に進めること

●2008年6月に最新の環境関連法規と社会のニーズに対応するため、グリーン調達ガイドラインを改定発行しました。CSRに関する世の中の動きや業界動向との整合性を踏まえながら、2011年のCSR調達ガイドライン設定に向けて計画的に推進していきます。

■富士重工業グループ内に「お客さま第一主義」をより浸透させること

●モノづくり企業として、お客さまに喜んでいただける製品・サービスの提供は不可欠です。この「お客さま第一主義」のさらなる向上を目指した活動全般を本レポートで紹介し、併せて特集ページで販売店の活動例を報告しています。

他部門の活動や考え方を共有することで、さらなる「お客さま第一主義」浸透を図っていきます。

■CSRでのPDCAの展開を徹底すること

●全社組織であるCSR・環境委員会において、全社のCSR活動のPDCAによるマネジメントを推進しています。また、2008年には、北米の関連企業を中心に「北米CSR委員会」を立ち上げました。今後、グループ、グローバルでCSR活動の確実な展開と徹底のレベルアップを図っていきます。

■報告の媒体(冊子、webなど)と内容を整理すること

●今回よりレポート名をCSRレポートと改称し、冊子版とweb掲載版の区分けを見直しました。今後も継続的に改善を進めていきます。



## 冊子版 (ダイジェスト)

富士重工業グループのCSR  
活動をポイントを絞って掲載



## web版 (フルレポート)

各事業所・製作所の取り組み  
も含め、富士重工業グループ  
のCSR活動を網羅的に掲載



[環境・社会活動ご紹介ページのアドレス]

<http://www.fhi.co.jp/about/envi/report/index.html>

## web版(フルレポート)CONTENTS

★：冊子版に掲載していない項目

▶：web版で詳細情報を掲載している項目

### 編集方針

報告メディアの考え方

トップメッセージ

CSR・環境担当役員メッセージ

富士重工業グループの概要

事業紹介

### 特集

特集1「富士重工業 CSR座談会」

地域に根付いたCSR活動の現状と展望

特集2「販売特約店の取り組み」

富士スバル株式会社でのCSR

特集3「スバルの“地球温暖化対策”」

商品開発での取り組み

特集4「快適・信頼の新しいスバルの走り」

スバルの7シーター「エクシーガ」が目指したもの

特集5「世界に向けて、地域に向けて」

産業機器カンパニーと社会とのかかわり

### 社会性報告

CSRマネジメント

- ・ 企業理念
- ・ 企業行動規範
- ・ スバルのありたい姿
- ・ CSR方針
- ・ CSR経営

★ CSR推進体制と運営

▶ 2008年度の活動振り返りと2009年度の計画

コーポレート・ガバナンス

- ★ 基本的な考え方
- ・ コーポレート・ガバナンス体制
- ▶ 内部統制システム構築

リスクマネジメント

- ★ 基本的な考え方
- ★ リスク管理
- ・ BCPの策定

・ スバル販売会社社員の不幸事に関するお詫び

コンプライアンス

- ★ 基本的な考え方
- ▶ コンプライアンスの順守
- ▶ コンプライアンス体制と運営
- ▶ 2008年度コンプライアンス活動実績概要

### すべてはお客さまのために

- ★ 基本的な考え方
- ▶ お客さまとのコミュニケーション
- ・ 高品質な製品の提供
- ▶ 安全なクルマづくり
- ▶ 福祉車両への取り組み

### お取引先とともに

- ★ 基本的な考え方
- ▶ お取引先とのかかわり

### 株主の皆さまとともに

- ★ 基本的な考え方
- ▶ 株主の皆さまとともに

### 従業員とともに

- ★ 基本的な考え方
- ・ 人材育成
- ・ 仕事と家庭との両立を支援
- ★ 公的資格取得への支援
- ・ 60歳定年後の再雇用の促進
- ・ 障がい者雇用の促進

★ 快適職場形成

▶ 労働安全衛生

### 社会とのかかわり

- ★ 基本的な考え方
- ・ ボランティア活動支援
- ★ 交通安全普及活動
- ★ 大規模災害支援
- ▶ 地域イベントへの協賛・支援・寄贈
- ▶ 製作所・事業所開放イベント
- ▶ 地域清掃活動

### 環境報告

環境マネジメント

- ・ 環境方針・環境保全の運営基準
- ▶ 企業活動と環境への影響
- ・ 環境法規制の順守状況
- ★ 環境パフォーマンス

第4次環境ボランティアプラン

・ 第4次環境ボランティアプラン

クリーンな商品

- ★ 基本的な考え方
- ▶ 燃費の向上
- ▶ エクシーガの燃費向上の取り組み

▶ エコドライブ支援の取り組み

▶ 排出ガスのクリーン化

★ クリーンエネルギー自動車

★ 騒音対策

自動車リサイクル

★ 基本的な考え方

▶ 設計段階での取り組み

★ 使用済み自動車(ELV)の処理

クリーンな工場

★ 基本的な考え方

★ 投入資源量と発生物総量

★ 廃棄物削減

★ 水資源使用量低減への取り組み

★ 環境負荷物質の低減活動

★ 土壌・地下水汚染防止

★ PCB機器などの保管状況

★ 地球温暖化防止活動

クリーンな物流

★ 基本的な考え方

★ 完成車輸送における環境負荷の低減

★ 梱包資材の再利用化

クリーンな販売・サービス

★ 基本的な考え方

・ 使用済みバンパーの回収

・ 販売店での環境保全の取り組み

### サイトレポート

★ 群馬製作所

★ 宇都宮製作所

(航空宇宙カンパニー・エコテクノロジーカンパニー)

★ 埼玉製作所(産業機器カンパニー)

★ 東京事業所

★ 本社(新宿サイト・大宮サイト)

★ 国内関係会社

★ 海外関係会社

★ 環境・社会への取り組みの歴史

第三者評価

第三者評価をいただいて



## Top Message

# 「存在感と魅力ある企業」、 「社会的責任を全うする企業」の実現を 図ってまいります。

まずは、本書に関心をお持ちいただきました皆さまに感謝を申し上げます。

さて、2009年12月、デンマークのコペンハーゲンで、気候変動枠組条約第15回締約国会議COP15 (Conference of the Parties)が開催され、2013年以降の国際的温暖化対策の中期削減目標が決定される予定です。わが国では2009年6月10日に2020年の温室効果ガスの削減量の目標を2005年比▲15% (1990年比▲8%)とすることが決定されました。

スバルでは、産業界の一員としてこの目標達成に貢献すべく、自動車業界との連携を図りつつ最大限の努力をしていく所存です。

地球規模で持続可能な社会の実現に向けた取り組みが叫ばれるなか、ますます重要性の高まる地球温暖化防止をはじめとして、あらゆる環境問題に対する取り組みを強化、推進する必要があると考えております。

スバルでは、環境活動をCSR活動の最重要項目として認識するとともに、これらの社会問題に対処することが「企業市民」として当社が果たすべき使命と考え、スバルグループ全体での取り組みを進めております。

具体的には、2007年度から新たにスタートした「第4次環境保全自主取り組み計画」の達成に向け、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして、低炭素社会実現と地球温暖化防止などのさまざまな社会問題に対して商品開発から生産、物流、販売、自動車リサイクルに至る事業活動のあらゆる段階を通じて、これまで以上に積極的な取り組みをグループの総力をあげて進めてまいります。

環境対応商品として燃費、排出ガス性能を大幅に改善したドライバーズカー「レガシィ」、電気自動車「プ

グイン ステラ」、多人数乗り車「エクシーガ」を発売しました。特に電気自動車は、走行時のCO<sub>2</sub>排出量はゼロ、発電時からのCO<sub>2</sub>発生量を考慮してもガソリン車と比較して、これを大幅に削減し、環境負荷が少なく、利便性と実用的な航続距離を兼ね備えた、新しいモビリティの可能性を提案します。

スバルの開発では「快適、信頼の新しい走り」と地球環境の融合を目指しています。そのなかで、環境保全に対応する取り組みとして、既存のパートレんの改良はもちろんのこと、電気自動車やハイブリッド車も重要な技術のひとつとして位置づけ、今後も一層の研究開発に注力していきます。

2008年後半よりサブプライムローン問題に端を発した金融危機の影響が实体经济へ波及し、自動車をはじめとした需要低迷、為替の円高進行、株安なども重なりたいへん厳しい経済環境となっております。当社はトヨタグループとの協業を活用して、商品ラインナップの拡充や開発・生産の協力体制を進めるとともに、既存生産設備の改善や設備効率の向上による合理化や省力化の推進、また国内スバル車販売網の再編および環境対応ならびにコスト低減などを主体とした構造改革による体質改善に取り組み、「存在感と魅力ある企業」、「社会的責任を全うする企業」の実現を図ってまいります。

2009 CSRレポートを通じて、スバルグループの社会や環境に対する取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をちょうだいできれば幸甚でございます。

代表取締役社長

森 郁夫

現在推進しております新中期経営計画の経営ビジョンとして「社会的責任を全うする企業」を掲げております。輸送機器メーカーである当社は、環境問題に対する大きな社会的責任があります。企業活動として地球環境問題と経済状況の変化に対処し得る企業をつくり上げることがこの経営ビジョンの具現化にほかなりません。

2008年度には、「社会的責任を全うする企業」の確実な実現を図るべく、世の中におけるCSRに対する関心の高まりやこれまでの社内状況、グループ、グローバル化への対応を踏まえ、当社のCSRの基本的考え方である「守りと攻めのCSR」を明確化すべく、CSR方針の見直しを検討し、2009年6月に改定いたしました。このCSR方針の改定を契機に、本年度から社会・環境報告書を改め、「CSRレポート」として発行いたします。

また、CSR活動に対する理解の啓発、浸透を図るため、従業員一人ひとりの個人レベルの取り組みとして、グループ共通のCSR活動3つの柱(1.環境活動 2.交

通安全活動 3.地域貢献活動)を定め、日常活動としての落とし込みを図りました。

さらに、CSR、環境に関する全社レベルのマネジメントの仕組みであるCSR・環境委員会に、北米CSR委員会を新たに設け、グループ、グローバルな推進体制を構築しました。当社の考え方に加えて、それぞれの地域の文化、習慣などの特質を尊重したCSR活動を進めてまいります。

当社は、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして、環境問題、交通安全、地域貢献を中心にさまざまな社会的責任があります。その重大な責務に対して、商品だけではなく、企業活動としてグループ、グローバルで正面から取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、スバルをよろしく願い申し上げます。

取締役専務執行役員  
CSR・環境委員会委員長

奥原一成





# 富士重工業グループの概要

## 会社概要 (2009年3月31日現在)

社名 富士重工業株式会社  
(Fuji Heavy Industries Ltd.)

創立 1953年7月15日

資本金 1,537億円

従業員数 27,659名(連結)  
12,843名(単独)

本社 〒160-8316  
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号  
代表電話番号 03-3347-2111

売上高 14,458億円(連結)  
9,692億円(単独)

営業利益/損 ▲58億円(連結)  
▲245億円(単独)

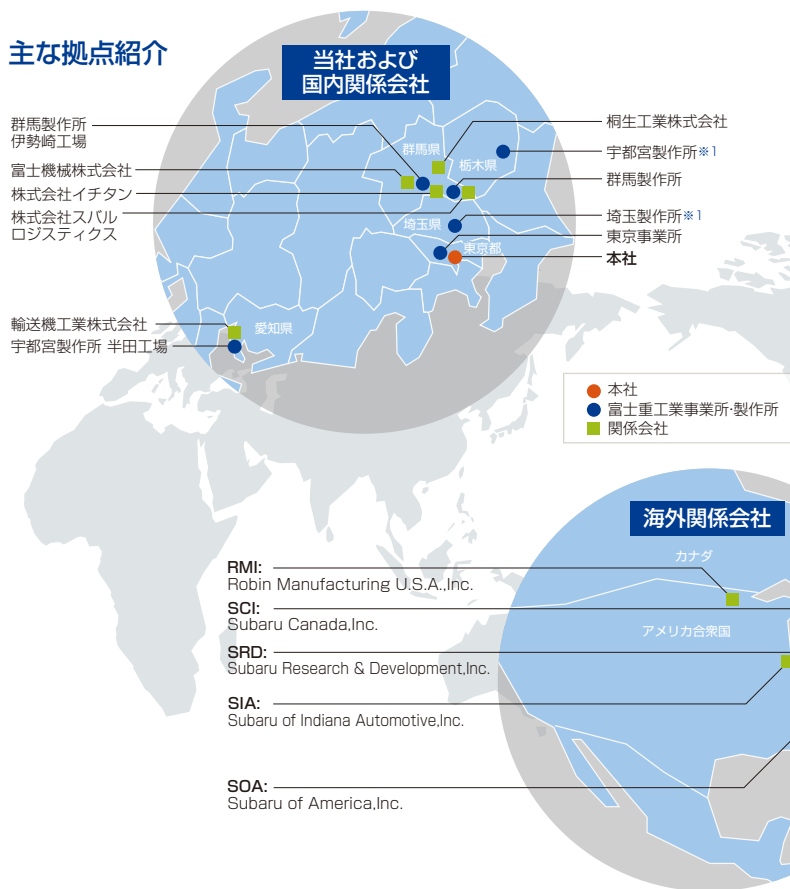
経常利益/損 ▲46億円(連結)  
▲248億円(単独)

当期純利益/損 ▲699億円(連結)  
▲834億円(単独)

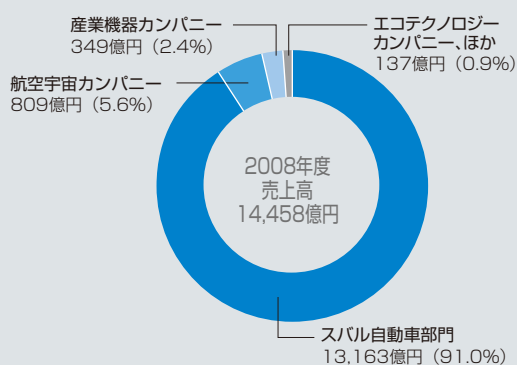
連結子会社 国内49社、海外19社

持分法適用の子会社 国内10社、海外5社

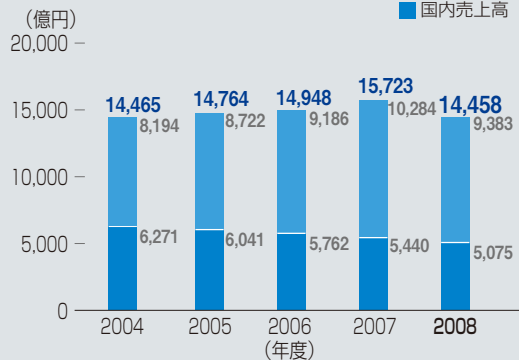
## 主な拠点紹介



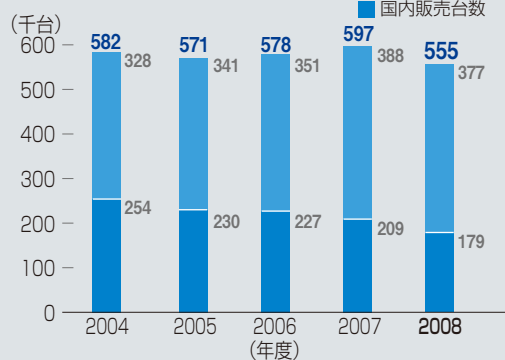
## 2008年度売上高部門別比率(連結)



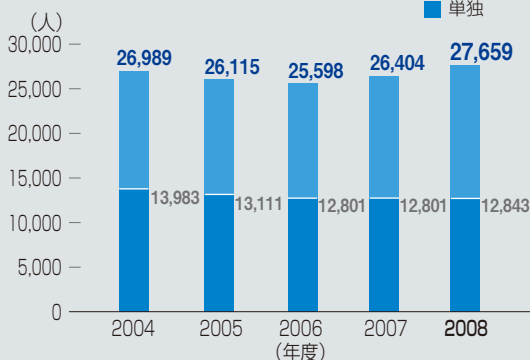
## 売上高推移(連結)



## 販売台数の推移(連結)



## 従業員数の推移



※1 本レポートでは、航空宇宙カンパニーとエコテクノロジーカンパニーの生産拠点を「宇都宮製作所」と、また、産業機器カンパニーを「埼玉製作所」と表記している場合があります。

# 独創的な先進技術で、時代ニーズに対応した商品を開発・製造

富士重工業株式会社は、スバル[SUBARU]ブランドのもと、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして4つの事業部門を展開しています。「スバル自動車部門」「航空宇宙カンパニー」「産業機器カンパニー」「エコテクノロジーカンパニー」。その独創的な先進技術と個性により、快適で楽しい未来の創造に貢献します。



2009年5月に発売された5代目レガシイは、「新しい時代にふさわしい豊かさの提供」というテーマを具体化するため、20年間磨き上げてきたグランドツーリング性能に加え、快適性と環境性能を併せ持つクルマとして開発されました。

## SUBARU Automotive Business

### 「すべてはお客さまのために」という姿勢で商品を提供 スバル自動車部門

所在地 | 群馬製作所(群馬県太田市、伊勢崎市、邑楽郡大泉町)  
東京事業所(東京都三鷹市)

スバルは1958年に「スバル360」の発売で自動車メーカーとしてスタートを切って以来、日本の自動車産業の発展に寄与する個性的なクルマを送り出してきました。例えば、「スバル360」は、航空機づくりの思想をふんだんに採り入れた精緻なパッケージング、徹底した軽量化に斬新な技術的特長がありました。1966年に発売した「スバル1000」は、スバルの個性ともいえる水平対向エンジンを搭載。量産車として先駆けとなる前輪駆動(FF)レイアウトを採用しました。

1972年、世界初の乗用四輪駆動車を発売。以後スバルは、このレイアウトを「シンメトリカルAWD<sup>\*1</sup>システム」として確立してきました。1990年代以降、日本ではハイパワーターボエンジンと四輪駆動を組み合わせた高性能ステーションワゴン、米国では乗用車の快適性とSUVの機能性を融合させた「クロスオーバー」<sup>\*2</sup>という分野を切り開いてきました。

スバルは、「ドライバーズカー」として快適で楽しい走りと地球環境との融合を約束するクルマの開発を続けています。

#### 国内関係会社

##### 富士機械株式会社(群馬県前橋市)

事業内容:自動車部品・産業機械  
農業用トランスミッションの製造、販売

##### 株式会社イテタン(群馬県太田市)

事業内容:自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売

##### 桐生工業株式会社(群馬県桐生市)

事業内容:スバル特装車の製造・スバル用部品の  
物流管理・スバルエンジン、  
トランスミッションなどの再生

##### 株式会社スバルロジスティクス(群馬県太田市)

事業内容:自動車およびその部品の梱包、出荷、  
陸送業、倉庫業、整備業、保険代理店業

#### 海外関係会社

##### SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.

スバル オブ インディアナ オートモーティブ インク  
(インディアナ州ラファイエット)  
事業内容:米国におけるスバル車の製造、  
トヨタ車の受託生産

##### SOA: Subaru of America, Inc.

スバル オブ アメリカ インク  
(ニュージャージー州チェリーヒル)  
事業内容:米国におけるスバル車および部品の販売、整備

##### SCI: Subaru Canada, Inc.

スバル カナダ インク  
(オンタリオ州ミシサーガ)  
事業内容:カナダにおけるスバル車および  
部品の販売、整備

##### SRD: Subaru Research & Development, Inc.

スバル リサーチ アンド ティバロップメント インク  
(ミシガン州アンナーバー)  
事業内容:北米市場におけるスバル車の研究開発

<sup>\*1</sup> AWD  
All Wheel Drive 四輪駆動。

<sup>\*2</sup> クロスオーバー  
1995年8月ステーションワゴンにSUVの機能性を融合させた  
スバルアウトバックを発売。

## Aerospace Company

航空機づくりの技術とスピリットを今に活かす

# 航空宇宙カンパニー

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)  
半田工場(愛知県半田市)

1917年に創設された航空機メーカー「中島飛行機」。航空宇宙カンパニーはその航空機づくりの技術とスピリットを受け継ぎ、主翼などの複合材を含む航空機構造体の開発技術や、無人機分野でのIT技術、飛行制御技術を融合した高度システムインテグレーション技術など、さまざまなカテゴリーでナンバーワン技術を確立しています。その技術を応用し、ヘリコプター、固定翼機、無人機の開発・生産を行っています。

さらに、大型旅客機や小型ジェット機の開発・生産にも参画。世界レベルでの発展を目指して、新たな分野に積極的に挑戦しています。

### 国内関係会社

輸送機工業株式会社(愛知県半田市)  
事業内容:航空機部品の製造、販売

## Industrial Products Company

地球のあらゆる場所で使われる汎用エンジンを量産

# 産業機器カンパニー

所在地 | 埼玉製作所(埼玉県北本市)

産業機器カンパニーでは、「ロビン」ブランドの汎用エンジンとロビンエンジンを搭載した商品を開発・生産・販売しています。ロビンエンジンは2,000種類以上の豊富なラインアップでお客さまのニーズに応え、社会の基盤をつくる建設機械や農業機械をはじめ、豊かな生活を彩るレジャー機器、発電機など、世界中で愛用されています。酷暑、極寒、砂漠、水上など地球上のあらゆる場所、使用条件で安定的に働き続けるため、性能向上に努めています。

### 海外関係会社

RMI : Robin Manufacturing U.S.A., Inc.  
ロビン マニュファクチャリング USA インク  
(ウイスコンシン州/バドソン)  
事業内容:米国における汎用・四輪バギー・ゴルフカート用のエンジンの製造、販売

## Eco Technologies Company

住みよい環境と資源循環型社会に貢献する

# エコテクノロジーカンパニー、ほか

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)

エコテクノロジーカンパニーは、廃棄物の収集運搬やリサイクル処理のための各種車両・装置など、住みよい環境と資源循環型社会に貢献する多様な製品を手がけています。またクリーンなエネルギーを生み出す風力発電システムを開発し、製品を通じて地球環境保全に取り組んでいます。

### 〈クリーンロボット部門〉

世界で初めて実用化した高層ビル無人清掃ロボットの技術は、屋外型清掃ロボットやごみ搬送ロボットの実証実験に応用されています。



2000年度から納入が開始された新型初等練習機T-7は、ターボプロップ・エンジンの採用により従来機に比べ性能向上と騒音低減が図られています。また冷暖房装置の搭載やコックピットを広くしたことにより居住性が向上されています。



EX35・40エンジンはチェーン駆動のOHC動弁機構の採用により、優れた環境性能と高性能を高次元でバランスよく融合させた汎用エンジンです。OHCならではの高効率燃焼室設計により、環境にやさしい低排出ガス性能、低燃費、低騒音や優れた始動性と、クラス最高レベルの出力性能を実現する次世代エンジンとして販売を開始しました。

塵芥車のグローバルスタンダードを目指して、当社と新明和工業株式会社が共同で次世代型新型回転板式塵芥車「G-RX」を開発しました。安全性や環境性能、積込効率の向上に取り組み、信頼性の向上を目指しています。



# 地域に根付いた CSR活動の現状と展望



## 地域の模範となり 愛される企業へ

〔司会〕

CSR活動は企業としてのトップダウンによる組織レベルの取り組みに加えてボトムアップによる個人レベルの取り組みによる活動が重要です。

当社では、個人レベルの取り組みとして従業員全員が継続的に取り組める共通活動項目として「3つの柱(環境、交通安全、地域貢献)」を掲げ、すべての製作所、事業所で計画的に活動を展開しています。今日は、各製作所で実施している「3つの柱」の具体的な活動成果や今後の課題をお聞きしたいと思います。

宇都宮製作所  
総務部 総務課  
課長  
西山 利幸



宇都宮製作所では、住宅地と近接して工場がある土地柄、「地域に愛される企業」をスローガンに掲げ、地域との共生を目指しています。その実現のために、コンプライアンスの徹底や交通マナーアップ、苦情への真摯な対応などに注力しています。こういう活動を通じて培った信頼関係があって初めて、いわゆる地域貢献活動を受け入れて評価していただけるのだと思います。

地域貢献活動としては清掃活動や各種イベントのほかに、学校教育の支援に取り組んでいます。子どもの理科離れを防ぐ目的で「飛行機のつくり方、飛ぶ仕組み」という出前授業も始めました。

これからも、製作所の特長を活かし、将来の事業基盤の強化につながるような取り組みを従業員や地域を巻き込んで行っていきたいと思います。

## CSR活動と各自が取り組む 地域貢献活動を リンクさせることが大切

群馬製作所  
総務部 総務課  
課長  
向 雅弘



群馬製作所では、社内外において大小さまざまな活動が恒例行事として定着しています。例えばふれあいコンサートや花の配布、金山清掃などに代表される「スバル地域交流会」の活動は、お取引先などを含めた57社が参加する大きな活動です。このほか毎月1日に自社周辺の清掃活動、15日には郊外の清掃活動を行うなど、着々と活動の数と幅を広げています。

一方で、群馬地区全体では8,000名の従業員からなる組織であるため、CSRに対する認識や活動には個人差があるという課題があげられます。CSRの概念も広範であることから、従業員には富士重工業の活動というものをしっかり示して、それとCSRのつながりを認識してもらう必要があります。急な転身ではなくても、段階的に進化させていく必要があると考えています。

富士重工業では、2006年度より組織的にCSRに取り組むため、「現状・課題把握」「活動整理・立ち上げ」「活動推進」の3つのフェーズに分けて活動してきました。

2008年度は、CSRとその重要性を従業員一人ひとりが認識し、企業市民として社会に貢献するために「環境活動、交通安全活動、地域貢献活動」の3つの柱（詳細は26ページをご参照ください）をスバルグループ共通のCSR活動項目として定め、取り組みました。今回、本社と東京事業所、群馬、埼玉、宇都宮の各製作所より、CSR推進責任者が一堂に会し、今までの取り組みの苦労や新たに見えてきた課題、そして今後のCSR活動への想いを語っていただきました。

埼玉製作所では、従業員の自発的な行動により、小学生への交通安全活動の実施や、清掃活動、運動部の応援活動など、3つの柱をベースとしたCSR活動に取り組んでいます。活動を促進するために「ボランティアポイント制度」を設け、組織や課単位で表彰し、参画意識を生み出す工夫もしています。しかしながら、現在の“身の丈に合った活動”と“企業のさまざまな社会的責任を担うCSR方針”を関連づけて従業員に理解・浸透させることは難しいと感じています。カンパニーの諸活動と当社のCSRの考え方が一目でわかるような方針策定が大切です。CSR方針は、3つの柱に基づいた地道な活動のもとできあがっていくことが理想的だと思います。従業員に根付いた“当社らしいCSR”を構築したいと考えています。

東京事業所の場合はその事業形態から、ほかの製作所と比べ、CSR活動の落とし込みや理解が比較的容易な事業環境にあると思います。それは、スバル車のパワーユニット（エンジン、ミッション）開発をおし、環境性能のよい自動車を開発・提供し、お客さまに使っていただくことこそが、私たちの最も有効な地球環境保全につながる活動と理解しているからです。

東京事業所の地域貢献活動としては、事業所見学などによる小学生の教育支援をしています。また、実際に学校へ電気自動車を持ち込み、社会科授業の支援も行っています。CSRとは、企業が継続して発展していくために持続可能な未来を社会とともに築いていく取り組みと理解しており、今後も本業を通じて社会に貢献していくことをベースに、活動の確立に取り組むしたいと思います。

本社では、各製作所のように大きな設備を取り扱っているという訳ではないので、環境に大きな影響を与える直接的な要因はありません。一方、本社の業務は、社内、販売会社、関連企業などへの影響が大きいことから、CSRを加味した環境活動を推進しています。現在は、各部署において、本業が社会に与えるCSR影響を評価し、影響度の高い課題を決めて、スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート業務にかかわるさまざまな改善活動に取り組んでいきます。

また、地域貢献活動については、地域に根付いたCSR活動を目指し、新宿区の一斉道路美化清掃やペットボトルのキャップを集めて資源化しワクチンを寄贈する活動への参加など、本社の特長を活かしたCSR活動を推進しています。

埼玉製作所  
総務部 総務課  
課長  
鈴木 一彦



CSR環境推進室  
(東京事業所)  
笹原 博



CSR環境推進室  
篠原 司



地道な活動を通して、  
会社の方針が  
できあがっていく

本業を通じて  
CSR活動を確立していく

本社の特長を  
活かしたCSR活動の  
浸透を目指して

## さらなるCSR活動の推進を目指して

### 富士重工業グループが連携し、地域になくてもならない企業を目指す

今回の座談会を経て、各製作所における「3つの柱」に対する活動自体が根付いていることが実感できました。しかし「富士重工業だからこそできること」といった本業とのつながりを意識した活動には至っていないという課題も見えてきました。

このような課題に対処するために、これまでのCSR方針を改定し、守りのCSR（企業行動規範やコンプライアンスなどの重要項目の尊重）と攻めのCSR（事業活動を通じて社会課題に寄与する企業市民であること）を明示しました。さらに、明確な目標を掲げ、地道に活動していくべきだと考えています。

これらのCSR活動は、国内外の関連企業とも連携して、グループとしてのマネジメントシステムを構築することも目下の課題といえます。富士重工業がこの先何十年と社会に存続していくためにも、各地域の皆さまに「富士重工業がいてくれてよかった」と思われるような活動にしていきたいと思っています。



CSR環境推進室 室長  
鈴木 達也

## 販売特約店の取り組み

# 富士スバル株式会社の CSR

スバル販売特約店の中で、経営状態と販売実績、地域のマーケットシェア、お客さまの評価など、総合的に最も優秀な会社に与えられる「スバルダイヤモンド賞」。富士スバル株式会社は、その賞を34年間連続で受賞しています。その秘密は、富士スバル株式会社が実践するCSR活動そのものにあります。



## 地域に愛され、必要とされる企業であるために

### すべてはお客さまにつながっている

当社は自動車販売会社として、群馬県一の自動車保有台数を誇り、地域から大きなご支持をいただいています。地域の方々にお世話になっているからこそ、私たちは感謝の気持ちを込めて積極的に地域貢献活動に取り組んでいます。

例えば、環境美化活動として、30年にわたり月に一回すべての店舗で周辺道路の清掃を行っています。その活動の影響で、全従業員が日頃から道路のごみを気に掛けるようになり、常にきれいな状態が保たれています。また、自動車の販売特約店として、交通違反・事故撲滅運動にも積極的に取り組んでおり、当社従業員の84%がSDカード※1を取得しているほどです。ほかにも、年2回全従業員が自主的に募金する「愛の募金」活動へも前向きに取り組んでいます。このような地域貢献活動の一つひとつがお客さまにつながっている、という意識のもとで仕事に励んでいます。

当社には、「社員三誓」という誓いの中の一項目に、『お客さまの心にふれるサービスをしよう』という言葉があります。アメリカで広まった「お客さま第一主義」と

いう考え方を、当社は日本でいち早く取り入れ、お客さまに対して真心で接することを大切にしてきました。創業から60年以上が経ちますが、自分たちの行為が、本当にお客さまのためになっているのか、喜ばれているのかという視点を常に意識するようにしています。

1968年、当社の前身の富士オート時代に『私を叱ってください』と書かれたワッペンを、全従業員がキャンペーンでつけたことがあります。私たちの仕事は、基本的にお客さまに商品を購入していただくことで給料が得られます。従って「もし至らぬ点があれば叱ってください」という姿勢を表したのです。そこに当社の販売活動やサービスの原点があり、お客さま第一主義が根付いているのだと思います。

### いかに素早くお客さま視点に立てるか

お客さまのことを真剣に考えるには、まずお客さまが当社に対してどう思っているのかを知る必要があります。そのためスバルには、「スクラム会議」という情報交換の場があり、当社も有効に活用しています。この会議では、現場の全店舗の従業員が話し合い、よいことも悪いことも本社でしっかり吸い上げ共有します。そして、今後のお客さまへの対応を検討し、よかったところは真似るようにし、クレームに関しては再発防止に向けて行動を改めます。

私たちが何よりも大切にしているのは、対応のスピードです。お客さまからの電話にすぐ対応できること、お客さまがお困りのときにすぐに対応できること、お客さまが事故に遭われたときにすぐ駆けつけられること。一見当たり前のようなことの徹底が、CS (Customer Satisfaction: 顧客満足) の向上、お客さま第一主義の重要なポイントだと思っています。



富士スバル株式会社  
代表取締役社長  
齋藤 昭

※1 SDカード  
「Safe Driver」の略称。  
無事故・無違反継続の証明。

## 社員三誓

- 一、お客様の心にふれるサービスをしよう
- 二、頭を使い手足を使ってすぐ実行しよう
- 三、健康に気をつけ誠実に生きよう

## 地域への感謝はお客さまへの感謝につながる

日頃からCSを意識するには、地域に感謝する気持ちを持つことが大切です。先にも述べた地域貢献への意識や行為こそが、お客さまを大切にするという心、つまりCSにつながっていくのだと思います。また、CS向上は販売実績向上にもつながります。目の前のお客さまのことを真剣に考えられれば、必然的に認めていただけるでしょう。

当社は、群馬県に根付いたビジネスをさせていただいており、その事業規模も徐々に拡大してきています。CSR活動には終わりはありません。今後とも地域に愛され、必要とされる企業であり続けるため、そして地域ナンバーワン企業であり続けるため、事業とともに地域貢献にも取り組み続けていきます。

## 富士スバル太田店の取り組み



富士スバル株式会社  
常務取締役  
太田店店長 兼太田支店長  
小島 喜重郎

### 社内コミュニケーションの強化がCSにつながる

当店は、CS向上のために、まず社内のコミュニケーションづくりを強化してきました。社内の連携がしっかり取れていないと、お客さまへの発信もよくなりません。そこで、全員参加型の委員会を設置し、コミュニケーションの改善に努めました。

お客さまとの接触頻度を高めるための「スバルスタンダード委員会」では、納車後の点検になぜ来ていただけないのか、来ていただくためにはどういうアプローチをしたらよいのかを話し合います。同時に業界の知識や接客の仕方を学ぶ勉強会を開いています。

「ショールーム委員会」では、お客さまに対するお出迎え、お見送り、ヒアリングの仕方など、接客の改善策を話し合っています。特に女性の活躍が目立ちます。例えば、ドリンクメニューは、お客さまから頼みやすくわかりやすいと評判は上々で

す。社内的にも、メニューが机にあるかないかで現在商談中なのかがわかり、スムーズな接客が可能となりました。ほかにも、待ち時間に読んでいただく雑誌やイスの下の荷物籠など、女性ならではの細かい心配りが見られます。

定期的に委員会で話し合う場を設けることで、社内のコミュニケーションは活性化されました。

私は、CSの尺度は、従業員がどれだけお客さまに対して感謝しているかだと思っています。そして、お客さまへの感謝は、自分の身の回りに感謝できて初めて生まれるものです。現在の太田店は、周囲に目を向けて、相手を尊重し、小さなことでも感謝するという風土が芽を出しはじめました。決して現状に満足することなく、委員会をさらに活用し、お客さまのニーズにお応えし続けていきたいと思っています。



女性スタッフのきめ細やかなサービスが太田店を支えています



上:ご自由に利用いただけるマッサージ機  
下:子どもが一緒でも安心のキッズコーナー



“全員セールス・全員フロント・全員サービス”の心で整備しています

# スバルの“地球温暖化対策” 商品開発での取り組み

地球温暖化問題、CO<sub>2</sub>削減、自然破壊など、これらの言葉はマスコミやインターネットを通じて毎日のように取り上げられています。環境問題に対しては、世界中どこを見渡してみても、重要課題として捉えられています。

スバルでは、地球にやさしい商品開発、生産、物流などあらゆる過程で地球温暖化防止に取り組んでいます。ここでは、そのいくつかの取り組みをご紹介します。

## ➤ クルマ社会と豊かな地球環境の両立を目指して



「プラグイン ステラ」

### 電気自動車の開発

将来にわたってクルマが人々の人生を豊かにするものであるために、限りある資源を大切に使い、環境との調和を考えた商品開発が広く求められています。自動車メーカーとして、そしてスバルとして、地球環境のことを考えていくことは当然の責任です。ここでは電気自動車「R1e」の開発成功と、「プラグイン ステラ」実用化に向けた取り組みをご紹介します。

#### 電気自動車開発のきっかけとスバルの使命

世間の関心が、低燃費かつ低排出ガスのエコカーに集まるなか、「快適と信頼の新しい走り」と地球環境の融合を目指すスバルでは、地球環境への配慮と実用性を兼ね備えた、これからの時代にふさわしい商品のひとつとして電気自動車の開発を考えました。走行中のCO<sub>2</sub>排出ゼロはもちろんのこと、発電所などでの発電時も含めた「well-to-wheel」(原油の採掘から車両走行時の消費まで)のエネルギー利用を考慮しても、ガソリン、ディーゼル、水素を用いた燃料電池に比べ、CO<sub>2</sub>排出量が少ないのです。将来を見据えて新しい技術に挑戦し、スバルならではの魅力と価値を創造、提案していくこと。そして、クルマがもたらす利便性と豊かな地球環境や資源の保全を両立させ、地球にやさしく、私たちの暮らしに本当に役に立つ電気自動車の実用化を目指すこと。これらが私たちスバルの使命であり、責務であると考えています。

#### プラグイン ステラの環境性能 温室効果ガス排出量を大幅に削減

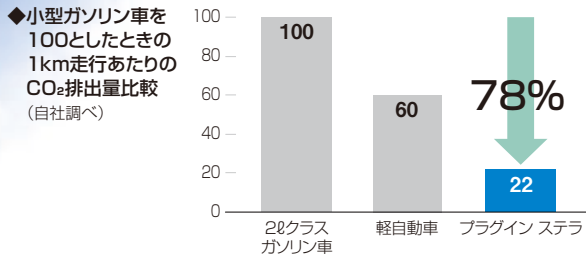
電気自動車の本格的な普及を見据えて開発された「R1e」。2006年6月から共同開発パートナーの東京電力株式会社で10台を業務車両として使用開始し、2007年に30台増車され計40台にて、日常走行における過不足のない近距離通勤用としての性能を実証しました。この「R1e」の開発が評価され、「平成18年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞。2008年7月には、市販化を視野に入れ、これまでの実績、ノウハウをもとにユーティリティをさらに高めた新しい電気自動車のコンセプトモデル「プラグイン ステラ コンセプト」を発表しました。走行中のCO<sub>2</sub>排出量はゼロで



前身となった電気自動車「R1e」



す。また充電用の電力をつくる際に発生するCO<sub>2</sub>排出量も大幅に低減しています。例えば2ℓクラスガソリン車を100としたときの1km走行あたりのCO<sub>2</sub>排出量を比較してみても、軽自動車60、プラグイン ステラ22と、2ℓクラスガソリン車に対して約78%のCO<sub>2</sub>削減を達成しました。



## エネルギーロスの少ない効率的な走り

一般的に、電気自動車を開発していく際、航続距離(1回の充電によって運転し続けることのできる距離)を重視してバッテリー搭載量を増やすと、充電の長時間化やバッテリー自体の重量がもたらすエネルギーロスを発生させることがあります。実用性を追求した「プラグイン ステラ」は、少ないバッテリー搭載量で多くのエネルギーを貯められ、なおかつ大電流での充放電を可能とし、短い充電時間と必要十分な走行距離を実現しました。都市でのビジネスユースなどを想定し、1回のフル充電で走行可能な航続距離をおよそ90km(10・15モード)に設定。急速充電器を使用すれば、約15分で80%の充電が可能です。高いエネルギー効率により、燃料代は軽ガソリン車の約2/5、さらに深夜電力を使用すると、1/5程度にまで抑えることができます。

また、従来のクルマでは、ブレーキを踏んだりアクセルを緩めた際、運動エネルギーを摩擦熱などとして放出していましたが、「プラ



急速充電器



充電イメージ

グイン ステラ」では、このエネルギーを積極的に有効活用する回生ブレーキシステムを採用。減速時にモーターを発電機として動作させることにより、電気エネルギーに変換し、再びバッテリーへ充電します。



回生ブレーキを活用する「レンジ」

## ◆充電時間

		充電時間
	<b>急速充電</b> (3相200V-50kW)	<b>約15分</b> (80%充電)
	<b>家庭充電</b>	200V(15A)
100V(15A)		<b>約8時間</b> (フル充電)

## 実用化に向けて

2009年4月、市場導入へ向けた最終段階として「プラグイン ステラ プロトタイプ」を開発。環境省の「低炭素社会づくり行動計画(2008年7月閣議決定)」に基づき、電気自動車の普及拡大を図るため、次世代自動車等導入促進事業の対象車として、このプロトタイプ15台を提供しました。2009年6月までカーシェアリング形態の運用を目的に、神奈川県に4台、愛知県に3台、大阪府に3台、兵庫県に3台、横浜市に1台、郵便事業株式会社1台、それぞれ貸与されました。

「プラグイン ステラ プロトタイプ」は、従来のコンセプトモデルに比べ、モーターの出力を40kWから47kWと高出力化し、走行性能を向上させました。市場導入に向け、より実用性を向上させています。今年度は企業や自治体を対象に170台程度の供給を計画しています。スバルの電気自動車開発は、長期的な実証実験を積み重ね、クルマ社会と豊かな地球環境の両立を目指します。



その他の性能は当社ホームページをご覧ください。

<http://www.fhi.co.jp/envi/plugin/index.html>



洞爺湖サミットでの「プラグイン ステラ」

## 洞爺湖サミットでスバルの電気自動車が活躍

2008年6月、「プラグイン ステラ コンセプト」の前身「R1e」が、洞爺湖サミット開催に先駆け、東京から北海道・洞爺湖まで858.7kmの「EV(Electric Vehicle=電気自動車)キャラバン※1」に挑戦しました。このキャラバンの走行に要した電気代は1,713円。電気自動車の優れた経済性が証明されたといえます。2008年7月には、北海道で開催された洞爺湖サミットにおいて「プラグイン ステラ コンセプト」は、サミット参加者の移動車、およびサミット期間中の洞爺湖エリアにおける近隣郵便局間の郵便物集配車として使用されました。さらにサミット終了後、横浜で郵便事業の集配業務用車両としての実証実験を行っています。

※1 EVキャラバン  
キャラバンは日本EVクラブ主催。  
出典:日本EVクラブ、ホームページより

# 「環境の走り」へ大きく前進 世界初ボクサーディーゼル導入

## ボクサーディーゼルの自社開発

地球温暖化対策のため、世界的に自動車燃費の改善が求められています。特に欧州では、EU加盟国を中心にCO<sub>2</sub>税制が相次いで導入されたことで、ディーゼル車のニーズが加速度的に高まりました。2005年には、新車販売の約半数をディーゼル車が占めるほどに市場が変化しました。

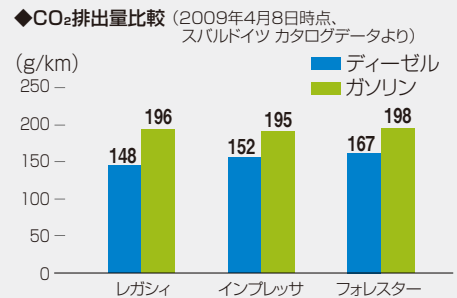
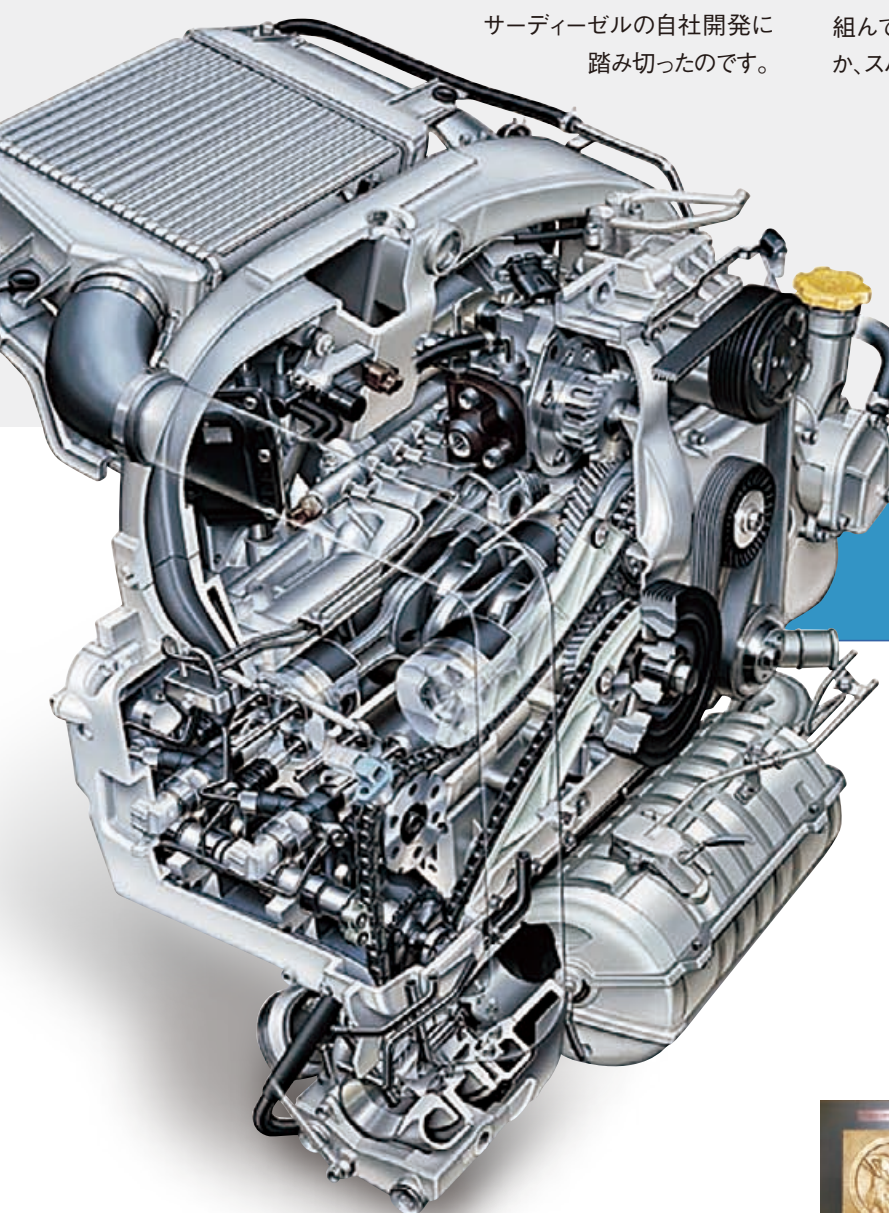
欧州を戦略市場のひとつとする当社としては、もはやディーゼルなしでは競争できないと判断し、2005年秋、ディーゼル車導入を決定。最後発のディーゼル導入となったスバルは、他社にない魅力を感じていただくためにも、「低振動・低重心・高剛性といった特性をもつ水平対向こそが、ディーゼルにもっともふさわしい」という信念のもと、乗用車では世界初となるボクサーディーゼルの自社開発に踏み切ったのです。

## 環境と走りの融合

ディーゼルエンジンの最大の魅力は、ガソリンエンジンに比べて低燃費で、CO<sub>2</sub>排出量が少ないこと。例えばレガシィ2.0Dは、1回の給油64ℓで約1,000kmの走行が可能です。

ディーゼル車のシェアが高い欧州市場においても、スバルのボクサーディーゼル搭載車が燃費性能で高い評価をいただいています。ボクサーディーゼルは機構上、ピストンの動きによる振動が非常に小さくなることから、振動を打ち消すためのバランスシャフトが不要となります。これにより、燃費性能とエンジンレスポンスに優れた、軽量かつコンパクトなエンジンが実現可能になるのです。

開発・製造ではすでに、搭載車種の拡大、市場展開の拡大、排出ガス規制強化への対応、原価低減など、次なる課題に取り組んでいます。世界各国で環境対応のハードルが年々高まるなか、スバルの「環境と走りの融合」に対する追求は続きます。



### 「ディーゼルエンジン」とは

燃料である軽油を燃やしてパワーを生み出す、という工程はガソリンエンジンと同じですが、燃焼させる仕組みが異なります。低燃費で、CO<sub>2</sub>排出量が少ないことが特長です。

#### ①低燃費

ガソリンエンジンより15~20%ほど燃費がよくなります。異常燃焼のないように圧縮比を高くするので、燃料から大きなエネルギーを取り出すことができますし、空気を吸入するときの無駄な動きも少なく、効率よくエネルギーを使うことができます。

#### ②低排出ガス

熱効率が高いので、CO<sub>2</sub>の排出量が少なく、燃料噴射を精密にコントロールする技術や、排気ガスを浄化する技術が飛躍的に向上したことで、すすの原因となる物質の発生を抑えることができるようになるなど、大幅に改善されています。

#### ③低振動、低騒音

燃焼時の爆発の圧力が高いので、ガソリンエンジンより大きなトルクが得られる一方、振動や騒音は大きくなりがちです。しかし、ボクサーディーゼルの水平対向の機構上、ピストンの動きによる振動や騒音は抑えられます。

当社の水平対向ディーゼルエンジンが、第6回新機械振興賞<sup>※1</sup>の機械振興協会会長賞を受賞しました。量産乗用車用では初の水平対向ディーゼルエンジンであること、低振動・低騒音、環境性能、走る楽しさなどのあらゆる側面において欧州市場の要望に役立っていることが評価されました。



※1 新機械振興賞  
財団法人機械振興協会が主催する賞で、機械工業にかかわる優秀な研究開発と実用化を表彰するもの。

# クリーンなエネルギーを生み出す 風力発電システム

## 日本に適した大型風力発電システムの開発へ

地球温暖化の原因としてあげられる、温室効果ガスの削減が求められています。日本はエネルギー資源の大部分を輸入に頼っているため、早急に低炭素社会の実現に取り組む必要があります。そこで注目されているのが、再生可能な自然エネルギーの利用であり、その代表格として風力発電の利用拡大が期待されているのです。

しかし、風力発電には数多くの課題もあります。時々刻々と変化する風から発電する不安定さへの対応、台風・落雷・地震といった日本独特の厳しい自然環境などに対応しなければなりません。このような課題を解決したうえで、安定的かつ効果的に発電を行う、日本に適した大型風力発電システムの開発が求められていました。これに応じて当社では、ダウンウインド方式とフリーヨー効果の特長をそなえた大型風力発電システムを開発しました。



SUBARU80/2.0風力発電システム

## スバルが誇る実績と、技術開発による環境貢献

スバルでは、2007年度までに40kW級風力発電システム「SUBARU15/40」を15基、100kW級の「SUBARU22/100」を5基、2,000kW級の「SUBARU80/2.0」を2基、納入してきました。

この間、2002年の1月には、スバル小型風力発電システムが「第6回新エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」（財団法人新エネルギー財団）を受賞、また2006年11月には、大型風力発電システムが「第11回新エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」を受賞するなど、ダウンウインド方式に代表される独自の技術が高く評価されています。

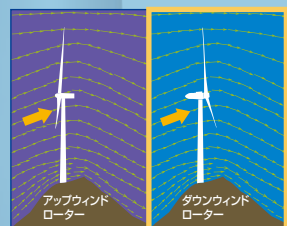
2009年度には、40kW級風力発電システム1基と、2,000kW級風力発電システム数基の納入が予定されています。

スバルは、風力発電を通じて地球温暖化問題解決に貢献すべく、これからも普及に努めるとともに、たゆまぬ技術開発にチャレンジしていきます。

## 当社の大型風力発電システムの特長

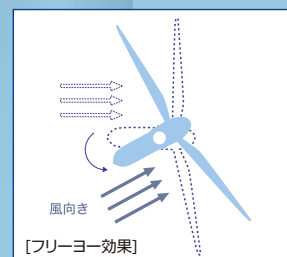
### 【ダウンウインド方式】

ダウンウインド方式とは、吹き上げ風の多い土地でも効率よく風の力を吸収するために風下にローターをつける方式です。一般的な風力発電では風上にローターをつけますが、スバルでは、山岳や丘陵などの立体地形が多い日本にマッチした風車をつくるために、この方式を採用しました。



### 【フリーヨー効果】

ダウンウインド風車には、風見鶏のようにローターを自然と風下に向ける、「フリーヨー効果」があります。これにより、暴風雨などの場合には自然と風を受け流すことができるようになり、安全が確保されています。



快適・信頼の新しいスバルの走り

# スバルの7シーター「エクシーガ」が 目指したものの



レガシィ、インプレッサ、フォレスターと、スバルではその時代の市場動向やお客さまのニーズに合わせて新車開発に取り組んできました。今回の「エクシーガ」も、市場やお客さまはもちろん、社内からも声の多かった「スバルならではの多人数乗用車」として、環境・安全性能を維持しつつ、エクシーガならではの“室内環境”を実現しました。

## 「7シーターパノラマツーリング」がもたらした安全・環境・走りの新しい可能性

### 室内環境と走行性能を両立させる

国内市場における多人数乗用車のカテゴリーは、多様化しながら拡大しており、現在では約25%のシェアを占めるほどになりました。当社においても、市場やお客さまからスバルの多人数乗用車を望む声があがっていました。そこでより多くのお客さまに選んでもらえるよう、スバルらしい特長を持った多人数乗用車の開発に着手しました。

スバル車の特長は、水平対向エンジン[SUBARU BOXER]が生み出す重量バランスに優れた走行性能です。低重心でコンパクトなエンジンだからこそ、安定性とスポーティな走りを生み出します。このスバルらしさを活かしたまま、快適な室内環境を両立させることをポイントとし、結果「7シーターパノラマツーリング」という開発コンセプトが生まれました。会話や移りゆく景色を愉しみながら全乗員がくつろげる室内環境と、誰もが運転できる扱いやすさ、走行

性能を兼ね備えた自動車。「フロントシートからセカンド、サードシートまでしっかりコミュニケーションがとれること」、そして何より「ドライブ自体が楽しいと思えること」を重視しました。

しかし、私たち開発部門が目指す多人数乗用車の室内環境は、走行性能と相反するものです。十分な室内をつくり出すには、車体を四角く高くするのが効率的ですが、そうすると重心が上がってしまい、スバルらしい安定性、操縦性が実現できません。

そこで採用したのが、映画館のシートのようにフロントシートからセカンド、サードシートと着座位置が段々と高くなる「シアターシートレイアウト」。これならどの席に座っていても360°爽快なパノラマビューを愉しむことができます。

技術的には、新開発サスペンションを搭載したSI-シャシー<sup>\*1</sup>を採用したことで、ハンドリング、乗り心地、スペースをバランスよく確保し、従来の7シーターとは一線を画す室内を実現しました。



スバル商品企画本部  
主査  
佐々木 啓

スバル技術本部  
車両研究実験総括部  
主査  
香川 穰

スバル商品企画本部  
プロジェクトゼネラルマネージャー(当時)  
大雲 浩哉  
(現 HEV開発部長)

## 乗る人すべてが安心できる トップレベルの安全性能

ただし、走りを愉しむだけではなく、安全に配慮しなくては、スバルがアシーガをつくる意味がありません。スバルとしては、「走る、曲がる、止まる」という車の基本性能を極めることこそ、安全性につながっていくと考えています。

ひとつは、アクティブセーフティ(衝突を避けるための安全性能)。運転ミスを防ぐと同時に、いざというときに危険回避できるようにクルマの走行性能を磨くことで、「快適で疲れない」「集中力が維持できる」状態を生み出します。低重心で重量バランスに優れた水平対向エンジン[SUBARU BOXER]と、左右対称の設計がもたらす「SYMMETRICAL AWD」、さらにSIシャシーなどにより、優れた走行安定性と素直なハンドリングを実現。ブレーキシステムとともに、いざというときの高度な危険回避性能をレベルアップさせました。

また、運転時の視界設計は、開放的な見晴らしを確保するとともに、クルマの安全性にもつながっています。右左折時にフロントピラーやドアミラーが視界の妨げにならないよう、最適な位置に配置しています。また、後方視界の見晴らしも確保するために、窓の大きさやシートの形状を工夫して設置。現時点で、エクシーガがスバル車最高の視界を提供しています。

もうひとつは、パッシブセーフティ(万が一衝突したときに乗員を衝撃から守る安全性)。昨年インプレッサでグランプリを受賞した自動車の総合安全性能を評価する「自動車アセスメント」で、今年もエクシーガが優秀賞を獲得することができました。インプレッサ同様にしっかり衝撃を吸収するフレーム構造を採用し、前面衝突吸収に有利な水平対向エンジン[SUBARU BOXER]はもちろん、新たに開発したフロントシートからセカンド、サードシート乗員の頭部を保護するためのカーテンエアバッグにもこだわった点が評価されました。これらの安全性に対する努力が認められ、光栄な限りです。

## スバルの走りの追求は、 地球環境への配慮にもつながる

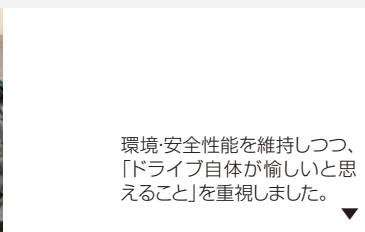
クルマをつくる会社として、地球環境への配慮は絶対条件です。エクシーガにおいても、力強い走りや燃費性能、排出ガス低減を両立させる取り組みを積極的に行ってきました。ステアリングを電動制御する「電動パワーステアリング」を採用し、クラストップレベルの燃費性能を実現。全グレードで排出ガス基準、燃費基準をクリアしており、自動車グリーン税制の優遇措置を適用しています。これらも地道に一つひとつの部品を、強度や構成を捉えながら軽量化してきた結果です。

また、意識して運転するかどうかで燃費も変わってきます。エクシーガには、低燃費走行のものさしともいえる「ECOゲージ<sup>※2</sup>」、シチュエーションに合わせて走行モードを切り替えられる「SIドライブ<sup>※3</sup>」、ボタンひとつで燃費効率のよいECOモードに切り替えられる「Info-ECOモード<sup>※4</sup>」など、さまざまな仕掛けによって、お客さまに燃費を意識していただく工夫を施しています。

## 楽しさ、安全性、環境への追求に 終わりはない

エクシーガにかけてきたさまざまな開発へのこだわり、想いが、2008年11月日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞「MOST FUN」受賞という形で実を結びました。ドライバーだけでなく、7人乗り乗用車では難しかったセカンド、サードシートの同乗者全員でドライブの楽しさを共有できる点が評価されたものです。開発者としては一番欲しかった賞であり、非常にうれしいことです。

安全かつ快適な環境が整っているからこそ、どこかへドライブしたくなる。出かけた先で新しい発見に出会うことができる。エクシーガには、ドライブを愉しむ要素がたくさん詰まっています。2009年4月からの高速道路料金値下げにより、今まで以上にご家族の外出機会が増えれば、エクシーガのよさをより伝えることができるはず。私たち開発部門は、今後ともエクシーガの楽しさ、安全、環境の進化を追求し続けていきます。



環境・安全性能を維持しつつ、「ドライブ自体が楽しいと思えること」を重視しました。

▲ 水平対向エンジン[SUBARU BOXER]は、バランスの取れた走行性能を可能にするとともに、前面衝撃時に足下へエンジンが降下しやすい構造を実現しました。



▲ 広大なガラスエリアとシートレイアウトにより、爽快な開放感を実現。  
◀ 頭上から足元まで広い開口部により、サードシートへの乗り降りもスムーズに。

※1 SI-シャシー (SUBARU Intelligent-Chassis) 優れた乗り心地と高い運動性能の両立を狙ったスバル独自の車台。

※2 ECOゲージ ドライバーにエコドライブ状態を知らせるメーター。

※3 SI-ドライブ 使う人やドライビングのシーンに応じて3種類の性能を使い分けすることができるシステム。

※4 Info-ECOモード 各種の制御を行うことで燃費を向上させるATのモード。燃料消費率の良い走行時にECOランプが点灯して知らせる。

# 世界に向けて、地域に向けて 産業機器カンパニーと 社会とのかかわり

産業機器カンパニーは、「ロビン」ブランドの汎用エンジンとロビンエンジンを搭載した商品を、世界に向けて年間100万台以上提供し、グローバルに貢献しています。また、埼玉県を拠点とする企業としての社会貢献活動にも注力し、地域社会とのかかわりも大切にしています。

## 事業を通しての社会貢献

### 世界の人々のライフラインを支える「ロビンエンジン」

ロビンエンジンの活躍は日本にとどまることなく、酷暑や極寒、砂漠、水上など地球上のあらゆる場所、使用条件で活躍しています。まさに、人々の生活を支え続けてきたエンジンといえるでしょう。

例えば、農業や漁業、交通手段、発電機などの生活を支える重要なライフラインとして。スノーモービルや砂漠地帯で行われるラリーカートなどのレジャー機器として。そして「ランマー※1」「プレート※2」といった建設機器に搭載される耐久性抜群のエンジンとして。さまざまな使用場面が予想されるため、メンテナンスしやすく、しかも耐久性のあるものでなくてはなりません。つまり、人々の生活のために、「いつでもどこでも動いて当たり前」という高い品質が求められています。

当社では、エンジンを最適な状態でお使いいただきたいという観点から、販売前の仕様決定時に、技術者がお客さまのもとへお伺いして直接ご要望をお聞きします。これにより、エンジンの搭載状態や機器の使用環境を知り、新たな発見をしたり、お客さまの生の声を聞くことができます。これらは、日々の改善活動や新製品開発にとって、たいへん重要な情報です。

また、実際の機器での過酷な試験も欠かせません。当社では、エンジンメーカーとしてはめずらしいランマー専用試験室・プレート専用試験室まで設けています。

このように、30

技術部 開発課 課長  
柿崎 敬一



### EH72FI 電子燃料噴射システム(FIシステム)の採用により、Vツインエンジンの高性能化を実現

- 吸気流量を上げたことにより高出力を可能としつつ、エンジン回転や負荷の変化に応じた燃料供給を最適化し、1年間で約500ℓの燃費節約を実現
- FIシステムにより、エンジン回転や負荷の変化を検知し、最適な燃料供給を実現
- 大気圧に応じた最適な燃料供給を実現
- 米国CARB TierⅢ規制値※3に対し、余裕のある排ガス値を実現



※1 ランマー  
建築・土木の作業現場において衝撃を与えて土を締め固める機械。主に管工事や道路の舗装面の部分的な掘削など局所的な締め固めに用いる。

※2 プレート  
ランマーと同様に建築・土木の作業現場において土を締め固める機械であるが、ランマーより一度に加圧する面積が大きく、締め固めの回数も多い。主に路盤砕石の不陸整成やアスファルト舗装の仕上げに用いられる。

※3 米国CARB TierⅢ規制値  
世界で最も厳しいとされる、カリフォルニア大気資源局の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス規制の第3段階。225cc以上のTierⅢ規制は、2008年から開始され、規制値はCO:549g/kW・h、HC+NOx:8.0g/kW・h。



#### 【世界中で活躍しています】

- 建設現場の激しい振動や粉じんにも持ちこたえます
- レジャースポーツにも優れた排ガス性能が評価されています
- 電気が通っていないところの生活を支えています
- 冬の豪雪地帯に除雪機は欠かせません

年以上お客さまのニーズに応え続けてきた結果、現在2,000仕様以上の豊富なラインナップを取り揃えるまでに至りました。人々の生活を支え続けてきた実績が、現在の信頼につながっています。

事業の基盤は常に「世界中のお客さまの身近な生活を、より便利に、より豊かに、より楽しく」を実現する動力源の提供にあります。



## ■地域社会とのかかわりを通しての社会貢献

### ▶ 地域の一企業として社会貢献活動を広げる

埼玉製作所では、環境マネジメントシステムに基づいた「ピカピカたもとおまかせプログラム」により、約5年にわたり工場周辺の清掃活動を続けてきました。それに加え、有志の従業員が毎日路上に立ち、通学児童への交通指導も行っています。

これらの活動をより盛んにするため、昨年9月にボランティア表彰制度を導入しました。同制度は、自社で実施するボランティア活動に参加した従業員に対して、ポイントを付与し、ポイント取得数の高い職場を年1回表彰するものです。

その結果、埼玉製作所全体で社会貢献への関心が高まりました。例えば、埼玉工場付近のバス停に落ちているごみを従業員が自主的に拾うという効用も生み出しています。また、昨年12月には北本市立中丸小学校児童から、交通指導に対しての感謝の言葉が綴られた手紙をいただきました。このほか、今までの地道な活動をより広く理解していただくために、環境保全を意識した内容の工場見学や研修会などを実施しています。

2008年には、埼玉県から「埼玉県あったか子育て企業賞」奨励賞をいただきました。この賞は、仕事と子育てが両立

できる働きやすい職場環境づくりなどに取り組み、優れた成果を上げている企業・事業所を表彰する制度で、育児休業制度の利用実績や、中学生職場体験学習、さらに交通指導などに対し高い評価をいただきました。

北本市で事業を展開する企業として、今後も市や地域の繁栄を支える存在であり続けたいと思います。豊かな未来の実現のために、活動の場をより広げる努力を続けていきます。



小学生からいただいた感謝の手紙

総務部 主査グループ  
黒岡 光男



地域の清掃活動



交通指導

### Voice

総務部 総務課  
吉田 美瑞穂



### 温かい心の交流に感動

昨年、北本市立中丸小学校児童会主催の「ありがとう集会」に招待していただきました。同会は農業や読み聞かせなど、小学校を支える活動を続ける地域の方々を招いて、児童が感謝の気持ちを伝える催しです。招かれた私たちに気がついた児童たちは、「いつも道にいる人だ。毎日ありがとう」と笑顔で話しかけてくれました。児童たちのその天真爛漫な笑顔とお礼の手紙がとてもうれしくて、感動で胸がいっぱいになりました。



工場見学会

地域貢献活動の一環として、小中学生を対象にエコ見学を実施しています。設備課としては、研磨くず処理装置を通じて、環境への興味、理解を深めてもらう活動を行っています。

研磨くずとは、エンジン加工の際に発生する鉄くずです。従来は廃棄物として費用をかけ処分していましたが、2007年7月の処理装置導入を機に、含水率の高い研磨くずを圧縮し固化。鉄筋の原材料として有償化できるようになりました。以前は毎年100トン近くあった研磨くずが、2008年に

### エコ見学を通して、ゼロエミッション活動を伝える



廃棄物削減と収益向上の両方を担う研磨くず処理装置

は58.8トン、2009年には5.1トンへと大幅な削減に成功しました。再資源化と廃棄物削減への取り組み、つまりゼロエミッション活動という視点からも具体的成果が出せたといえ、また、会社の収益向上にもつながっています。

今後は、研磨くずとならぶ埼玉製作所二大廃棄物のひとつである、廃液(含油廃水)削減への取り組みを強化していきます。ゴミを出さない、エネルギーを使わない、そんなクリーンな工場を強く意識し、地域社会と共存していくことが、私たちの使命だと思っています。



生産技術部 設備課 課長 関根 英次  
生産技術部 設備課 当繕係 係長 長島 勝利



## 企業理念

スバルのモノづくりの思想は、前身である中島飛行機時代から受け継がれてきた航空機づくりの伝統の上に築かれています。航空機設計の基本思想である「最高の性能の追求」とそれを実現する「凝縮された無駄のないパッケージ」、さらに「あらゆる環境下での安全思想の徹底」がスバルのDNAです。こうした伝統を大切にしながら新たな価値創造にチャレンジし、環境問題やコンプライアンスなどへも積極的に取り組み、社会との共生・調和を念頭におき、お客さまをはじめとするすべてのステークホルダーの皆さまの満足と信頼を得られる企業を目指します。

- ① 私たちは常に先進の技術の創造に努め、お客さまに喜ばれる高品質で個性のある商品を提供します。
- ② 私たちは常に人・社会・環境の調和を目指し、豊かな社会づくりに貢献します。
- ③ 私たちは常に未来を見つめ国際的な視野に立ち、進取の気性に富んだ活力ある企業を目指します。

## 企業行動規範

当社では企業理念に基づいた事業活動の実践に向けて、コンプライアンスを順守し社会的責任を果たしながら行動していくための企業行動規範を定めています。社員一人ひとりがお互いを尊重しながら、この企業行動規範を尊び同じ価値観で行動することを通じて、豊かな社会づくりに貢献し、すべてのステークホルダーに信頼される企業となるべく努力を続けてまいります。

- ① 私たちは、環境と安全に十分配慮して行動するとともに、創造的な商品とサービスを開発、提供します。
- ② 私たちは、一人ひとりの人権と個性を尊重します。
- ③ 私たちは、社会との調和を図り、豊かな社会づくりに貢献します。
- ④ 私たちは、社会的規範を順守し、公明かつ公正に行動します。
- ⑤ 私たちは、国際的な視野に立ち、国際社会との調和を図るよう努めます。



## スバルのありたい姿

### 「存在感と魅力ある企業」を目指して

当社は「存在感と魅力ある企業」というありたい姿に向かって、2007年度から2010年度の中期経営計画を策定し、取り組みを進めています。この中期経営計画では、技術重視に偏りがちであった当社の社内基軸を、原点である「お客さま第一」に立ち返り、見直しています。

商品面では水平対向エンジン搭載車をコア領域として、ドライバーのみならず同乗者全員が楽しめる「新しい走り」と「地球温暖化防止などの環境問題」の対応を可能とする技術開発を進めます。

また、これまで以上にお客さまのご要望を商品に反映させる体制や国内外の販売・サービスの体制を充実させるとともに、トヨタグループとの協業を活用し、国内での新型車生産設備、既存設備の合理化・省力化、国内スバル車販売網の再編および環境対応ならびにコスト低減などを主体とした構造改革による体質改善に取り組むことにより、お客さま満足度の向上とスバルブランドを強化し、「存在感と魅力ある企業」、「社会的責任を全うする企業」の実現を図っていきます。

さらに、「新三つの尺度」\*1をベースに社内およびグループ全体での議論を活性化しながら、教育をはじめとする人材育成に力をいれ、継続的な発展の源である企業活力を醸成していきます。

こうした活動を一步一步着実に推進して、未来に向けて進化を続けることにより、すべての事業領域において従業員が誇りを持って働く企業の模範となると同時に、全世界のお客さまに支持されるブランドを築いていくことが私たちの夢であり願いです。

## CSR方針

### 富士重工業グループの使命

お客さまに喜んでいただけるモノづくり企業として、企業組織レベルの取り組み要件である「企業行動規範や重要項目の尊重を主体とした守りのCSR」と「企業市民として事業活動を通じて社会課題の解決に寄与することを主体とした攻めのCSR」をより明確にするため、CSR・環境委員会の承認を経てCSR方針を改定しました。

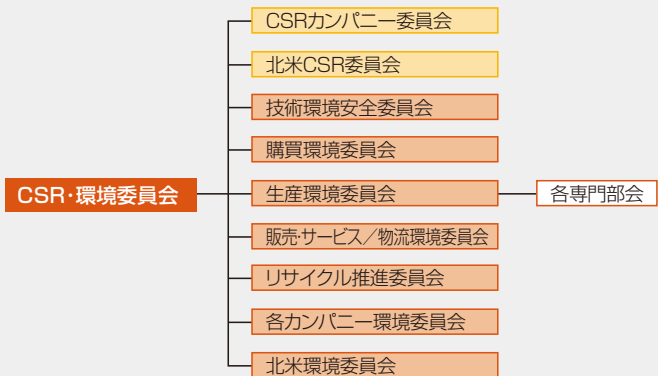
#### 「CSR方針」(2009年6月改定)

1. 私たちは、富士重工業の企業行動規範に基づき、法令、人権、国際行動規範、ステークホルダーの権利およびモラルを尊重します。
2. 私たちは、企業市民として、現代社会が抱える世の中の社会問題の改善に向けて取り組みます。

私たちのCSR活動は、さまざまなステークホルダーとのかかわりに重点を置くとともに、グローバルな事業活動を通じて社会の持続的発展に貢献することが、富士重工業グループの使命と考えています。

\*1 新三つの尺度  
「お客さまのためになるか」  
「グループの発展に役立つか」  
「従業員の成長に役立つか」の三つの判断尺度。

◆CSR・環境委員会体制図



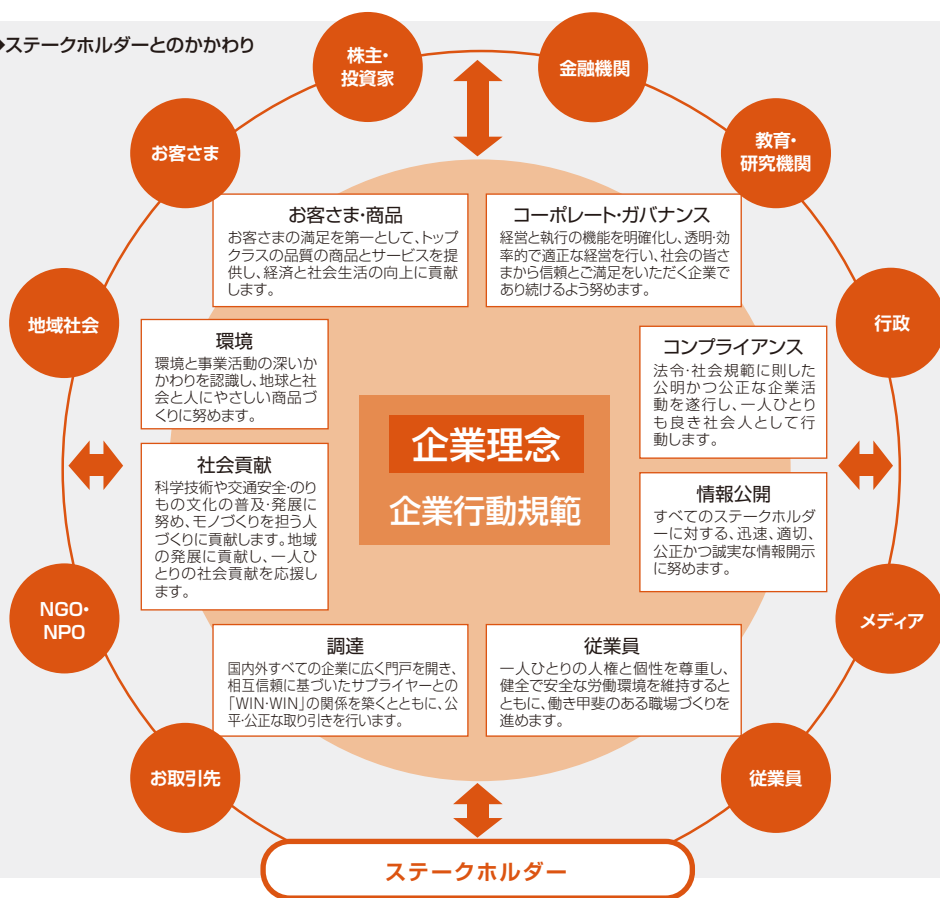
## CSR経営

### ステークホルダーの皆さまから信頼される企業を目指して

2007年2月28日に公表した2007年度から2010年度の4年間を対象とした中期経営計画の経営ビジョンのひとつとして「社会的責任

を全うする企業」を掲げました。これは、当社の長期ビジョンである「存在感と魅力ある企業」を実現するための必要不可欠な基本事項で、「すべてはお客様のために」という基本方針と併せて、さまざまなステークホルダーの皆さまから信頼される企業を目指して持続的な社会発展へ貢献するとともに企業価値の向上を図っていきます。

◆ステークホルダーとのかかわり



※1 CSR推進体制図についてはP24をご覧ください。

## CSR推進体制<sup>※1</sup>と運営

### 計画的なCSR活動を推進

当社ではCSR活動を推進するため、経営トップによる全社的な委員会組織として「CSR・環境委員会」を設置し、CSR活動に関する審議・協議・決定・情報交換を実施しています。2008年度は5月29日、12月10日と2回開催しました。また、

製作所、事業所、本社においては、CSR方針に基づくCSR活動計画を毎年度策定、実行し、計画的な自主活動を進めています。



CSR・環境委員会の模様

## 2008年度の活動振り返りと 2009年度の計画

### 体系的なCSR活動の定着

2006年から組織的な対応を開始、現状・課題把握、活動整理・立ち上げ、活動推進、活動定着の4つのフェーズに分けてCSR活動を進めています。

#### (1)2008年度の取り組み

2007年度に制定した全社共通のCSR活動項目である3つの柱(「環境活動、交通安全活動、地域貢献活動」)をベースに、各製作所、事業所、本社においてCSR活動計画書を作成し、CSR・環境委員会における審議を踏まえ、PDCAによるマネジメントを推進しました。

また、2008年9月に北米環境委員会対象企業(5社)<sup>※1</sup>に富士重工業のCSRの取り組み方針、共通活動項目(環境・交通安全・地域貢献)、PDCAマネジメントを展開、北米CSR委員会活動を立ち上げてグローバルなCSR活動の推進を開始しました。

さらに、企業活動全般に対する企業の社会的責任の重要性の高まり、環境問題に代表される

世界的な課題への的確な対処、ISO26000SR (Social Responsibility)ガイドラインに代表されるCSR活動に対する指針などのさまざまな社外の動向、ステークホルダーのご意見やこれまで継続的に実施してきた社内アンケート結果を参考に、カンパニーCSR委員会での検討を重ね、CSR方針の見直し検討を実施しました。



北米CSR委員会の模様

#### (2)2009年度の取り組み

企業活動全般に対する企業の社会的責任に対する重要性の高まり、環境問題に代表される世界的な課題への的確な対処、CSR活動に対する指針などを踏まえてCSR方針を改定しました。

このCSR方針の改定により、お客さまに喜んでいただける製品・サービスを継続的に提供するモノづくり企業の基本要件である「守りのCSRと攻めのCSR」を企業レベルの取り組みとして明確にするとともに、「環境活動、交通安全活動、地域貢献活動」の3つの柱を全社共通の個人レベルの取り組みとして位置づけて、体系的なCSR活動の定着とレベルアップをグループ、グローバルに推進していきます。

※1 北米環境委員会対象企業  
SIA、SOA、SCI、RMI、SRD

#### ◆スバルグループCSR活動の3つの柱

共通活動項目	考え方	具体的内容
環境活動	事業活動のみならず日常生活における環境影響を理解できるところから推進を図る。家庭における地球温暖化対策推進として省エネルギー活動の啓発推進を図る。	チーム・マイナス6%への参加、家庭における環境活動推進、グループ企業の取り組み推進
交通安全活動	輸送機器メーカーとしての責任を強く認識して世の中の交通事故削減のために努力する。交通違反と交通事故(加害)ゼロに努める。	安全運転教室の実施、自治体との連携、公共交通機関の利用推進
地域貢献活動	事業活動を行ううえで重要なパートナーである地域社会への貢献に努める。	事業所周辺清掃、自治体との連携、地域イベント支援

#### ◆CSR活動計画

フェーズ	現状・課題把握	活動整理・立ち上げ	活動推進	活動定着
年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
課題項目	従業員個々の行動がCSRに結びついているという意識を高めること	①人事新任管理職研修へCSR講義の組み込みを図った ②グループの取り組み推進の一環として北米関連企業にスバルのCSR概念を紹介した ③EMSの仕組みを活用したCSR活動の推進を試行した(本社)	①各製作所で実施している階層別教育等への一部展開を図った ②北米関連企業において北米CSR委員会を立ち上げ、体系的な推進を図った ③スバルグループ共通の活動項目を策定して展開を進めた ④世間におけるCSR活動の高まりを踏まえてCSR方針の改定を検討	①世の中におけるCSRの動向などを踏まえてCSR方針を改定した ②改定したCSR方針の周知、徹底 ③人事主事研修へCSR講義を実施予定 ④北米CSR委員会のレベルアップを図る ⑤CSRボランティアプランの検討を進める
	CSRに関する情報の共有、調整、展開、集約を効率的かつ合理的に行う仕組みの構築	①CSR委員会と環境総合委員会を統合したCSR・環境委員会を設置し、EMSに加えてCSRに関するもトップマネジメントを開始した ②各製作所に代表者を設置して全社横断的組織を構築した ③全社のCSR活動の棚卸しと活動計画の策定を実施した	①CSR・環境委員会においてCSRおよびEMSのトップマネジメントの徹底を図った ②製作所の代表者による全社横断的組織の活性化を図った ③スバルグループ共通のCSR活動の3つの柱を主体とした各製作所のCSR活動の推進を図った	①CSR・環境委員会の定期開催によりCSRおよびEMSマネジメントのレベルアップを図る ②各製作所におけるCSR活動の理解、浸透を図る ③スバルグループ共通のCSR活動の3つの柱に基づいた活動の定着を図る

# コーポレート・ガバナンス ステークホルダーの皆さまの 満足と信頼を得るために

## 基本的な考え方

当社は企業理念に基づき、株主、お客さまをはじめとするすべてのステークホルダーの皆さまの満足と信頼を得るべく、コーポレート・ガバナンスの強化を経営の重要課題として取り組んでいます。

## コーポレート・ガバナンス体制

### 体制の一層の強化を図ります

1999年6月、執行役員制を採用し各事業の管理執行責任を明確にしました。

また、2003年6月から取締役・執行役員の任期を2年から1年に短縮し、2004年6月には取締役会<sup>※1</sup>の決議に基づき、役員候補者の選定を行う役員指名会議と、同じく役員の報酬、業績考課などの決定を行う役員報酬会議を設置しています。

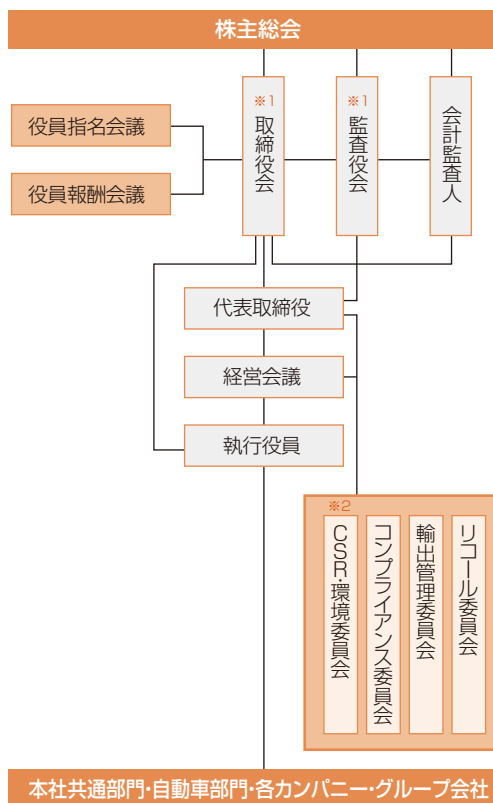
これらの諸施策により、経営と執行の機能を明確にし、意思決定の迅速化を図り、効率的な経営を目指しています。一方、監査役会は監査役4名<sup>※1</sup>により構成され、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議を行っています。今後は、監査体制の一層の強化を図るとともに、経営の透明性を高めるために公正かつタイムリーな情報開示を実施していきます。

## 内部統制システム構築

### グループ全体のシステム構築を完了

内部統制は、企業目的を達成するために欠かせない仕組みであり、経営者には、内部統制を構築するとともにその有効性と効率性を維持する責任があります。具体的には、各事業の横串機能を担う戦略本部を中心とした全社共通部門が各部門、カンパニーと密接に連携して、リスク

## ◆コーポレート・ガバナンス体制



管理の強化を図っています。また、監査部が各部門およびグループ各社の業務遂行について計画的に監査を実施しています。さらに、当社では、内部統制システムの整備に資するため、リスク管理の最も基礎的な部分に位置づけられるコンプライアンスの体制・組織を整え、運用しています。

また、2007年2月15日に金融庁企業会計審議会から公表された「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準」に対応し、

1. 業務の有効性・効率性
2. 財務報告の信頼性
3. 事業活動にかかわる法令等の順守
4. 資産の保全

を図るため、グループ全体での内部統制システムの整備を継続的に強化しています。

※1  
取締役会は7名で構成されています。また、監査役会は4名で構成されていますが、社外監査役を2名おくことで経営の監視を客観的に行っています。(2009年6月24日現在)

※2  
2007年5月29日以降、CSR委員会と総合環境委員会を統合し、CSR・環境委員会として運営しています。

## リスクマネジメント

# リスクを把握し、継続的な事業活動を行います

### 基本的な考え方

リスク管理の基礎的な部分であるコンプライアンスの体制を整え、運用しています。また、グループ各社の業務遂行について計画的に監査を実施します。

### リスク管理

#### マニュアルをもとに、さまざまなリスクに対応しています

当社の事業活動に何らかの負(マイナス)の影響を与える不確定要素のことをリスクと考えますが、このリスクの中には、さまざまな種類の問題があります。

この中でも、とりわけ経営に重大な影響を及ぼすもので、かつ通常の意思決定ルートでは対処困難なほどに「緊急性」が求められるものを「クライシスリスク」とし、さらに自然災害、事故、内部人的要因、外部人的要因、社会的要因(国内・海外)、コンプライアンスリスクなどに分類しています。

そして緊急事態発生時は、各々の緊急事態ごとに対応したマニュアルをもとに、リスクの発生を知ってから情報の伝達経路、最適な方法を取り、これに対応しています。

### BCP<sup>※1</sup>の策定

#### 事業の継続推進に取り組んでいます

当社の業務にかかわる災害発生時における、事業継続の的確かつ迅速な実施により、お客さまへのサービスの低下、マーケットシェアの縮小、企業価値の喪失を回避することを目的とし、緊急事態の発生により、当社の事業リソース(人的・物的・金銭的)が損傷を受けた場合には、残存

する能力をもって優先される業務の中断を最小限のレベルに止め、被災前の操業(業務)レベルへの早急な復旧を図ることとします。

緊急事態対応の基本方針を次のように定め、各事業所単位でBCPを策定し、事業の継続推進に取り組んでいます。

- (1)生命・身体の安全を最優先とする。
- (2)ステークホルダー(利害関係者)の利益の喪失、および会社の価値の喪失を最小限とする。
- (3)緊急事態においても、常に誠実、公正、透明を基本とする。

#### スバル販売会社従業員の 不祥事に関するお詫び

去る2009年6月2日深夜に、スバル販売特約店である北陸スバル自動車株式会社の従業員が、酒気帯び状態での自動車運転による物損事故という不祥事をおこしました。交通安全、とりわけ飲酒運転撲滅に向けて役割を果たすべき自動車販売会社としてあってはならない行為であり、本件を厳粛に受け止めるとともにお客さまをはじめ皆さまにご心配、ご迷惑をおかけしたことに深くお詫び申し上げます。

北陸スバル自動車株式会社における経営トップの刷新を含めて、再発防止に向け、スバルグループ全体としてなお一層の努力をまいります。

※1 BCP  
Business  
Continuity Plan  
(事業継続計画)

# コンプライアンス

## CSR経営の基盤であり、重要課題のひとつ

### 基本的な考え方

当社の基本方針は、次のとおりです。

『当社は、コンプライアンスの実践を経営の重要課題の一つと位置づけ、全社的なコンプライアンスの徹底が当社の経営の基盤を成すことを強く認識し、企業活動上求められるあらゆる法令・社内諸規定等の順守はもとより、社会規範に則した公明かつ公正な企業活動を遂行する。』

### コンプライアンスの順守

#### 企業行動規範と行動ガイドライン

当社は、コンプライアンスを実践するための順守基準として、「企業行動規範」と「行動ガイドライン」を定めています。これらは全従業員が所持している「コンプライアンスマニュアル」で詳細に解説されており、日常の行動の中での徹底を図っています。

コンプライアンス  
マニュアル



### コンプライアンス体制と運営

#### コンプライアンス規程

当社は、2001年に、コンプライアンスに関する当社の体制・組織および運営方法を定めた基本規程として、「コンプライアンス規程」を取締役会の承認を経て制定しました。

### コンプライアンス体制・組織と運営

コンプライアンスを推進する全社的な委員会組織として、「コンプライアンス委員会」を設置し、重要なコンプライアンス事項に関する審議・協議・決定、情報交換などを行っています。また、各部門は、それぞれコンプライアンス推進のための実践計画(コンプライアンス・プログラム)を毎年度策定し、継続的・計画的な自主活動を進めています。

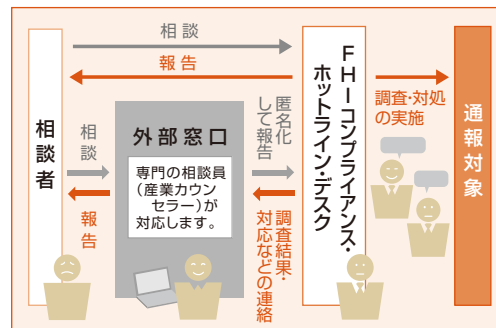
### コンプライアンス・ホットライン制度

当社およびグループ企業などで働く従業員などはグループ内のコンプライアンスに関する問題を発見した場合、上司を通じて解決する方法のほかに、「コンプライアンス・ホットライン」を利用して「ホットライン・デスク」に相談することができます。

「ホットライン・デスク」は、当社内に設置されており、規則に基づいて任命された従業員が、郵送・電話・Eメールによる通報を直接受け付け、事実調査や対応にあたります。通報者の所属・氏名は、通報者の同意がない限り厳格に秘匿され、通報したことにより不利益を受けることがないよう十分配慮されます。

2008年4月から、この制度に外部事業者による通報受付窓口を追加し、受付時間の拡大と通報者の氏名・所属の秘匿性強化を図るなど、さらに使いやすい制度とするよう努めています。

#### ◆コンプライアンス・ホットライン(相談・解決の流れ)



コンプライアンス・  
ホットラインカード

### 2008年度コンプライアンス活動実績概要

#### コンプライアンス教育、研修の実施

2008年度には、グループ企業の従業員を含めて約3,000人強が、法務部や人事・教育部門

の主催するコンプライアンス研修・実務法務研修に参加しました。2006年に導入した、身近な問題について受講者自身が考えて討議する形式の「ケーススタディ研修」には、約120人が参加してコンプライアンスの理解を深めました。また、各部門やグループ企業においても、それぞれの実践計画のもと、「コンプライアンス事例集100選」などのテキストを活用して、業務上重要な法令の勉強会やコンプライアンス啓発研修が開催されています。

また当社グループのコンプライアンスの実践を推進するために、グループ会社に対し教育・研修の実施や社内刊行物による情報提供を行うとともに、コンプライアンス・ホットラインへの門戸を広くすることにより、実効性を高めています。



コンプライアンス事例集100選



コンプライアンス研修

### 個人情報保護への取り組み

当社では、個人情報保護法施行に合わせて、社内体制や規程類を整備し、プライバシー・ポリシーを公表するなどの取り組みを行ってきました。特に、国内スバル販売特約店では、お客さま

の個人情報を直接かつ大量に取り扱うことから、特約店ごとに社内体制の整備を徹底するとともに、全特約店共通の「SUBARU特約店スタッフのための個人情報保護ハンドブック」を作成・活用し、従業員一人ひとりが個人情報保護に関して正しく理解するよう努めています。



SUBARU特約店スタッフのための個人情報保護ハンドブック

### グループコンプライアンスへの取り組み

コンプライアンスの徹底には、当社だけでなく、グループの企業全体が歩調を合わせて取り組む必要があります。このため、当社では、関係会社や国内スバル販売特約店で働く従業員向けにコンプライアンスハンドブックの作成・提供を行うとともに、コンプライアンス研修の講師として弁護士や当社従業員を派遣するなど、グループコンプライアンスの推進に取り組んでいます。



関連会社向けコンプライアンスハンドブック

## Voice



法務部  
久松 美喜子

### わかりやすい研修を意識して

「コンプライアンス」を言い換えると、「法令順守」となりますが、一般的に「法律」「法令」と聞くと、それだけで難しい、とっつきにくいという印象を持たれがちです。そこで私たちは、コンプライアンスに関する研修を行うときは、少しでも理解を深めてもらえるよう「わかりやすさ」「親しみやすさ」を意識しながら話をしたり、資料を作成しています。限られた時間の中で法令知識を習得・理解してもらうことは難しいことですが、受講者が納得した表情を見せてくれるとたいへんうれしいです。

すべてはお客さまのために

# 「お客さま第一」のさらなる向上を目指して

## 基本的な考え方

スバルでは、お客さまからのお問い合わせやご相談、ご要望、ご指摘をお聞きする窓口として「SUBARUお客様センター」(お客様相談部運営)を設置しています。電話やEメールなどによる対応が主となることから、お問い合わせやご相談に対しては「迅速・誠実・傾聴」を行動の基本として、的確な対応を心がけています。

## お客さまとのコミュニケーション

### お客さま相談部門の活動

スバルでは、お客さまからのお問い合わせやご相談、ご要望、ご指摘をお聞きする窓口として「SUBARUお客様センター」を設置しています。「迅速・誠実・傾聴」を行動の基本として、スピーディーかつ的確な対応を心がけています。

お客さまから寄せられた貴重な声は、関連部署へフィードバックさせていただき、品質改善や商品提案、販売・サービス面での改善に役立てています。

## SUBARUお客様センター

**SUBARUコール：0120-052215**

(内容確認のために録音させていただいております。予めご了承ください。)

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。

- (1)ご意見/ご感想/ご案内  
(カタログ、販売店、転居お手続き、ほか)
- (2)お問い合わせ/ご相談

受付時間 9:00~17:00(平日)  
9:00~12:00、13:00~17:00(土日祝)

お客さまの声はスバルへのご期待でもあり、コミュニケーションを大切にしながら、常にご満足いただけるよう真摯に対応を行ってまいります。

## CS推進部門の役割

スバル販売特約店を中心に、社内外を含めたスバルチーム全体に対して、お客さま満足度を高めるための支援・推進活動を行っています。「スバルお客さまアンケート」などで得られたお客さまのご意見を関連部署にフィードバックして、商品・品質・販売・アフターサービスなどに反映させるとともに、スバル特約店でのお客さま対応がよりよくなるよう現場改善への働きかけを行っています。

## 日本自動車セールス満足度(SS1)調査<sup>SM※1</sup>

第三者調査機関である株式会社J.D.パワーアジア・パシフィック社による2008年日本自動車セールス満足度(SS1)調査<sup>SM</sup>では、順位としては12社中7位ではあるものの、業界平均(594ポイント)を5ポイント上回り、国産上位のホンダ(600ポイント)、日産(600ポイント)にわ

### ◆お客さまからのご相談件数推移

年度	実績件数(件)	前年度比
2004	60,000	130%
2005	59,000	99.7%
2006	59,000	100%
2007	62,000	105%
2008	60,500	97.8%

## Voice

カスタマーセンター  
企画部  
西ヶ谷 豊



## 販売特約店スタッフとの協働

国内サービス体制推進グループのメンバーとして、特にアフターサービスにおける販売特約店のお客さま対応力強化を行っています。単にお出迎えや挨拶ができるということだけではなく、車検や点検の予約が取りやすいとか、予定時間内に作業がキッチリと完了するといった、お客さまにとって安心・安全・快適に車のメンテナンスを任せていただける体制づくりを目指し、販売特約店スタッフと一緒に改善活動に取り組んでいます。



ずかに1ポイント差に迫るスコア(599ポイント)となっています。これは全国統一の基本活動の徹底と個々の改善活動の成果と考えています。

## CS向上へのさらなる強化

2008年度から各地域で「CSエリアNo1」を達成することを目標に掲げ、チーム一丸となってCS向上に励んできました。2008年度からはお客さま満足度調査の内容を大幅に変更し、お客さまに満足いただけたかどうかの結果評価に加えて、お客さまがどのような対応を望まれているかが把握できる内容にしました。また6名の国内体制推進グループが、担当の販売特約店の現場に出向き、CS向上と業務改善に対するサポート・指導を行っています。

一方、海外販売特約店におけるCS向上についても、人員を増強し2名の専任チームによる活動を開始しました。国内で効果を上げているCS調査や現場診断手法、お客さまとのコミュニケーション施策などを現地市況にカスタマイズして導入していくとともに、海外市場での好事例も取り入れ、スバル国内外での教育の充実とCS向上を基軸としたチーム収益体制強化を推進していきます。

## スバルアカデミー

2005年1月に東京都八王子市にオープンした「スバルアカデミー」は、宿泊施設(133室)、4輪シャシーダイナモメーター<sup>※1</sup>、試走路や低μ路<sup>※2</sup>などの設備を備えた研修施設です。ここでは、販売特約店の営業スタッフからメカニックの全職種、また新人から経営幹部までの計画的な育成が可能な教育プログラムを実施しています。さらに国内に限らず、海外からも特約店経営者や販売・サービスの管理責任者・インストラクターを受け入れ、グローバルな視点での人材育成施策を提供しています。

2008年度には、営業系研修2,800人、メカニック研修1,800人を含めて合計5,500人が受講しました。

研修の成果を実践することで、お客さま第一のさらなる向上を図っていきます。



スバルアカデミー外観



実習室

## 販売店への教育、研修

富士重工業のスタッフが講師としてのスキルを磨き、販売店のすべての階層・職種を対象とした教育・研修(Off-JT)を実施しています。加えて、資格検定制度運営や、セールスコンテスト・サービス技術コンクールの主催など、最前線のOJT強化と販売店スタッフのさらなるスキルアップのための仕組みや学習素材を提供しています。

## 海外特約店などへの教育、研修

海外のチーフメカニックを対象とした各種研修、インストラクター養成のための研修実施と認定の仕組み確立に加えて、資格検定制度導入を強力に推進しています。

さらに、研修対象をマネージャークラスやセールス、サービスフロントなどに拡大する取り組みを展開中です。



海外取引先を対象にしたメカニック技術講習会  
[産業機器カンパニー]

※1 4輪シャシーダイナモメーター  
4輪を同時にローラーに載せることで、実走行と同じ状態を再現し、馬力や燃費、排出ガスなどを計測する装置。

※2 低μ路  
滑りやすい路面を再現した試走路。

## 高品質な製品の提供

### 品質方針

常にお客様の満足を第一に考え、仕事の質を高めて、トップクラスの品質の商品とサービスを提供する。

## 品質マネジメントシステム

スバルでは、各製作所において品質方針に基づき、品質マネジメントを推進しています。

1. 当社の品質方針ならびにISO9001規格に基づいた品質マネジメントシステム(QMS)を構築し、円滑かつ効果的に運用。
2. 企画段階でお客様に満足いただける品質目標を明確にする。
3. 開発から販売・サービスまでの各段階における品質保証活動により、品質目標を実現する。
4. 市場からのクレームと要望に迅速かつ的確に対処し、お客様の信頼に応える。

※1 ITS Intelligent Transport Systems (高度道路交通システム)  
最先端の情報通信や制御技術を使い、人と道路とクルマの間で情報の受発信を行い、交通事故や渋滞の解消、環境との共存を目指すシステム。

※2 ASV Advanced Safety Vehicle (先進安全自動車)  
先進技術を利用してドライバーの安全運転を支援するシステムを搭載した自動車。ASVプロジェクトは、国土交通省自動車交通局が推進する1期5年(第1期は1991年度～)のプロジェクトで、現在は第4期(2006年度～2010年度)。

※3 EyeSight  
2007年10月に当社が発表した「次世代ADA(アクティブドライビングアシスト)」。

※4  
2008年3月弊社調査時点。

### リコールへの対応

2008年度件数:4件

ホームページにて公開しています。

事故を未然に防止し、自動車ユーザーなどを保護することを目的として処置対応をしています。



リコールへの対応は  
当社ホームページをご覧ください。  
<http://www.fhi.co.jp/recall/>

## 安全なクルマづくり

### 基本的な考え方

スバルはクルマに乗るすべての人がさまざまなドライビングシーンで安心・快適な走りを愉しめることはもちろん、周りの環境や人々の安全

をも視野に入れたモビリティ社会全体の安全性向上を目指しています。そのためにスバルは起こりうる事故を多様に想定し、事故を未然に防ぐ「アクティブセーフティ技術」、万が一事故が発生した際に被害を最小限に抑える「パッシブセーフティ技術」などの車両安全技術の開発に取り組んでいます。さらに産官学が連携して進めているITS(高度道路交通システム)<sup>※1</sup>やASV(先進安全自動車)<sup>※2</sup>のプロジェクトにも積極的に参加しています。

## アクティブセーフティの取り組み

スバル独自の「シンメトリカル AWD」は、水平対向エンジンがもたらす低重心と、左右対称、一直線上に配置したパワートレインによる優れた重量バランスにより、さまざまなシーンで高い走行安定性を実現し、乗る人に安心で快適な走りを提供します。2008年5月に改良したレガシィには先進運転支援システム「EyeSight(アイサイト)」<sup>※3</sup>を搭載しました。「EyeSight」は、新型ステレオカメラと新開発3D画像処理エンジンによって、歩行者、自転車をも対象とした優れたプリクラッシュセーフティ(衝突被害軽減)を実現する運転支援システムです。世界初<sup>※4</sup>となる「渋滞時などの極低速時(15km/h未満)のプリクラッシュ制御」や「AT誤発進抑制制御」をはじめ、「車線逸脱警報」、「ふらつき警報」、「全車速追従機能付クルーズコントロール」などの機能を備えています。



## パッシブセーフティの取り組み

スバルは独自の安全ボディ「新環状力骨構造ボディ」により、全方位からの衝突に対し優れた

安全性能を有しています。また相手車両や歩行者のダメージ軽減につながるコンパチビリティ（共存）性能の確保など、総合的な衝突安全性能を目指しています。2008年度JNCAPに選定されたフォレスターおよびエクシーガはともに衝突安全性能試験（運転席・助手席）および歩行者頭部保護性能試験で高い評価を得て、2007年度にインプレッサが獲得した「自動車アセスメントグランプリ07/08」に続き、「自動車アセスメント優秀車08/09」※1を受賞しました。



提供:自動車事故対策機構(NASVA)



### ASV(先進安全自動車)への取り組み

スバルは、車両間の相互通信（車車間通信）、ならびに道路に設置されたセンサー等の路側インフラとの通信（路車間通信）を通じて、特に交差点における事故を防止する「インフラ協調型安全運転支援システム」を搭載した車両「スバルASV-4」を開発しました。この車両を用い、栃木地区および東京臨海副都心地区での公道実証実験、ならびに2009年2月の「ITS Safety2010」公開デモンストレーションに参加しました。今後、実用化に向け、さらなる検証を行うとともに、事故低減への効果について評価を進めていきます。



スバルASV-4

### 福祉車両への取り組み

#### 新発売の「エクシーガ」も トランスケアシリーズ※2の仲間入り

スバルでは、「クルマと生きる幸せを、すべての人とわかち合うこと」を目指して、身体が不自由な方やご高齢の方々にも安心して気持ちよくお乗りいただくために、福祉車両の開発・普及に努めています。

福祉車両の製造販売は1982年より開始し、現在は「トランスケアシリーズ」の名称でご愛顧いただいています。

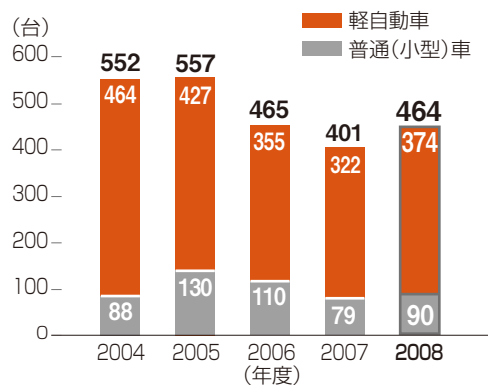
スバルでは、介護する方もされる方もストレスなく扱える省力装置を開発していくことを目指しています。

また、トランスケアシリーズは、「サンバー」「ステラ」などの軽自動車から、「フォレスター」、2008年に新発売した「エクシーガ」などの普通車まで、幅広い選択肢をご用意しています。なお、2008年度のトランスケアシリーズ販売台数は、軽自動車374台、普通車90台でした。



エクシーガ ウイングシートリフトタイプ

#### ◆トランスケアシリーズ販売台数



※1 自動車アセスメント (Japan New Car Assessment Program: JNCAP) 国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構 (NASVA) が自動車の安全性能を評価し、結果を公表する自動車の安全情報公開プログラム。衝突安全性能総合評価が、運転席および助手席ともに最高評価の6☆であり、かつ歩行者頭部保護性能評価についても最高評価のレベル5を受けたものを「自動車アセスメント優秀車」として表彰。

※2 トランスケア 英語の「Transportation トランスポートーション(移動)」と「Care ケア(介護、思いやり)」を組み合わせた造語で、スバルの福祉車両を総称するものとして1997年に商標登録しています。

# お取引先とともに 連繋を深め、ともに成長していきます

## 基本的な考え方

スバルは、企業理念の実現のため、高品質で環境にやさしくコストパフォーマンスに優れた部品や原材料、設備の調達を目指しています。そのためには、お取引先とスバルが対等な立場で相互に信頼し、切磋琢磨し、共存共栄できる関係をつくることが重要だと考えています。

## お取引先とのかかわり

### ■ 調達基本方針

スバルでは、以下の基本的な考え方のもと調達活動を推進しています。

#### 1) コンプライアンス&グリーン調達

私たちは、人・社会・環境の調和を目指した調達活動を行い、法令・社会規範の順守と環境保全に配慮した取引に努めます。

#### 2) ベストパートナーシップの構築

私たちは、信義誠実の原則に従った相互信頼の取引関係を基本として、お取引先と『WIN-WIN』の関係を築いていきます。

#### 3) フェアでオープンな調達先の選定

お取引先の選定にあたっては、国内外すべての企業に広く門戸を開き、常に公平・公正を期すとともに、品質・コスト・納入・技術開発・マネジメント・環境の6つの視点から最も優れた物品・サービスの調達に努めます。

## 適正取引の推進

当社では従来より、独占禁止法、下請代金支払遅延等防止法などの調達業務に関連した法令の順守に取り組んでいます。また、2007年6月に経済産業省が公表した『自動車産業適正取引ガイドライン』の適正取引推進活動も行っています。その一環として、当社のサプライチェーンのお取引先を対象とした相談窓口を設置しています。

## グリーン調達ガイドライン

当社では、2000年にグリーン調達ガイドラインを策定し運用してきましたが、2008年6月に最新の環境関連法規と社会のニーズに対応するため、グリーン調達ガイドラインを改定し、併せて、適用対象範囲を拡大しました。グリーン調達、さらにはスバルらしさと地球環境の融合に向けた取り組みに対してご理解とご協力をお願いしています。



グリーン調達ガイドライン



「適正取引推進相談窓口」、「グリーン調達ガイドライン」については、当社ホームページをご覧ください。  
<http://www.fhi.co.jp/csr/mecenas/supplier.html>

# 株主の皆さまとともに 株主の皆さまとの双方向コミュニケーション

## 基本的な考え方

スバルでは、株主の皆さまに積極的な情報開示を行っていくことにより、当社へのご理解を深めていただくよう努めています。

## 株主の皆さまとともに

### 株主・投資家の皆さまへの積極的な情報開示

当社のホームページには「株主・投資家の皆さまへ」のページを設けて、当社の最新IR情報を提供しています。また、ご登録いただいた皆さまに決算情報などのIRに関する新着情報をメールにてお届けするIRメール配信(無料)には、現在560名余りの方が登録されています。さらに携帯電話向けIRサイトも開設しています。

また、当社のIRサイトは、大和インベスターズ・リレーションが主催する「2008年インターネットIR」(対象企業約2,000社)で2年連続で「業種別ベスト企業」に選ばれたほか、ゴメスコンサルティングのIRサイト2009(対象企業約4,000社)でも10位にランクインしました。



最新IR情報は当社ホームページをご覧ください。  
<http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>



事業報告書



ホームページ

## 株主さま工場見学会の開催

株主さまを対象とした「株主さま工場見学会」を、年1回実施しております。この見学会は株主の皆さまに、当社生産活動の生きた現場をご覧いただき、当社の企業方針や日頃の生産活動に対するご理解を深めていただくことを目的としています。

工場見学会後には、株主さまから貴重なご意見を承るために、質疑応答の時間を設けています。ここでは当社役員とのコミュニケーションを図っていただくとともに、いただいたご意見は今後の当社の課題として、社内で検討し改善に役立てていきます。

### 株主の皆さまからのアンケート結果

- ・スバルブランドのお世話になって46年になります。工場見学は夢でしたが、感動的でビューティフルでした。ありがとう
- ・クリーンで快適な工場というイメージどおり、非常に良く整理整頓してありました
- ・女性の私でもよくわかり、有意義でした
- ・混流生産であるのを知り驚きました
- ・説明場所以外の所でゆっくり工程を見られないのが残念でした
- ・工場内ライン見学の際は、ポイントごとに展示パネルで作業内容を説明してほしい



ビジターセンター見学



当社役員による説明会

## 従業員とともに

# 一人ひとりが働きやすい、 よりよい職場環境を目指して

### 基本的な考え方

スバルでは、「自由闊達でアグレッシブな創造集団」を目指して、企業風土の改革に取り組んでいます。個性豊かな活力ある組織を目指し、賃金制度のみならずキャリアプランを描く制度、教育制度、さらには福利厚生制度に至る幅広い視点から、従業員が今まで以上に果敢にチャレンジできる仕組みを構築しています。

### 人材育成

#### 「やる気に満ちた自立型人材」の実現を目指して

「自ら問題を発見し解決に向け行動できる人材」の育成を通じて、当社が求める人材像である「やる気に満ちた自立型人材」の実現を目指しています。

- 一般従業員向け研修に「問題解決を軸にしたカリキュラム」を導入しました。
- 職制向け研修では、リーダーシップ・経営意識などの向上により自身のレベルアップが図れるものを目指します。
- 「人材育成の風土づくり」を目指して、従業員本人の能力開発・自己啓発の意識向上のための支援を行っています。

### 仕事と家庭との両立を支援

#### 「産休・育休ハンドブック」を発行

従業員が個々の能力を存分に発揮していった

めには、仕事と家庭との両立を支援し、働きやすい環境を整備することが重要と考えています。具体的には、子どもが3歳の誕生日を迎えるまで延長できる育児休業制度や、子どもが小学校に入学するまでの間は短時間勤務ができる制度を導入し、子どもを養育している従業員が働きやすい環境の整備を進めてきました。その結果、2007年に次世代育成支援対策推進法(次世代法)による基準適合一般事業主として、東京労働局長の認定を受けています。

また、次世代法による自主的取り組みとしての第二次行動計画(2007~2009年度)を策定し、就業規則への母性保護の規定化や、育児短時間勤務の対象者の見直しなど、いろいろな制度を従業員がより使いやすくてするための取り組みを進めています。

2008年度には、育児短時間勤務の対象範囲を「小学校4年生始期までの子を養育する従業員」とする(従来は小学校1年生始期まで)ことなどを定めて、2009年4月に『産休・育休ハンドブック』を発行しました。



産休・育休ハンドブック

## Voice

人事部 採用担当  
内田 敦弘



### キーワードは「自立」と「自分らしさ」

当社の求める人材像は、「自立」と「自分らしさ」を併せ持っている人材です。当社ではこの2つを仕事に楽しさとやりがいを持つために必要不可欠な能力だと考えています。具体的には「自分で問題を発見し、解決策を見つけ、求める結果を出すことに優れた人材」です。最初からすべてがそろってなくても構いません。磨いていく意志のある方、明るく前向きで、新しいことにも果敢に挑戦するチャレンジスピリットをお持ちの方と一緒に仕事をしたいと思っています。

今後も、仕事と育児や家族介護などのバランスを図りやすい、よりよい職場環境づくりに向け、ワークライフ・バランスの取り組みを推進していきます。



取得した次世代育成支援対策推進法認定マーク

## 公的資格取得への支援

### 自己啓発支援を強化

業務遂行を通じた職場での育成指導におけるOJT(On-the-Job Training)や社内研修などOff-JT(Off-the-Job Training)のほかに、自己成長したいと願う従業員一人ひとりの多様なニーズに応え、また会社が発展し続けることができるように、企業の総合力を結集し、積極的に個人の自己啓発支援を進めています。

2007年度から当社では、会社が指定する公的資格の取得を目的とした受験費用やセミナー受講費などが、カフェテリアプラン型福利厚生制度「マイビジョン」による会社補助の対象に加わりました。今後も従業員のニーズに応じた、発展性ある福利厚生制度を通じて一人ひとりの夢実現に向けて支援していきます。

#### ◆カフェテリアプラン型福利厚生制度「マイビジョン」一覧

カテゴリー	会社補助内容
自己啓発	選択型社内集合研修や社内通信教育、当社指定公的資格の講習・取得、各種スクールなど
生活支援	介護(介護施設)や育児(保育所やベビーシッター)に関する利用、子どもの教育など
人生設計	人生設計関連のセミナーや相談
リフレッシュ	スポーツクラブや宿泊施設、バック旅行、文化鑑賞、スポーツ観戦、レジャー施設などの利用
自社製品	社内製品(クルマを除く)の購入や系列販社の車検・修理など

## 60歳定年後の再雇用の促進

### シニアパートナー制度

当社では60歳定年後の就労問題の解決および人材の活用を図るため、平成15年に定年後再雇用制度である「シニアパートナー制度」を導入しました。その後「改正高齢者雇用安定法」に

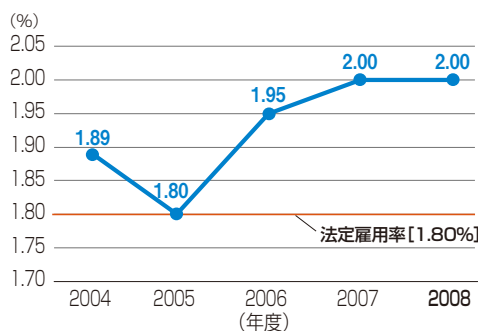
よって義務化された、「定年後65歳までの雇用継続」へ対応するため、当制度の一部見直しを行い、定年後の再雇用を進めてきました。また、平成18年度には、定年後再雇用による人材活用をさらに積極的に行うため、当制度の見直しを再度実施しました。今後も「シニアパートナー制度」を通じて、定年を迎える従業員が持つ経験や能力を、後進の指導育成や技能の伝承に活かし、60歳定年後の再雇用の促進に取り組んでいきます。

## 障がい者雇用の促進

### 法定雇用率1.8%を達成し雇用促進を継続

障がい者雇用率は2009年3月時点で法定の1.8%を超えて2.0%となっています。当社ではだれもが輝ける豊かな社会の実現を目指し、障がいをお持ちの方の採用を積極的に進めています。社内では現在152名の方が活躍されており、今後も継続的な採用活動に取り組み、障がい者雇用の促進していきます。

◆障がい者雇用率の推移



## 快適職場形成

### より働きやすい職場の実現に向けて

国の示す快適職場指針の実現に向け、作業環境・作業方法・環境設備などの各項目について、組織的・計画的に改善活動をしています。また、より働きやすい職場をつくるため、休憩所・トイレ・喫煙所・食堂などについての改善、施設のユニバーサル化も進めています。

## 労働安全衛生

### 安全衛生の考え方

#### ■ 安全衛生 基本理念

「安全衛生はすべての業務に優先する」

#### ■ 安全衛生 基本方針

労働災害、交通事故、疾病、火災等災害のゼロをめざし、全員が安全衛生の重要性を認識し合い、設備・環境・作業方法の改善と管理・意識の向上を図り、安全快適な職場作りを進める。

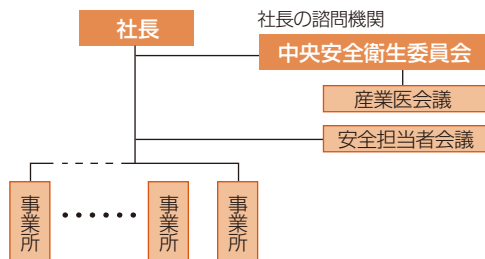
※1 KYT  
危険予知訓練のこと。K=危険、Y=予知、T=トレーニング。

※2 ヒヤリ・ハット  
もう少しで災害となるニアミス事例を収集する活動。

※3 TSZ  
Total Section Zero  
関連する部署が一体となって災害をゼロにする当社の安全活動。

※4 労働安全衛生  
マネジメントシステム  
組織的・安定的な安全衛生管理を推進するため「計画・実施・評価・改善」という一連のプロセスを明確にした連続的・継続的に災害ゼロから危険ゼロの職場を目指すための仕組み。

#### ◆安全衛生推進体制



## 労働災害ゼロに向けて

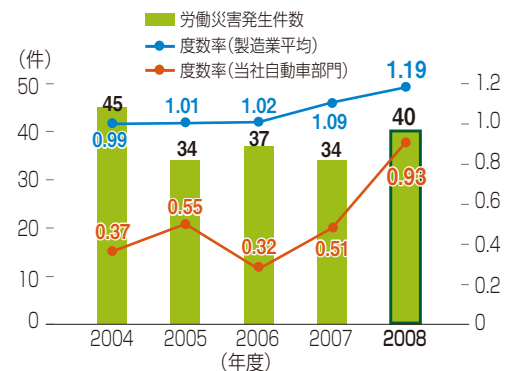
当社は一人ひとりの安全意識・職場管理の向上と危険を排除する活動に取り組んでいます。意識面ではKYT※1、ヒヤリ・ハット※2活動の実施、管理面では1992年からTSZ※3という各職場の自主管理活動を早期に導入しました。

また、労働安全衛生マネジメントシステム※4を導入している事業場では、新リスクアセスメントを導入し、内部監査を通じてマネジメントシステムの継続的改善に取り組み、さらなる安全衛生水準の向上および労働災害防止に努めています。

## 健康づくり

従業員が能力・技術を十分に発揮するためには、体と心が健康なことが重要です。当社では、疾病休業日数を減らす取り組みを行うにあたり、法定健康診断項目に、健康維持に必要な健診項目を加え、疾病の早期発見・早期治療に取り組んでいます。また、メンタルヘルス対策として国の示す4つのケアに則り施策を実施しています。例えば、臨床心理士による「こころの健康相談窓口」を全事業所に設置しています。

#### ◆労働災害発生状況推移



## TOPICS

### 森社長、役員による製造現場巡視

2008年7月24日(木)、ユニオンセンターにおいて森社長をはじめ各役員、各事業所の管理監督者が出席し、第33回全社安全衛生大会が開催されました。

今回は大会に先立ち、群馬製作所内の工場を役員が9グループに分かれて、製造現場の安全・激励巡視を行いました。

また同日、最近多発している災害の多くがヒューマンエラーが要因であることから、早稲田大学小松原教授による「ヒューマンエラーにかかわるリスク・安全管理」の講演なども行い、安全衛生基本理念である「安全衛生はすべての業務に優先する」ことを再度出席者全員で誓いあう大会となりました。



森社長、役員による製造現場巡視



### 基本的な考え方

スバルグループでは環境活動、交通安全活動、地域貢献活動をCSR活動の3つの柱として定めるとともに、「社会貢献方針」を制定して、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

### 社会貢献活動方針

- 私たちは、科学技術やのりもの文化の発展、交通安全の普及に貢献します。
- 私たちは、ものづくりの楽しさ、大切さや尊さを知る、人づくりに貢献します。
- 私たちは、私たちが活動する地域の発展に貢献します。
- 私たちは、一人ひとりもよき市民として、社会に貢献することを互いに応援します。

### ボランティア活動支援

#### 従業員意識向上のための表彰制度

プライベートの時間を使ってボランティアに取り組んでいる従業員を、2006年度から会社として表彰しています。

2009年6月5日には第4回ボランティア表彰として、社会福祉・スポーツ・文化・青少年育成などに高い功績を残した5名の従業員が表彰されました。



第4回ボランティア表彰の受賞者と高木CSR・環境委員長(当時)  
写真左から永堀修 福田良一 高木CSR・環境委員長(当時)  
板橋弘直 桜井信也 荻野多木夫

### 交通安全普及活動

#### 安全運転講習会を開催

当社は従業員の業務、通勤、私用すべての交通事故を防止するため、さまざまな取り組みをしています。

各製作所では、地元警察署に協力いただいて安全運転講習会を開催し、群馬製作所、東京事業所では二輪車の安全運転基本講習と実技指導を毎年行っています。



安全運転講習会画像

### 大規模災害支援

#### 各地への義援金送付

##### ■中国四川省大地震(2008年)

スバル オブ チャイナおよび中国国内ディーラーから100万円(約1500万円)

##### ■岩手・宮城内陸地震(2008年)

義援金200万円

### 地域イベントへの協賛・支援・寄贈

#### モートルックを寄贈

宇都宮製作所(エコテクノロジーカンパニー)は、NPO法人足尾歴史館に自社製の構内運搬車モートルックを寄贈しました。かつて足尾銅山で活躍したモートルックを保存・展示したいという同館からの要請に応えたもので、当時の車両を復元して寄贈しました。2008年9月7日に同館で贈呈式を行い、長井一雄館長に木村恒営業部長が寄贈プレートを手渡しました。



構内運搬車 モートルック



左:当社木村部長  
右:長井一雄足尾歴史館長



出前環境教室

## 出前環境教室

当社では、二酸化炭素を使った実験などを通して地球温暖化防止に対する教育を行っています。2008年度は、45校合計3,535名の小学生に、出前授業を実施しました。



学童野球教室

## 学童野球教室を開催

当社では、地域の学童野球チームを対象とした野球教室を開催しています。

2008年度は、のべ800名の児童を対象に、当社硬式野球部全員で技術指導を行いました。

## 交通遺児助け合い募金



清水市長(中央)に集めた募金を代表して手渡す(左)スバルロジスティクス岡崎社長(右から3人目)

2008年12月15日、群馬県太田市役所にて、賛同いただいて集った募金を太田市の清水市長に手渡しました。これはスバルロジスティクスが中心となって、毎年実施しており、2008年度は537,926円を寄付しました。

## 「願い事基金」

SIAでは「願い事基金」という活動を通して、難病に苦しむ子どもたちの夢をかなえる活動を行ってきました。2008年度は、メラノーマとい

う病気を患っていたころ、SIAを訪問するのが夢だったCamden Smithさん(18歳)をスバルのレーシングイベントに招待しました。従業員に温かく迎えられ、思い出に残るイベントとなりました。



願い事基金によりスバルのイベントに参加したCamdenさん(右)



憧れのレガシィに乗り込むCamdenさん

## 小学生への教育支援

SOAでは、アトランタの小学生へ環境科学教育や読み書き能力向上教育を実施するなど、児童の環境学習への支援を進めています。

## 製作所・事業所開放イベント

### ビジターセンターの工場見学受け入れ

地域交流の中でも中核をなすものが、工場見学を主とするスバルビジターセンターです。お客さまや地域の小学生を中心に年間10万人以上の来場があります。



工場見学時に配布しているガイドブック

# Voice

## 群馬製作所 出前環境教室

出前環境教室では、将来を担う子どもたちに、環境問題の現状を正しく伝え理解してもらうとともに、当社が取り組んでいる環境保全活動を通じて、子どもたち自身の環境問題に対する気付きと実行のキッカケづくりを主軸において推進しています。

本活動の運営に携わり、環境問題に対する小学生の知識の豊富さと前向きな探求心に驚かされました。

今後もお客さま第一の視点から、学校のニーズをもとに、児童にはよりわかりやすい内容となるよう、その時々的情勢を的確に捉え、ブラッシュアップを図っていきたく考えています。



生産環境安全部 環境課 反町 一貴

## 納涼祭への参加

当社では、地域社会との共生を目指し、さまざまな地域行事へ積極的に参加しています。中でも「おおた夏まつり」や「大泉まつり」には、スバルみこしで合計1,100名が参加し、地域の皆さまとのコミュニケーションを図っています。



おおた夏まつりの様子

## 児童、お取引先に向けた工場見学を実施

SIAでは、地域の教育活動を支援するため学校やお取引先向けに工場見学を開催しています。

2008年はLewis Cass高校へ自動車の授業の教材として、自動車のボディパネルを寄贈したり、地域の高校生向けに「SUBARU S.T.A.R.」プログラムを開催しています。これは2005年から開始され、これまでに4,630名の高校生が3R (Reduce, Reuse, Recycle)活動を学んでいます。



工場見学をする児童



教材として寄贈されたボディパネル



SUBARU S.T.A.R.プログラムに参加した高校生

## 地域清掃活動

### スバル地域交流会の「金山清掃」

群馬製作所では、会員企業・地域住民の方々

と一緒に金山の赤松林の草刈りと清掃を実施しています。2008年度は、過去に植樹したつつじに追肥を施しました。また参加者約600名には、飲料・タオル・花の苗などを配布しました。



スバル地域交流会で参加した「金山清掃活動」

## ピカピカきたもとおまかせプログラム

埼玉製作所では北本市による「ピカピカきたもとおまかせプログラム」に参加しており、工場周辺の清掃活動を行っています。2008年度はのべ10回行われ、合計1,048名が参加しました。



ピカピカきたもとおまかせプログラム

## SCIの清掃活動

SCIでは、毎年アースデイイベントにミシサーガ市と共同で参加しています。これは市長の呼びかけにより市内の全企業が自社の周囲の清掃活動を行うものです。SCIは、このポイ捨て禁止プログラム活動に対し、昨年に引き続き市長から表彰を受けました。



SCI清掃活動



## 環境報告

地球環境問題は経営における重要課題のひとつであるという認識のもと、企業理念に基づいて環境保全に取り組む「環境方針」を制定し、方針達成のための具体的な行動指針を「環境保全の運営基準」として定めて、全員参加で活動を推進しています。

### 環境方針(1998年4月制定)

常に環境と事業活動の深い関りを認識し、地球と社会と人にやさしい商品と環境づくりに努め、豊かな未来の実現を目指します。

### 環境保全の運営基準

- (1) 商品の開発・設計・製造・販売・サービス・廃棄など各段階における環境への影響を考慮して、積極的な環境保全に努めます。
- (2) 関連する法規制・地域協定・業界規範を順守するとともに、環境上の目的・目標を定めて自主的な活動に取り組みます。
- (3) 「継続的な改善と汚染の未然防止」が重要であることを認識し、一人ひとりが自覚と責任を持って行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動のさらなる向上を図ります。
- (6) 社会の一員として、地域や社会との交流を図るとともに、環境保全活動に積極的に協力します。

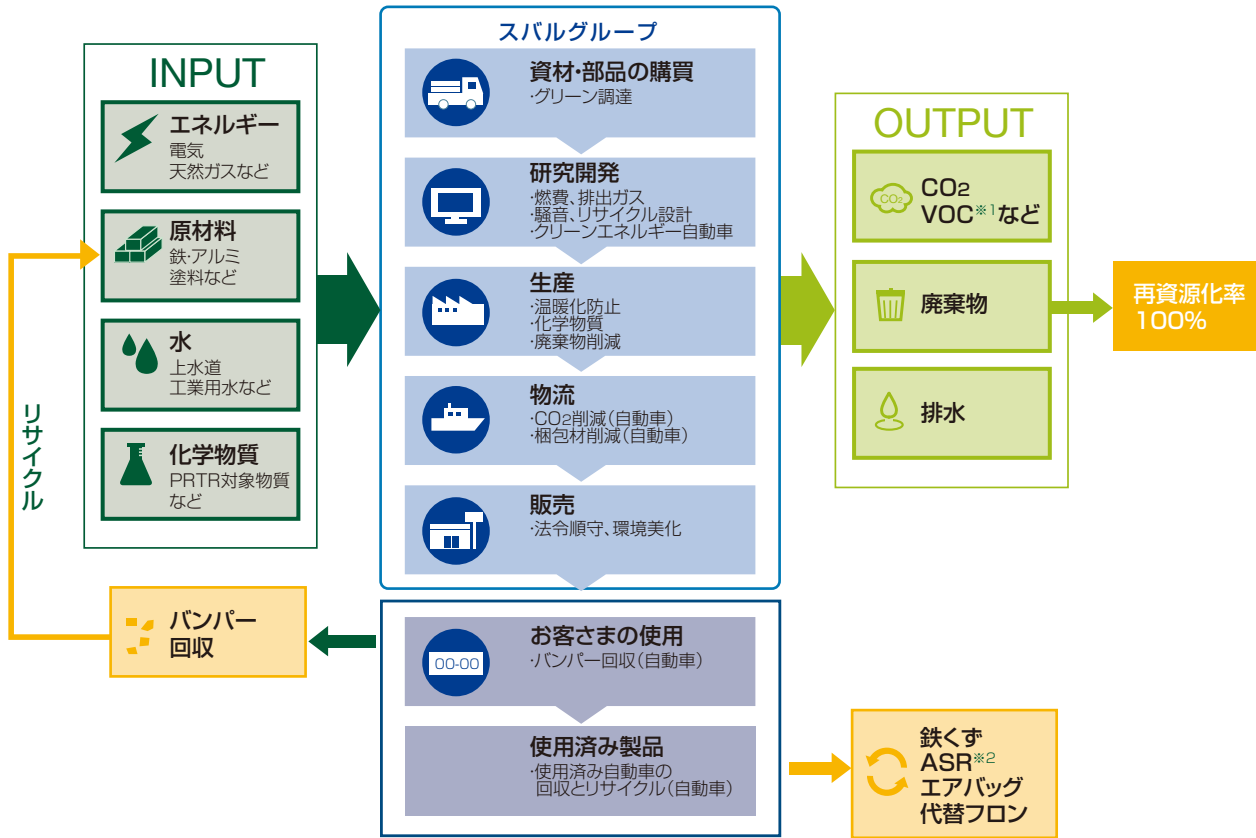
### 企業活動と環境への影響

#### 自動車もたらす豊かさと地球環境対応の融合を目指して

スバルはクルマを中心とした輸送機器メーカーです。自動車は私たちの暮らしになくてはならない便利で快適な乗り物ですが、限りある地球の資源を消費し、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>や、大気汚染の原因となる物質を排出します。私たちはこれら自動車のもつ二つの側面を

強く認識し、そのうえで「豊かな自動車社会」の実現に向けた取り組みを行わなければならないと考えています。自動車の開発、生産、使用、廃棄、リサイクルという一連のライフサイクルを通して、環境に与える影響を十分に考慮し、環境への負荷を削減することによって、自動車もたらす豊かさ(気持ちよい走り 快適・信頼)と地球環境対応(燃費性能抜本向上)の融合を目指していくことが、私たちの責務だと考えています。

## ◆自動車にかかわる当社の環境負荷全体像



## 組織体制

当社では、環境方針・環境保全の運営基準・環境ボランティアプラン目標を達成するためにCSR環境委員会(委員会体制図は24ページをご参照ください)を設置しています。この委員会は環境担当役員を委員長とし、全事業所の代表者が参加し運営される組織であり、2008年度は5月29日、12月10日と2回開催しました。ここでは当社グループ全体のCSR・環境保全を総合的に、かつ合理的にマネジメントすべく活発に活動を推進しています。

## 環境マネジメントシステムの構築状況

当社では2004年度に本社を含む全拠点でISO14001の外部認証を取得済みです。今後も、より効果的・合理的なマネジメントシステムを目指した取り組みを進めていきます。また、国内スバル販売特約店では、エコアクション21<sup>\*3</sup>の外部認証取得を進めています。<sup>\*4</sup>

<sup>\*1</sup> VOC Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)  
ホルムアルデヒドやトルエンなど、常温で揮発しやすい有機化合物のことで、近年、新築の住宅ビルなどに入ると、目や鼻、のどなどに刺激を感じるなどの体調不良が生じるシックハウス症候群の要因とされている。

<sup>\*2</sup> ASR Automobile Shredder Residue  
ボディガラをシュレッダーで破砕し、金属類をリサイクルのために分別したあとの残留物のこと。シュレッダーダストとも呼ばれる。

<sup>\*3</sup> エコアクション21  
その組織の環境経営の取り組みが、環境省策定のガイドラインに適合していることを認証し、登録されるもの。

<sup>\*4</sup>  
国内スバル販売特約店のISO14001とエコアクション21の外部認証取得状況につきましては、62ページに記載しています。

## 環境会計

当社では2000年度より環境会計を導入し、環境コストと効果を把握することで効率的な環境への取り組みを行っています。

当社の2008年度の環境コストは157億円となり、前年度より6.5億円減少しました。これは研究開発費の減少などによるものです。

また、経済効果は18億円となりました。エネルギー削減効果などがありましたが、有価物売却益の減少などにより、前年度より1.5億円減少しました。

\*実績データについては48ページに掲載しています。

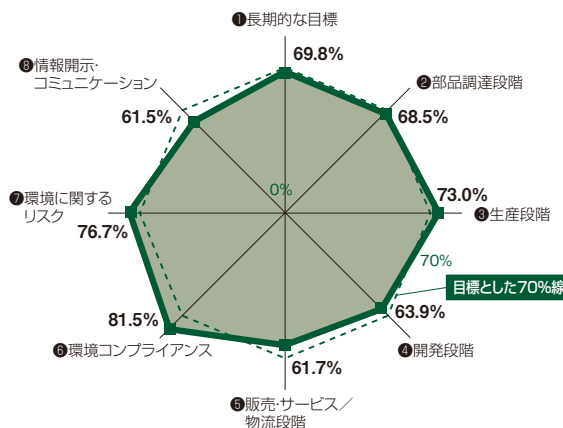
## 環境パフォーマンス評価制度

当社では2002年度より「環境パフォーマンス評価制度」を導入して、さらなる環境パフォーマンスの向上に取り組んでいます。今回、評価項目・方法を見直し、当社にとってより合理的かつ有効な評価制度に改定しました。

2008年度の結果は合計71.9%となり、目標の70%に対して1.9%の過達となりました。

個々の評価項目ごとの結果は下図のとおりです。今回は年度後半の予想をはるかに上回る操業低下によるCO<sub>2</sub>排出量・エネルギー使用量・廃棄物発生量の減少などが大きく評価向上に寄与しているため、これからも原単位をベースとした改善が必要です。また今後の取り組み課題として、「当社グループとしてのEMS活動の推進強化や、地域貢献活動のさらなる推進」などがあげられました。

◆2008年度 環境パフォーマンス評価結果



## 環境教育・啓発

当社では2004年度に全社統一の階層別教育テキストを作成し、毎年度新入社員をはじめ社内資格昇格者を対象に各階層に応じた環境教育を実施しています。

また各事業所・カンパニーごとに環境マネジメントシステムに基づいた緊急時対応訓練、全員対象の環境保全一般教育、改善事例発表会、お取引先各社への教育支援などを毎年度計画的に実施しています。



東京事業所のE-ラーニングを利用した一般教育



群馬製作所 環境教育のようす

## 環境コミュニケーション

当社では各事業所周辺地域の方々とのコミュニケーション窓口を設けるとともに、さまざまな方法で環境情報の発信を行っています。群馬製作所のスバルビジターセンターには当社の環境への取り組みを紹介する「リサイクルラボ」を設けているほか、宇都宮製作所、埼玉製作所にも廃棄物リサイクルを中心とした環境への取り組みのようすを紹介する展示スペースを設けています。



環境コミュニケーションツール

## 環境法規制の順守状況

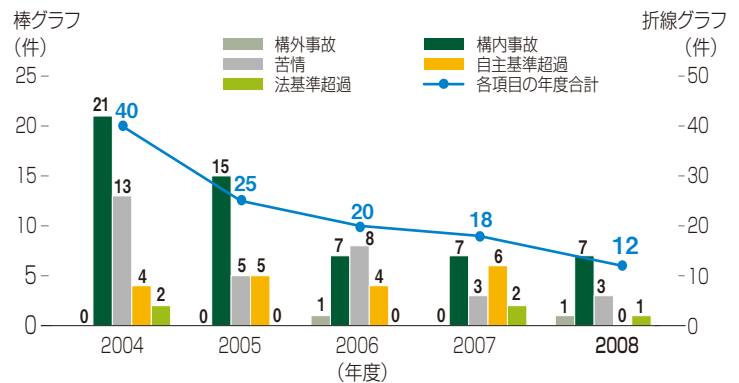
### 環境法規制値超過、環境事故・苦情

右図は、過去5年間の環境に関する苦情、法規制値超過、事故の発生件数の推移です。合計件数(折線グラフ)は、年々減少傾向にあります。

2008年度の環境苦情、環境法規制値(地域協定値、当社自主基準値を含む)超過および環境事故の発生件数と主な内容は下表のとおりです。

なお、2008年度は、行政から、環境に関する指導や勧告はありませんでした。

◆環境法規制値超過、環境事故・苦情発生件数推移



◆2008年度にいただいた環境苦情と内容

事業所名	発生件数	主な内容	主な是正処置
群馬製作所	臭気2件	矢島工場北側にお住まいの方から塗装臭気苦情を2件受けました。	塗装工程の消臭剤塗布量アップ、ミスト捕集フィルターの設置などの対策を図ったうえで、行政、区長様含め経過を説明し、ご理解をいただきました。
東京事業所	騒音1件	事業所南側にお住まいの方から夜間騒音に関する苦情を受けました。	調査の結果、実験棟屋上設置の冷却塔ファンのベアリングからの異音と判明したため直ちに停止、修理を実施し、状況を説明しご理解をいただいた上で運転を再開させていただきました。

◆2008年度 環境事故発生件数と内容

事業所名	発生件数	主な内容	主な是正処置
群馬製作所	構外流出事故1件	北工場において、コンプレッサーの潤滑油が約20ℓ工場東側水路に流出しました。	発見後直ちに流出油を回収しました。発生源のコンプレッサーについては改善を図るとともに、事故内容をすべて行政に報告しています。
	構内流出事故2件	①大泉工場において、洗浄機の蒸気ドレンより白濁液(弱アルカリ性pH8.3)が流出しました。 ②本工場内食堂の廃液がポンプの故障により所内水路に流出しました。	洗浄機の点検修理を実施、作業手順の見直しを図りました。なお、所内側溝に流出した白濁液はすべて吸い取り、適切に処理しました。 ポンプを交換するとともに、設備の運用ルールの再確認、日常点検実施を織り込んで手順を改定するとともに、警報設備を設置しました。
宇都宮製作所(航空宇宙カンパニー、エコテクノロジーカンパニー)	構内流出事故2件	①軽油納入業者のトラックから10ℓ未満の軽油が所内の路上に漏洩しました。	発見後直ちに路面の軽油を拭き取り回収回収し、水路への流入を防止し、納入業者に対する指導を強化しました。
		②作動油用地下タンク吸上ポンプの配管より作動油が約690ℓ流出しました。(この油はすべて所内の集水槽で止まり、外部への流出はありませんでした)	集水槽内の液をバキュームカーで吸い取り洗浄し、吸上ポンプ配管・オイルセンサーを修繕しました。さらに2009年度にはセンサーの警報を警備室に連動させます。
東京事業所	構内流出事故3件	①台車を使って廃油を運搬中、路面の凹凸により廃油が台車から路面に約2ℓ漏洩しました。	油吸着マットで路面の廃油を除去し、油脂類の取り扱い作業手順の再徹底を図りました。
		②試験車の油圧センサーからオイルが漏れて、約0.5ℓ路面に漏洩しました。	油吸着マットで路面のオイルを除去し、走行前の実車点検作業シートでの運用徹底を図りました。
		③試験車走行中にエンジン冷却液(クーラント)が5ℓ未満路上に漏洩しました。	試験走行前の点検実施の再徹底と、少しでも異常を認知した際は試験を中止することを課内展開しました。

◆2008年度 環境法規制値超過件数と内容

事業所名	発生件数	主な内容	主な是正処置
航空宇宙カンパニー(半田西工場)	水質1件	半田西工場の河川放流水が、1回法規制値を超える値となりました。 [大腸菌 規制値3,000個/mℓに対して測定値35,000個/mℓ]	各種調査を行いました。異常値発生源の特定には至りませんでした。本排水については滅菌剤を投入し基準値以内で収まったことを確認し排水しました。なお、異常値が発生した2008年8月以降は経過観察を続けていますが、すべて自主基準値以内で推移しています。

当社では、環境法規制値よりも20%厳しい値を自主基準値として設定し、この自主基準値超過「ゼロ」を目標として取り組んでいます。2008年度には残念ながら上記に示すとおり、法規制値超過1件が発生しました。2007年度は8件発生(うち法規制値超過2件)しており、7件と大幅な低減が図られています。

※1 PRTR  
Pollutant Release  
and Transfer  
Register  
(化学物質排出移動量  
届出制度)

有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかをデータ把握し、集計し、公表する仕組み。

※2  
当社のゼロエミッションの定義：  
埋立物(直接埋め立てされるもの+中間処理後に埋め立てされるもの)の総量が金属くすを除く廃棄物(産業廃棄物+特別管理産業廃棄物+事業系一般廃棄物)の総量の0.5%未満のことをいいます。

## 環境パフォーマンスについて

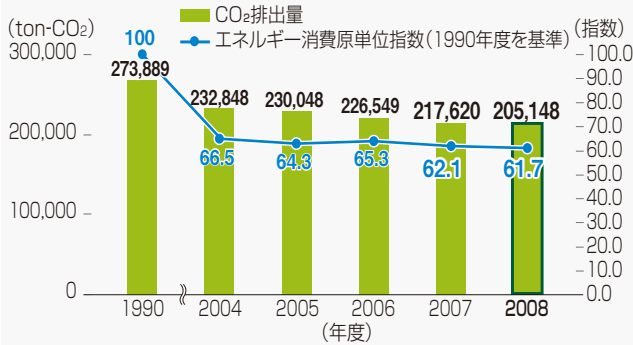
### CO<sub>2</sub>排出量、水使用量、PRTR<sup>※1</sup>対象化学物質排出量を低減

当社の2008年度の主な環境パフォーマンスはグラフに示したとおりです。

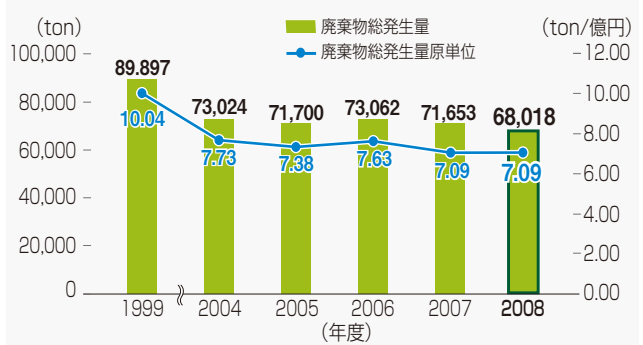
CO<sub>2</sub>排出、PRTR対象化学物質排出量、水使用量、いずれも低減が進んでいます。

なお廃棄物の埋立量につきましては、2004年度にゼロエミッション<sup>※2</sup>を達成し、現在も継続しています。

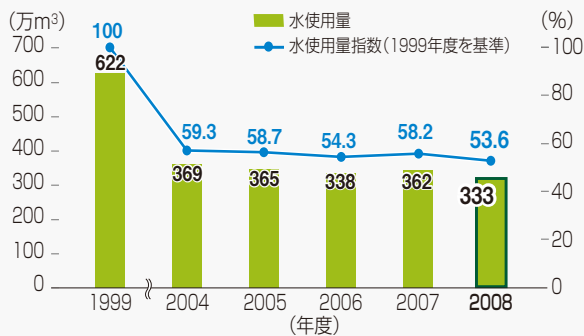
◆全生産事業所CO<sub>2</sub>排出量とエネルギー消費原単位の推移



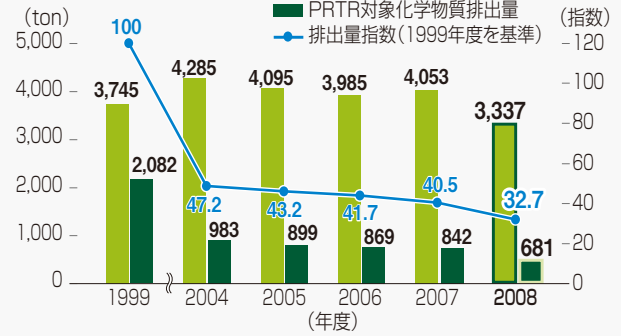
◆廃棄物発生量(売却金属くすを含む)



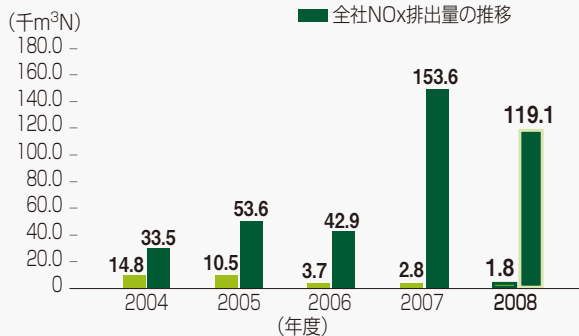
◆全生産事業所水使用量の推移



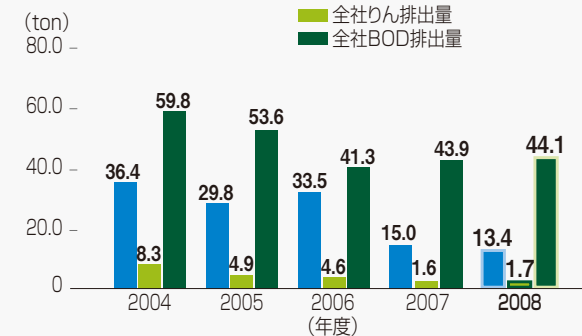
◆全生産事業所PRTR対象化学物質取扱量と排出量



◆NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub> 排出量推移グラフ



◆窒素・リン・BOD 排出量推移グラフ





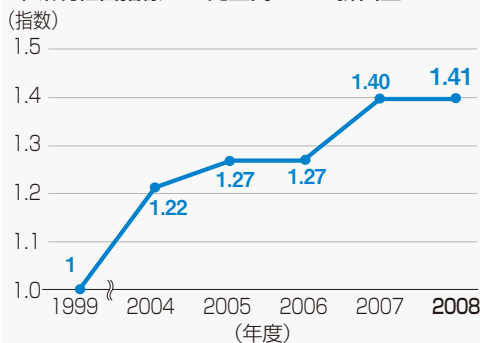
#### ◆環境会計 2008年度実績

( )内は2007年度実績 (単位:百万円)

集計区分	環境コスト	環境設備投資額	経済効果
富士重工業 [単独]	15,711 (16,359)	1,426 (2,800)	1,842 (1,992)
国内関係会社5社※1	135 (144)	14 (95)	220 (226)
海外関係会社5社 [試行集計]※2	703	6	1,309

\*集計対象期間:2008年4月~2009年3月  
(海外関係会社は2008年1月~12月)

#### ◆環境経営指標※3 売上高/CO<sub>2</sub>排出量



## 第4次環境ボランティアプラン

### 2008年度実績と2009年度計画

当社では2006年度に第4次環境ボランティアプランとして2007年度から2011年度までの環境保全自主取り組み計画を発表しています。

これは常により高い環境保全目標を掲げるとともに法規制、業界との連携を含めた的確な環境対策を織り込み、これまで以上にクリーンな商品を、クリーンな工場から、クリーンな物流によ

り、クリーンな販売店を通してお客さまにお届けし、商品で社会に貢献することを目標としました。特に地球温暖化の抑制に関しては、目標を上乘せし、2010年度までに1990年度比22%削減としました。

富士重工業のみならずグループ企業の指針として共有し、スバルグループとして環境諸問題の継続的改善に積極的に取り組んでいきます。

49~50ページに、その取り組み項目とともに、2008年度の実績と2009年度の計画についてご紹介します。

※1  
輸送機工業、富士機械、イチタン、桐生工業、スバルロジスティクスの国内5社。

※2  
SIA、SOA、SRD、SCI、RMIの北米5社についての試行集計結果。

※3  
事業活動の環境効率率を(売上高÷環境負荷)として、生産段階における環境負荷量で1999年度を基準に環境効率率を算出。

### 第4次環境ボランティアプランの概要

地球温暖化防止に全力をあげて取り組んでいきます。

- 自動車のフルモデルチェンジ、年次改良ごとの継続的な燃費改善を図っていきます。
- 生産工場からのCO<sub>2</sub>排出量を2010年度までに1990年度比15%低減を目指します。
- 物流面では2011年度までに、2006年度比5%のエネルギー使用量原単位削減を目指します。
- 電気自動車や風力発電システムなどクリーンエネルギーを利用する商品の開発、市場展開を進めます。

あらゆる段階で環境諸問題の継続的改善に取り組めます。

- 自動車ではさらなる低排出ガス対応化を進め、低排出ガス車両の普及を推進します。
- 新型車のリサイクル配慮設計を推進し、2015年のリサイクル率95%を目指します。
- 自動車生産ラインにおける揮発性有機化合物の排出量原単位を2010年度までに2000年度比30%以上低減します。
- 全生産工場でのゼロエミッションを継続し、発生源対策により発生量を削減します。
- 海外も含めたお取引先に環境マネジメントシステムの構築と環境負荷物質削減を要請するグリーン調達を進めます。
- 販売店の環境への取り組み活動に対する支援を行います。
- 社会貢献活動や環境関連情報の公開に努めていきます。

# 第4次環境ボランティアプラン 計画的な環境保全を推進

## ◆第4次環境ボランティアプラン

### [1] クリーンな商品

項目	目標・取り組み	2008年度実績	評価	2009年度計画
燃費の向上 【自動車】	フルモデルチェンジおよび年次改良ごとの継続的な燃費改善を図る。	◆新型車エクシーガの全車種で平成22年度燃費基準を達成した。	○	継続して、フルモデルチェンジ、および年次改良ごとの燃費改善を図る。
	平成22年度(2010年度)燃費基準達成車をさらに拡大する。	◆乗用車の平成22年度燃費基準達成車の生産台数は92%まで拡大した。 ◆すべての重量ランクで平成22年度燃費基準を達成。 <sup>注1)</sup>	○	平成22年度燃費基準+15%以上達成車を拡大する。
	平成27年度(2015年度)燃費基準に向けた燃費改善を推進する。	◆平成27年度燃費基準達成に向けて、燃費改善を推進中。	○	引き続き、平成27年度燃費基準に向けた燃費改善を推進する。
排出ガスのクリーン化 【自動車】	平成17年基準排出ガス75%低減レベル対応の技術を拡大し、さらなる低排出ガス対応化を進め、低排出ガス車向の普及を推進する。	◆乗用車の平成17年基準排出ガス75%低減レベル(☆☆☆☆)の生産台数は70%まで拡大した。 ◆乗用車の低排出ガス認定車(平成17年基準排出ガス50%低減レベル(☆☆☆☆)以上)の生産台数は90%を超え、94%まで拡大 <sup>注1)</sup> した。	○	引き続き、平成17年基準排出ガス75%低減レベル認定車を拡大する。
クリーンエネルギーを利用する商品の開発	ハイブリッド自動車・アライアンスを活用した新ハイブリッドシステムの開発を行う。 <sup>*1</sup>	◆新ハイブリッドシステムを開発中	—	引き続き、新ハイブリッドシステムの開発を行う。
	電気自動車・業務用車両をはじめとした市場導入を目指し開発を行う。 <sup>*1</sup>	◆プラグイン ステラ コンセプトを完成させ、北海道洞爺湖サミットでの運用や日本郵政グループの郵便事業株式会社における郵便物集荷配達業務での実証実験を推進中。	○	2009年度内に市場導入を行う。
	風力発電システムの開発、市場展開を継続する。 <sup>*2</sup>	◆2,000kW級大型風力発電システム(SUBARU80/2.0)の量産を開始した。量産体制の構築ができ、来年度に向けて市場展開が可能な体制とした。	○	引き続き、大型風力発電システムの拡販とさらなる性能向上を推進し、実績を積んでいく。
	LPG/CNGエンジンを使用した応用製品の市場展開を図る。 <sup>*3</sup>	◆生産拡大のため、LPG/CNGエンジンの汎用化に着手した。	○	CNCエンジンの生産拡大を図る。
リサイクル性の向上 【自動車】	新型車のリサイクル配慮設計を推進し、2015年リサイクル率95%に貢献する。	◆再資源化率はシュレッダーダスト77.7%で法定基準(2015年)を早期達成した。 ◆エアバッグ類の再資源化率は94.4%で法定基準を達成。 ◆「全部再資源化」促進のため銅含有部品取り外しのための情報を追加公開。(インプレッサ、フォレスター)現在廃車として発生する主流年式のラインナップを完成。 ◆新型車のほとんどの樹脂材料にリサイクル性に優れたオレフィン系樹脂を使用した。2009年度以降も使用を継続する。	○	再資源化率の維持・向上を図る。  新型車のリサイクル配慮設計の維持・向上を図る。
環境負荷物質の低減 【自動車】	環境負荷物質の管理拡充および、さらなる低減を行う。	◆パワートレイン用エラストマー用接着剤を鉛フリー化した。 ◆鉛フリーはんだをナビ、リモコン、リレー類など一部に採用した。順次拡大展開を継続する。 ◆ナビゲーション液晶パネルの水銀フリー化を拡大展開した。	○	鉛化合物の鉛フリー化を順次拡大する。
車外騒音の低減 【自動車】	引き続き燃費向上や排出ガス低減との両立を図った騒音低減の技術開発を推進する。	◆騒音低減デバイスのさらなる小型化、軽量化を実現した。	○	市街地での走行モードを考慮した騒音低減の技術開発を推進する。
エアコン冷媒にかかわる地球温暖化の抑制 【自動車】	自動車1台あたりの冷媒(HFC134a)使用量の削減をさらに推進する。	◆新型車に省冷媒機器を搭載し、冷媒使用量を削減した。	○	冷媒使用量の削減をさらに推進する。
	低温暖化係数冷媒エアコンの開発を推進する。	◆低温暖化係数冷媒エアコンの開発を推進中。	○	低温暖化係数冷媒エアコンの開発をさらに推進する。
交通環境に関する研究 【自動車】	安全かつ快適な車社会を実現する高度道路交通システム(ITS)への取り組みをさらに前進させる。	◆ITS推進協議会 <sup>注2)</sup> が推進する「ITS-Safety2010」公開デモンストレーションに参加した。 ◆国土交通省 先進安全自動車プロジェクトに参画し、公道実証実験を実施した。	○	高度道路交通システム(ITS)への取り組みをさらに推進する。
環境関連商品の開発、環境関連事業の推進	塵芥収集車の開発や環境機器・装置などの環境関連ビジネスを推進する。 <sup>*2</sup>	◆「環境配慮設計」の推進を継続し、4トン級プレス車の積込み制御を見直し、ダンボール積込み量を8%向上させた。 ◆油圧ポンプ性能を見直し、油圧脈動を削減することで従来車比約2dB騒音を削減できる車両を開発した。	○	「環境配慮設計」を継続する。 ・塵芥車の省エネとして「積込み効率の向上」「駆動源の省エネ化」に取り組む。 ・低騒音化の取り組みを継続し、商品の拡販につなげる。
	省力化、省人化、省エネルギーなどを目的としたロボット関連ビジネスを推進する。 <sup>*4</sup>	◆株式会社ツムラと共同で、CCDカメラを活用した走行技術を開発し、新しい連結式搬送ロボットシステムを導入した。 ◆住友商事株式会社と共同開発したエレベータ連動型清掃ロボットシステムを導入した。	○	引き続きサービスロボットの事業化拡大に取り組んでいく。

※1 自動車部門、※2 エコテクノロジーカンパニー、※3 産業機器カンパニー、※4 クリーンロボット部の取り組み  
注1) 第3次環境ボランティアプラン(2002~2006年度)の目標項目で、2007年度の取り組みにより目標を達成した項目。  
注2) ITS推進協議会  
ITSによる安全運転支援システム推進のための関係省庁および産業界の代表で構成される協議会。



[2] クリーンな工場

項目	目標・取り組み	2008年度実績	評価	2009年度計画
地球温暖化の抑制	生産工場からのCO <sub>2</sub> 排出量を2010年度までに1990年度比15%低減を目指す。	◆CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度比25%削減した。	○	CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度比13%削減する。 [上乗せ努力目標:2010年度までに1990年度比22%削減]
生産工場における環境負荷物質の管理と排出削減	PRTR対象化学物質の環境への排出量削減を継続する。	◆排出量を1999年度比67.3%削減した。	○	PRTR法改正(2009年10月予定)対応を図るとともに、排出量の削減を進める。
	自動車生産ラインにおけるVOC(揮発性有機化合物)の排出量原単位(g/m)を2010年度末までに2000年度比30%以上低減する。	◆排出量原単位を2000年度比38.4%削減した。	○	排出量原単位を2000年度比30%以上削減を継続する。
	環境リスクアセスメント活動により環境リスクを低減し、事故・苦情・自主基準値超過のゼロ化を図る。	◆2008年度は、環境苦情3件、法基準値超過1件、自主基準値のみ超過0件、構外流出事故1件、構内流出事故7件発生した。	×	事故・苦情・自主基準値超過のゼロを目指した活動を推進する。
生産工場から排出される廃棄物の削減	歩留り向上、取り代削減、塗着効率向上、荷姿改善などの発生源対策により発生量を削減する。	◆2008年度発生量は68,019トン。 1999年度比25%、2007年度比5%低減した。	○	生産量増加により、2008年度比8%増加見込み。 対策を上積みし発生量抑制を進める。
	ゼロエミッション(直接、間接を問わず埋め立て処分量ゼロレベル)を継続する。	◆ゼロエミッションを継続した。 (サーマルリサイクル後の焼却残渣含む)	○	ゼロエミッションを継続する。
水資源の節約	生産工場における水使用量を2011年までに1999年度比45%低減を目指す。	◆水使用量を1999年度比46.4%低減した。 [2008年度目標:1999年度比41.6%低減]	○	水使用量を1999年度比46.3%低減する。
グリーン調達活動	海外も含めお取引先に対し、環境マネジメントシステムの構築と環境負荷物質の削減を要請する。環境マネジメントシステム構築については、下記を目標とする。 ●自動車部門、産業機器事業部門 :100%構築体制の維持継続。 ●エレクトロニクス部門、航空宇宙部門 :構築完了を目指す。	◆当社全体で100%(561社)構築を完了した。 ・自動車部門:357社(海外19社含む) ・産業機器部門:104社 ・エレクトロニクス部門:40社 ・航空宇宙部門:60社	○	新規お取引先を含めて100%構築体制を維持する。
	環境負荷物質の削減についてはEU指令など各種法規の対応日程を順守する。	◆EU指令の規制対象部品における切替対応が完了した。 ◆REACH予備登録対応が完了した。	○	EU指令ANNEXXII改定に備えた準備を進める。 引き続きREACH対応を進める。
	CSR調達についてはガイドラインを設定し、お取引先に展開する。	◆グローバルグリーン調達ガイドラインをリリースし、当社ホームページに公開した。	○	CSR調達ガイドライン設定に向けた準備を進める。

[3] クリーンな物流

項目	目標・取り組み	2008年度実績	評価	2009年度計画
物流面における環境負荷の低減	改正省エネ法への確実な対応の実施 ●2011年度末までに、2006年度比▲5%のエネルギー使用量原単位削減を目指す。	◆エネルギー使用量原単位を2006年度比19%削減、2007年度比で6.6%削減した。	○	エネルギー使用量原単位を2008年度比さらに1%削減する。
	梱包資材などのリユースやリターナブル箱の活用を推進し環境負荷の低減に取り組む。	◆梱包資材などの総量を2006年度比約150トン削減、2007年度比約350トン削減した。	○	梱包資材のリターナブル化の対象拡大などの施策によりさらなる削減を目指す。

[4] クリーンな販売店

項目	目標・取り組み	2008年度実績	評価	2009年度計画
販売店における環境保全活動の推進	販売店の環境への取り組み活動に対する支援を行う。	◆エコアクション21 <sup>注3)</sup> の認証取得支援を実施した。 [2008年度実績 東京スナリ全59店舗、埼玉スナリ全34店舗が認証取得] ◆PRTR法、改正省エネ法などの情報展開と個別フォローを実施した。	○	引き続きエコアクション21の認証取得支援を進める。
	使用済みパンパの回収を継続的に行う。	◆使用済みパンパを41.1千本回収した。	○	使用済みパンパの回収を継続的に行う。
	交換された発煙筒の回収を継続的に行う。	◆交換された発煙筒を108千本回収した。	○	交換された発煙筒の回収を継続的に行う。
	自動車リサイクル法への対応を継続する。	◆自動車リサイクル法に基づく2008年度再資源化実績。 ・シュレッダーダスト再資源化率77.7%となり、法定基準の70%を達成した。 ・フロン類は154,429台(46,970kg)を引き取り適正に処理した。 ・エアバッグ類は60,287台(12,359kg)をリサイクル施設に投入し、11,667kgを再資源化し、再資源化率は94.4%となり、法定基準の85%を達成した。	○	自動車リサイクル法への対応を継続し、再資源化率の維持向上を図る。

[5] 管理面の拡充

項目	目標・取り組み	2008年度実績	評価	2009年度計画
社会貢献活動の実施	環境イベントへの参画、工場近隣にお住まいの方との交流、工場見学への対応を継続する。各工場周辺地域の清掃活動や緑化活動に継続的に参加する。環境団体などの活動への支援、協力を行う。	◆11万人を超える工場見学受け入れ、地域の小学校へ出向いての環境交流授業(45校3,535名)を開催した。 ◆延べ20万人以上を動員して、各工場周辺地域の清掃活動を継続実施した。	○	さらに範囲拡大を目指す。 各工場・事業所周辺地域の清掃活動を継続実施する。
環境関連情報の公開	環境・社会報告書の継続的発行、広報資料などによる環境・社会情報の適時公開を図る。環境・社会報告書記載内容の改善・充実を図る。(ガイドラインへの対応、グループ企業も含めた報告)	◆2008社会・環境報告書を7月に発行した。 ◆報告書記載内容の継続的改善を進めるとともに、webを活用した別冊編を含め内容の充実を図った。 ◆グループ企業の活動を含めた報告書とした。	○	2009 CSRレポートに改称し、8月初旬までに発行する。
環境教育や啓蒙活動の実施	社内教育システムに組み入れた環境・社会教育を継続実施する。 社内報や各種媒体による啓蒙活動を継続する。講演会、職場における改善事例発表会などを継続実施する。	◆階層別、職場別に環境に関する教育を継続実施した。 ◆社内報やイントラネットを活用して環境啓蒙活動を進めた。 ◆各事業所ごとに改善事例発表会などを実施した。	○	環境に関する教育・啓蒙発表会などをさらに推進する。
環境マネジメントシステムの構築	ISO14001既取得事業所における環境マネジメントシステムの継続的改善を行う。関連企業と連携の強化、連結環境マネジメント体制の構築を継続する。	◆全事業所でISO14001の外部認証を継続し、内部監査を実施し、改善を進めた。 ◆環境に関する国内関連企業部会、北米環境委員会をおのおの2回開催し、グループとして環境への取り組みを進めた。	○	外部認証と内部監査の実施を継続するとともに、全事業所統合認証に向けた活動を開始する。連結環境マネジメント体制構築を推進する。

注3) エコアクション21  
環境省がISO14001をベースに策定した環境マネジメントシステムで、中小事業者が取り組みやすいように工夫されている。

# クリーンな商品 環境に配慮した車の開発

## 基本的な考え方

スバルでは、中期経営計画の命題である「走りと地球環境の融合」を目指して、さまざまな分野において環境に配慮した技術開発を進めています。

### 燃費の向上

#### 燃費向上への考え方

クルマは燃料を消費するとそれに比例した二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を排出します。燃費の改善を行うことで、限られたエネルギー資源を節約し、二酸化炭素の排出を減らして地球温暖化防止にも寄与できます。

スバルでは、AWDや高出力エンジンなどの特長を活かしつつ、エンジンの改良による効率化、駆動系の伝達ロスの軽減、車両の軽量化、走行抵抗の軽減など燃費改善の技術開発を進め、ガソリン自動車の燃費目標である平成22年度燃費基準の達成車を順次市場投入しています。

#### 燃費の向上 目標

さらに平成22年度燃費基準達成車を拡大する

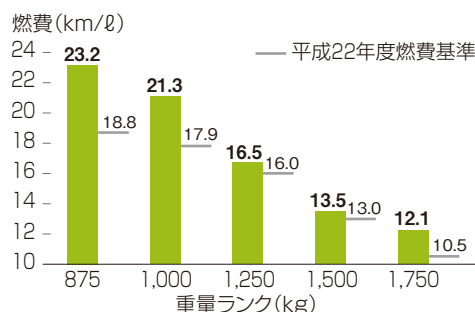
#### 平成22年度燃費基準の達成状況

ガソリン乗用車の平成22年度燃費基準達成車の生産台数は、全体の92%を占め、全重量ランクで平成22年度燃費基準を達成しました。

ガソリン軽貨物車は2001年度に全重量ランク、2002年度以降は、全車種で平成22年度燃費基準を達成しています。

スバルは、今後さらに平成22年度燃費基準+15%達成車を拡大していきます。

#### ◆ガソリン乗用車の平成22年度燃費基準達成状況



### エクシーガの燃費向上の取り組み

#### エンジンの改良

エクシーガには、新型フォレスターで採用した2.0ℓ・DOHCエンジンをベースに、水温とともに変化する油の温度をより高い温度で保つよう水温設定を変更しました。これにより、ピストンなどの摺動部分に発生するフリクションをより低くおさえることができました。メインユーザーとなる経済性に敏感なファミリー層にも満足いただけるトップクラスの燃費性能を実現することで、走りと環境性能とを高次元でバランスさせました。



#### 駆動系の改良

2.0ℓ NA車には軽量・コンパクトなスポーツソフト付ダイレクト制御式4ATを採用し、燃費とドライバビリティの両立を図る最適なギヤ比の選択を行うとともに、ライン圧制御の緻密化により、燃費を向上させました。

また、AWD車用に加えてFF車専用の4ATを新規開発し、燃費向上の実現を図りました。

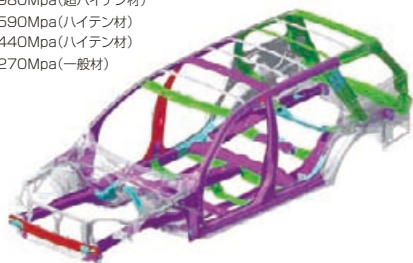
2.0ℓ ターボ車にはレガシィと同様の油圧最適化による内部フリクション低減やスリップロックアップ領域拡大による燃費性能の向上と変速品質、ドライバビリティ向上を図ったダイナミック5ATを採用しました。ターボエンジンの低速重視の性能アップと合わせて、レガシィと比較して

ハイギヤードとなる最適なファイナルギヤ比を選択し、燃費性能と高速巡航時の静粛性の向上を実現しました。

## 車体の軽量化

車体骨格は、現行レガシィ、インプレッサ、フォレスターで培った基本構造を踏襲し、従来からの性能指標である車体剛性の絶対値のみでなく、剛性バランス(車体骨格モード)の最適化を行いました。さらに、部材結合部構造の見直し、効果的な部分補強、高張力鋼板の使用(車体骨格として初めて980MPa級を採用)により衝突安全に必要な強度を確保しつつ車両質量の増加を抑制しています。また、CAE<sup>※1</sup>解析の活用により、剛性、衝突性能に加え、耐久、強度、操縦安定性、騒音・振動などの車両性能と軽量化を両立させています。これにより、高い性能を有しながらも走りの軽快感、燃費向上を実現できています。

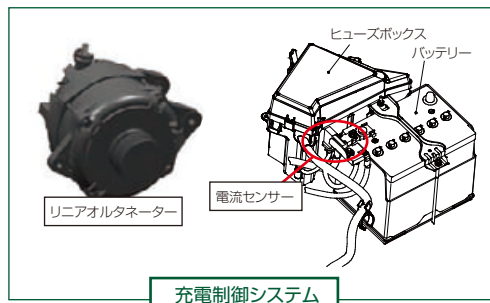
- : 980Mpa(超ハイテン材)
- : 590Mpa(ハイテン材)
- : 440Mpa(ハイテン材)
- : 270Mpa(一般材)



## 車両全体での実燃費向上に向けた取り組み

当社はお客さまの使用状況に合わせた燃費向上にも積極的に取り組んでいます。例えば、快適なドライブや車室内環境との両立を図るためにエンジン、トランスミッションの特性改良やエアコンの最適制御でエンジン負荷を低減し、低燃費化を図ってきました。新たにエクシーガでは、充電制御システムを採用しました。電流センサーでバッテリーの状態をリアルタイムでモニターし、走行状態に応じた最適な発電量をリニアオルタネーターで制御することで燃費向上を図

りました。今後とも環境に配慮し、一層の実燃費改善に取り組んでいきます。



## エコドライブ支援の取り組み

### 運転者・クルマ・環境とのコミュニケーション

当社は運転者とクルマのコミュニケーションを促進するインターフェースとして、2006年発売のレガシィに搭載したエコドライブ支援装置エコゲージ、シフトアップインジケータ(MT車)の装備を拡大しています。2008年発売の新型車エクシーガにはエコゲージを装備しました。

今後もエコドライブ支援装置をさらに発展させるべく開発に取り組めます。

※1 CAE  
Computer-aided engineering  
(コンピューター支援エンジニアリング)

#### ■ エコゲージ

エコゲージの針を「+」方向に振れさせることで、ドライバーにエコドライブ状態を知らせます。意識的にアクセルを調整することで約5%(社内測定値)の燃費向上が見込めます。



エクシーガ用エコゲージ

#### ■ シフトアップインジケータ

燃費走行に適したエンジン回転数に達するとインジケータが点滅し、ドライバーにシフトアップ操作を促します。



シフトアップインジケータ

## 燃費向上の成果

### ■ 軽自動車

株式会社IRIコマース&テクノロジー社が運営する携帯端末向けマイカー情報管理サービス「e燃費」において、2008年1月～12月の1年間における燃費平均値ランキングにてR2が3年連続となる1位、R1、ステラも上位5位以内に入り、軽自動車部門の「燃費アワード2008-2009」を受賞しました。

2006年度から3年連続で、スバルのR1、R2、ステラが国土交通省発表の「平成20年度燃費の良いガソリン軽自動車ベスト10(MT車を除く)」の上位を占めています。



### ■ 普通車

新型車エクシーガの2.0ℓ・DOHCエンジンのFF・4AT車(車両重量1,520kg以上)で平成22年度燃費基準+25%を達成しており、国土交通省発表の「平成20年度 普通・小型自動車重量区別車ベスト10(MT車を除く)」の1,516～1,765kgの重量区分におけるベスト3に入っています。また、2.0ℓ・DOHCエンジンAWD全車種で平成22年度燃費基準+20%を達成しました。



## 排出ガスのクリーン化

### 排出ガスクリーン化への考え方

自動車から排出される一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NOx)などは、特に自動車が集まる大都市部における大気汚染の原因のひとつになっています。スバルは、大気汚染の状況を改善するため、規制より厳しい基準に適合した低排出ガス車(国土交通省認定)を順次市場投入しています。

### ■ 排出ガスのクリーン化 目標

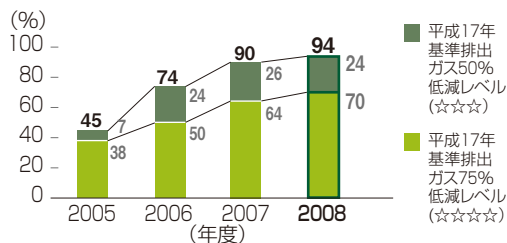
平成17年排出ガス基準75%低減対応の技術を拡大し、さらなる低排出ガス対応化を進め、低排出ガス車両の普及を促進する

## 低排出ガスの達成状況

新型車エクシーガは全車、国土交通省「低排出ガス認定車(平成17年度基準50%低減レベル(☆☆☆)以上)」であり、平成17年度基準75%低減レベル(☆☆☆☆)車の生産台数は70%、低排出ガス認定車の生産台数は94%に達しました。

今後もスバルは低排出ガス車の普及を促進していきます。

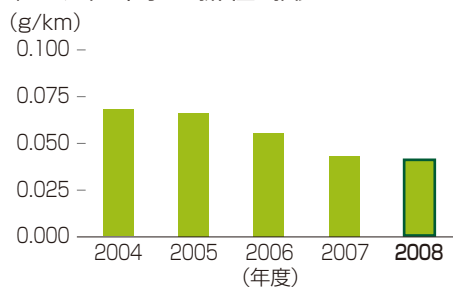
### ◆ガソリン乗用車の低排出ガス車比率の推移



## 平均NOx排出量の推移

低排出ガス車認定基準に代表されるクルマを順次市場投入していくことによりスバル車の平均NOx排出量は下のグラフのように年々低減しています。

### ◆スバル車の平均NOx排出量の推移



\* 出荷時の対応規制値(10・15モード、11モード)から算出しました。  
 ・現行テストモードに対応していない車種に関しては、現行モードに対応した規制値または換算値で算出しました。  
 ・現行モードとは、10・15モードと11モードのコンバインモードです。

## クリーンエネルギー自動車

### クリーンエネルギー自動車開発への考え方

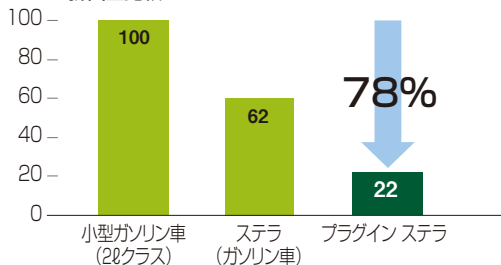
クリーンエネルギー自動車は、温室効果ガス（二酸化炭素）や大気汚染物質（一酸化炭素、炭化水素、窒素酸化物など）の排出が少なく、ガソリン自動車より環境への影響が少ないという特性を持っていますが、価格や航続距離などの技術的な課題があります。スバルでは、ガソリン自動車の走りや利便性などの特性を継承させたクリーンエネルギー自動車や電気自動車の開発を進めるとともに、ハイブリッド車や燃料電池車に使用する次世代電池開発にも積極的に取り組んでいます。

今後、次世代電池として開発を進めている「NanoV」電池（商標登録申請中）の実用化を進め、200km以上走行可能な電気自動車の実現を目指します。



電気自動車  
プラグイン ステラ

### ◆小型ガソリン車を100としたときの1km走行あたりのCO<sub>2</sub>排出量比較

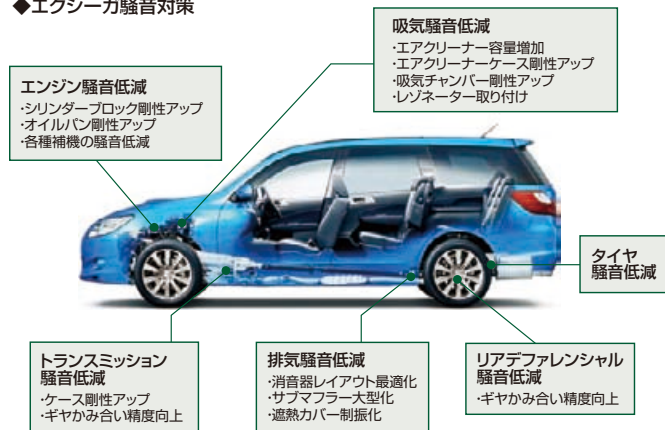


## 騒音対策

### 騒音低減に向けての技術開発

当社では自動車から出る交通騒音の低減にも積極的に取り組んでいます。交通騒音の主な音源となるタイヤ騒音、エンジン騒音、吸排気系騒音に対し、効果的に低減できるように技術開発を進めています。2008年6月発売の新型車エクシーガでは、この技術を採用することにより、保安基準に定められた加速騒音レベルに対し、十分な余裕を持って適合できる性能を実現しています。

#### ◆エクシーガ騒音対策



#### ◆低燃費かつ低排出ガス認定車※1の出荷台数

##### 2008年度出荷実績

		乗用車		貨物車		合計台数(比率)
		普通車 小型車	軽自動車	普通車 小型車	軽自動車	
低燃費かつ 低排出ガス認定車	平成17年基準排出ガス 75%低減レベル☆☆☆	45,931	42,964	0	0	88,895 (48.0%)
	平成17年基準排出ガス 50%低減レベル☆☆	30,899	0	0	488	31,387 (16.9%)
合計		76,830	42,964	0	488	120,282 (64.9%)
出荷総台数						185,321 (100%)



「スバル車」環境対応車普及促進  
税制対応については  
当社ホームページをご覧ください。  
[http://www.subaru.jp/information/  
topics/2009/tax/](http://www.subaru.jp/information/topics/2009/tax/)

※1  
省エネ法に基づく2010年  
度燃費基準早期達成車で、  
かつ、低排出ガス車認定実  
施要領に基づく低排出ガス  
認定車。

# 自動車リサイクル

## 限りある資源を有効活用していくために

### 基本的な考え方

スバルは自動車リサイクル法<sup>※1</sup>に則り、使用済み自動車(ELV<sup>※2</sup>)のリサイクル・適正処理を行うために「自動車リサイクルシステム(ARSS<sup>※3</sup>)」を構築し積極的に対応を図ってきました。2008年度実績としてASRリサイクル率は2015年度の法定基準(ASRリサイクル率70%以上)をクリアし、77.7%を達成しました。

### 設計段階での取り組み

#### リサイクル配慮設計の推進

限りある資源を有効に活用していくために、リサイクルを考慮したクルマづくりを推進しています。

#### ■リサイクル市場調査

国内各地の解体事業者、シュレッダー事業者、および廃棄物処理事業者などを訪問し、実際のELV処理の実態を含めた市場の現状と今後の動向などについて意見交換を継続的に行っています。その結果は、リサイクル配慮設計の方向づけと、今後の具体的な研究テーマ抽出に役立っています。

#### ■リサイクル性向上の取り組み

##### <ワイヤリングハーネス類の解体性向上>

ワイヤリングハーネスは多くの銅が使用されているため、シュレッダー処理前にこれらをELVから解体できれば鉄と銅の分別回収の向上につながり、資源リサイクルとしての利用価値も上げられます。効率よく短時間で回収するために回収しやすいハーネスレイアウト、構造について研究を行っています。2008年度は継続して、ART<sup>※4</sup>と共



ワイヤリングハーネス類の解体性向上

同でハーネス設計リサイクルガイドラインの策定に取り組みました。

##### <材質表示の改善>

材料のリサイクルは、その部品の材質が何かわかることが最も重要です。当社は業界ガイドラインに先駆けて1973年から樹脂部品への材質表示を実施してきました。従来は部品の目立たない裏面などに表示していましたが、部品を解体しなくても材質表示が確認できれば「解体したが、別の材質だった」というムダを省くことができると考え、表示の位置を改善しました。2001年から順次「レガシィ」、「インプレッサ」、「ステラ」を始めスバル車全車種のバンパーに実施しています。



材質表示の例  
(>PP<のPPは「ポリプロピレン」を表します)

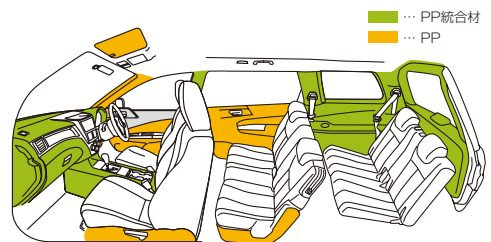


解体しなくても材質が確認できます

##### <リサイクルしやすい材料の採用>

新型車・モデルチェンジ車のほとんどの内外装樹脂材にリサイクル性に優れたオレフィン系樹脂<sup>※5</sup>を使用しています。特に、バンパーにはバンパー用の、内装部品には内装用の統合材を採用しています。

##### ◆内装用統合材、オレフィン系樹脂の使用状況「エクシーガ」



■ …… PP統合材  
■ …… PP

※1 自動車リサイクル法  
使用済み自動車の再資源化等  
に関する法律(2005年1月  
1日施行)

※2 ELV  
End of Life  
Vehicles

※3 ARSS  
Automotive  
Recycle System of  
SUBARU

※4 ART  
Automobile  
shredder residue  
Recycling  
promotion Team  
(自動車破砕残さリサ  
イクル促進チーム)  
ASRのリサイクル処理は、自  
動車メーカーが2チームに分  
かれて推進している。  
ARTは日産、マツダ、三菱、富  
士重その他全12社で運営。  
もう一つはTHチームでトヨ  
タ、ホンダ、ダイハツその他で  
運営している。  
ASRについては44ページ  
の※2をご覧ください。

※5 オレフィン系樹脂  
PP(ポリプロピレン)、PE(ポ  
リエチレン)などの総称



## ■適正処理性向上の取り組み

特に、フロン(エアコンの冷媒)、エアバッグの適正処理は自動車リサイクル法でも規制されており、より処理しやすくすることが不可欠と認識しています。

### <エアコン冷媒の削減>

エアコン冷媒は現在オゾン層に害のない代替フロンHFC134aを使用していますが、地球温暖化に影響があるとされているため、HFC134aの使用量削減およびエアコン使用過程における漏れ量の削減にも取り組んでいます。また、フロン以外の代替冷媒の研究も進めています。

### <エアバッグ類の処理性向上>

エアバッグおよびプリテンショナー付きベルトは事故時等、乗員の衝撃低減に対し、大いに貢献します。反面、大多数のクルマでこれらエアバッグ類が未使用のまま廃車されます。自動車リサイクル法においても、これらエアバッグ類の処理が求められていますが、より安全かつ容易な方法を求め、“車上作動処理”“取り外し回収処理”の両面より、関連部品も含めた最適構造の研究を行っています。

## 環境負荷物質の削減

自動車工業会の自主行動計画に基づき、環境負荷物質4物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム)の削減に取り組み、一部前倒しで既に目標を達成していますが、2008年度は鉛含有のパワートレイン用エラストマー用接着剤を鉛フリー化するとともに、鉛フリーはんだでは、エアバッグセンサー、アンテナ、スピーカー、シートベルト、ドアミラーに加え、新たに後席用ナビとそのリモコン、リレー類などに採用しました。今後、順次拡大展開を図っていきます。また、水銀では、除外部品となっているコンビネーションパネルに加え、新たに前席用ナビの液晶パネルを自主的に水銀フリー化しました。

### ◆削減目標/自動車工業会の自主行動計画(新型車より)

削減物質	目標(実施時期)	削減内容
鉛	2006年1月以降	1996年比、1台あたりの使用量1/10以下
水銀	2005年1月以降	一部(コンビネーションパネル、ディスチャージヘッドライト、ナビの液晶パネル等にごく微量に含有)を除き、使用禁止
カドミウム	2007年1月以降	使用禁止
六価クロム	2008年1月以降	使用禁止

## 車室内VOC<sup>\*1</sup>の低減

人体の鼻、のどなどへの刺激の原因とされるホルムアルデヒド、トルエンなどの揮発性有機化合物を低減するために、車室内の部材や接着剤の見直しに取り組んでいます。2008年度の「新型エクシーガ」では、厚生労働省が定めた指定13物質について、室内濃度指針値を下回るレベルに低減し、日本自動車工業会自主目標<sup>\*2</sup>を達成しました。なお、昨年度の「インプレッサ」、「フォレスター」でも前倒しで達成しており、今後も、厚生労働省が定めた室内濃度指針値以下にする取り組みを進め、さらなる車室内環境の快適化に努めていきます。

<sup>\*1</sup> VOC  
Volatile  
Organic  
Compounds  
(揮発性有機化合物)

ホルムアルデヒドやトルエンなど、常温で揮発しやすい有機化合物のことで、近年、新築の住宅・ビルなどに入ると、目や鼻、のどなどに刺激を感じるなどの体調不良が生じるシックハウス症候群の要因とされている。

<sup>\*2</sup> 自主目標  
日本自動車工業会が発表した2007年度以降の新型乗用車(国内生産・国内販売)に対する「車室内のVOC低減に対する自主取り組み」にて、厚生労働省が定めた13物質について、室内濃度を指針値以下にするというもの。

## 使用済み自動車(ELV)の処理

### 「全部再資源化」への取り組み

#### － 使用済み自動車の銅含有部品 取り外しのための情報公開 －

スバルではELVのリサイクル率のさらなる向上のために「使用済み自動車の銅含有部品取り外しのための情報」を公開しました。この情報はARTのホームページで公開されています。

現在、乗用車のリサイクルにおいてASRを発生させずリサイクル率を向上させる手段としては「全部再資源化」と呼ばれる方法がとられています。

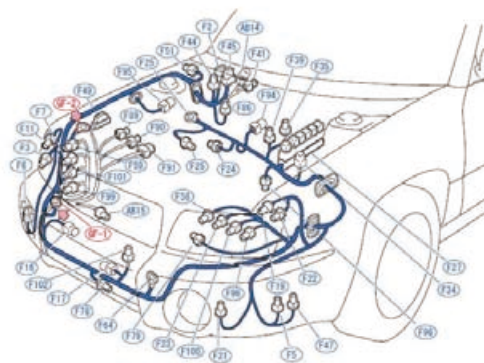
これは廃車ガラクを電気炉等に投入、鉄分を溶解し建築用資材などとして製品化するものです。この際、ASRのもととなる部品類は炉の中で燃焼、熱源として利用されるため(サーマルリサイクル)、埋め立てなどの処理を行う必要がありません。

この「全部再資源化」を実施するには鉄鋼製品の品質保持のため、廃車ガラクに含まれる銅含有量を極力少なくする必要があり、事前の銅含有部品取り外しをいかに効率よく、徹底して行えるかが重要となります。

この銅含有部品の大部分を占める「ワイヤリングハーネス」が車体のどの部分にレイアウトされているかを、現在ELVの主流となっている過去の生産車に関して公開するのが、「使用済み自動車の銅含有部品取り外しのための情報」の主眼です。

当社では2008年5月よりレガシィ(1994年国内発売車)とヴィヴィオ(1993年発売車)の情報の公開を開始しました。また2008年12月よりフォレスター(1997年国内発売車)とインプレッサ(1992年国内発売車)の情報を公開し、ELVとして発生するスバル車の多くをカバーしています。

#### ◆フロント ワイヤリングハーネス



# クリーンな工場 生産段階での環境配慮を推進

## 基本的な考え方

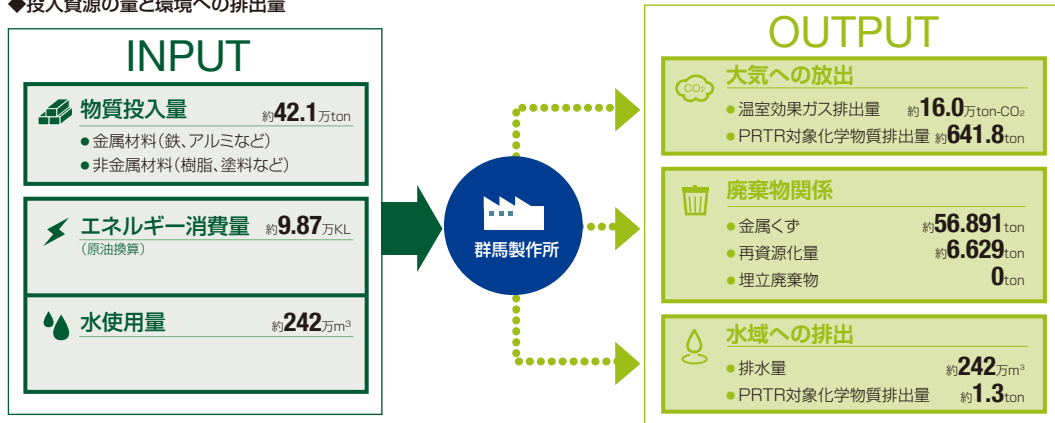
スバルでは、2004年度に全生産事業所において廃棄物埋立量ゼロレベルを達成しています。省エネルギー活動にも積極的に取り組み、地球温暖化防止へ向けた取り組みを推進しています。

## 投入資源量と発生物総量

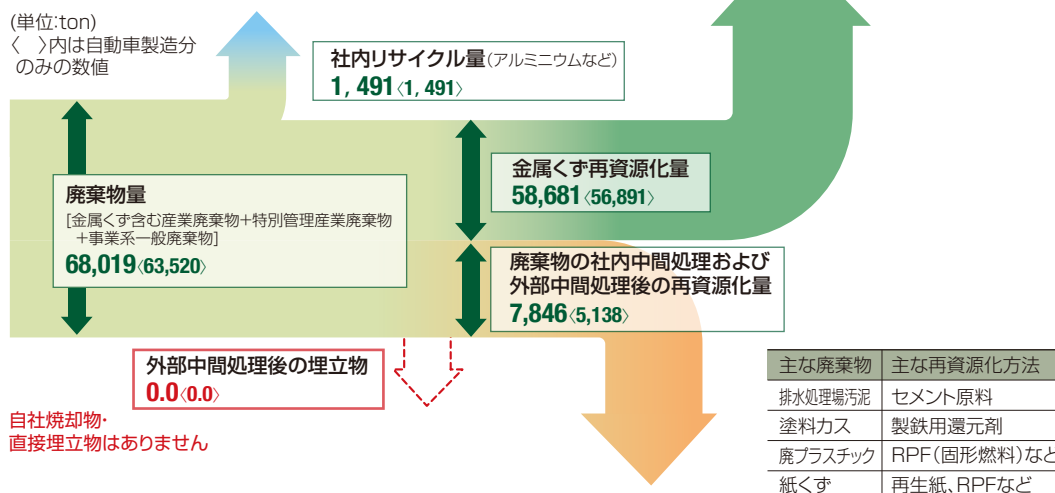
### 自動車製造(群馬製作所)における主な投入資源量と発生物総量

スバル車を製造する群馬製作所における2008年度の主な投入資源の量と環境への排出量は下図のとおりです。

#### ◆投入資源の量と環境への排出量



#### ◆2008年度全事業所および群馬製作所の発生物発生量と処理の概要



## 廃棄物削減

### 埋立物発生量は全工場でゼロレベルを継続中

スバルでは、2004年度から廃棄物のゼロエミッションを継続達成しています。2008年度の廃棄物発生量とその処理概要は下図のとおりです。

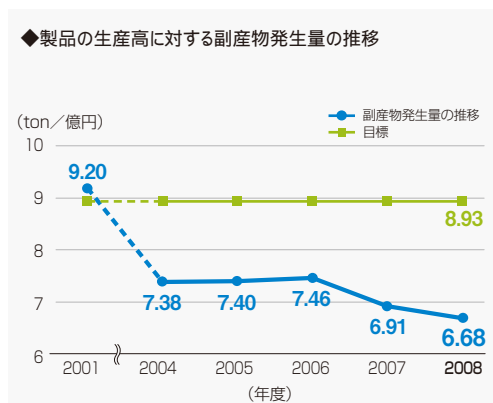
### 廃棄物削減への取り組み

スバルでは、ゼロエミッションの継続はもちろん、廃棄物が発生すること自体をムダと考え、発生量を削減する取り組みを進めています。

生産工程で使用する原材料の歩留まり向上

や、塗装工場で使用する塗料の塗着効率の向上などの取り組みを進めて、資源の有効利用に努めています。

下のグラフは、自動車部門の副産物(金属くずやアルミなどの非鉄くず)の発生量を製品の生産高で割った指標です。2008年度は6.68と過去最良の値となりました。また目標値(資源有効利用促進法による副産物発生抑制計画値)に対しては2003年度から連続6年達成しています。



## 水資源使用量低減への取り組み

### 前年度比約8%の低減を達成

2008年度水使用量は全事業所合計で約333万m<sup>3</sup>で、前年度比約8%低減となりました。

これは生産量の減少による要因もありますが、各事業所での給水管からの漏れ点検など、きめ細かな低減活動を実施してきた効果です。(生産額原単位でみても最近10年間で最もよい値となっています)

\*水使用量の推移については47ページに掲載しています。

## 環境負荷物質の低減活動

### 化学物質の管理活動(PRTR制度)

当社ではPRTR対象18物質を使用しています。2008年度の排出量は全事業所合計で681トンとなり、前年度に比べ162トン(約

19%低減)の大幅な削減ができました。これは、生産量の減少による要因もありますが、自動車ボディーの塗装工程で使用する塗料の水性化の範囲拡大や、洗浄用シンナーの使用量低減などの取り組みによる成果です。

\* PRTR対象化学物質排出量などの推移については47ページに掲載しています。

## 環境測定値の上乗せ自主基準

当社では、大気汚染物質・水質汚濁物質・騒音・振動については、法規制値よりさらに厳しい自主基準値(原則として法規制値の80%レベル以下)を設定して管理しています。当社では自主基準値超過事例に対して是正処置を図っています。

## 大気汚染物質

ボイラーなどの特定施設より排出される窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)の全事業所合計排出総量の推移は47ページのグラフのとおりです。SOx、NOxともに2008年度の定期測定の結果、すべての測定個所で自主基準値を順守しています。

## 水質汚濁物質

排水中の窒素・リン・BODの全事業所の排出総量の推移は47ページのグラフのとおりです。

また、2008年度、環境測定の結果、1件の基準値の超過が発生しました。

\* 基準値超過の内容については46ページの「2008年度 環境法規制値超過件数と内容」に記載しています。

## 群馬製作所の塗装工程で発生するVOC(揮発性有機化合物)

2008年度の塗装面積あたりのVOC排出量は56.3g/m<sup>2</sup>で、2000年度実績に対して38.4%削減となり、第4次環境ボランティアプランの目標<sup>※1</sup>を前倒して達成しています。これは、塗料の水性化や、シンナー回収率向上による成果です。今後はさらに低減の上乗せに取り組んでいきます。

※1 第4次環境ボランティアプラン目標値  
2010年度末までに2000年度比30%以上低減する。

## 土壌・地下水汚染防止

当社では、1998年より自主的に各事業所の土壌、地下水の調査を行い、その結果を行政に報告してきました。宇都宮製作所など土壌・地下水の浄化対策を行った事業所においても、引き続き地下水のサンプリング調査を継続的にを行い、結果を行政に報告しています。

## PCB機器などの保管状況

当社では、法規を順守し適切にPCBを保管し、毎年度届出を行っています。

保管しているPCB含有機器(トランス・コンデンサーなど)につきましては、2006年3月に日本環境安全事業株式会社(JESCO)に早期処理の登録を行いました。

## 地球温暖化防止活動

### CO<sub>2</sub>排出量削減と省エネルギー活動

各製作所では、これまでに天然ガスコージェネレーションシステム導入、重油ボイラーのガスボイラー化、待機電力の削減、エネルギー多量消費工程に的を絞った省エネルギー活動の展開

など、CO<sub>2</sub>排出量削減と省エネルギーのためにさまざまな活動を展開してきました。その結果、生産量減少の要因もありますが、2008年度のCO<sub>2</sub>総排出量は約205千ton-CO<sub>2</sub>となり、1990年度比25%の低減となりました。

この実績から、従来かかっていた「2010年度に1990年度比15%のCO<sub>2</sub>総排出量の削減」という目標を「2010年度に1990年度比22%のCO<sub>2</sub>総排出量の削減」と上乗せした目標を設定しチャレンジしています。

### 代替フロン(HFC134a)の大気放出量の低減活動

群馬製作所の自動車生産ラインでは、エアコンガス用の冷媒として使用されている代替フロン(HFC134a)の大気への放出量を削減するため、これまでにエアコンガス注入時や回収時の漏れを極小化する取り組みを重ねてきました。その結果、1996年度実績に対して、2003年度からは95%以上の大気放出量削減を達成し、2006年度からは約97%の削減を達成しています。

各事業所の特徴的な情報につきましては、63～80ページのサイトレポートにも掲載しています。

## TOPICS 矢島工場にあるにおい測定器

群馬製作所の本工場、矢島工場には、自動車の塗装工場があり、臭気が発生する恐れがあります。そこで工場臭気の見張り番として、におい測定器を設置しています。24時間体制でにおい指数を見ることができるシステムで、常時監視することで、地域の環境問題に取り組んでいます。



臭い測定器

# クリーンな物流 環境に配慮した物流

## 基本的な考え方

スバルでは物流段階で最も環境負荷の大きな完成車輸送において最適な輸送ルートの設定、海上輸送などへのモーダルシフトの推進、積載効率の向上、省エネルギー運転の推進などに取り組んでいます。また、海外向けノックダウン部品輸送では、梱包資材の再利用などによる資材削減に取り組んでいます。

### 完成車輸送における環境負荷の低減

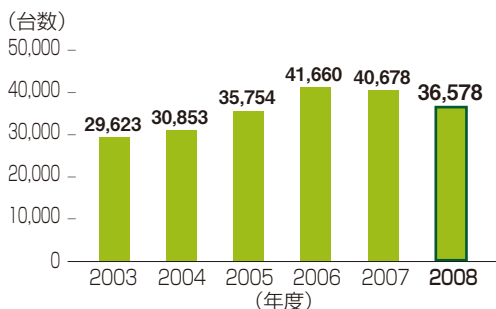
#### スバルロジスティクスの取り組み

完成車の輸送では、最適な輸送標準ルートの設定、モーダルシフトの推進、積載効率向上などの輸送の効率化を進めることで環境負荷低減活動に貢献しています。また、スバルロジスティクスでは同業他社と完成車の共同輸送の取り組みを進め、2008年度の共同輸送取扱量（他社への委託台数と他社からの受託台数の合計）は、36,578台となりました。

2008年度も、デジタルタコグラフ、アイドリングストップ装置、エコタイヤの装着を推進し、定期的に協力会社から走行距離・燃費データを集約することで、より精度の高いエネルギー消費量（含むCO<sub>2</sub>排出量）の把握を行いました。その結果、前年比約3%の燃費向上を達成し、年間1%以上のエネルギー消費量の低減を継続的に行っています。



◆共同輸送取扱量の推移



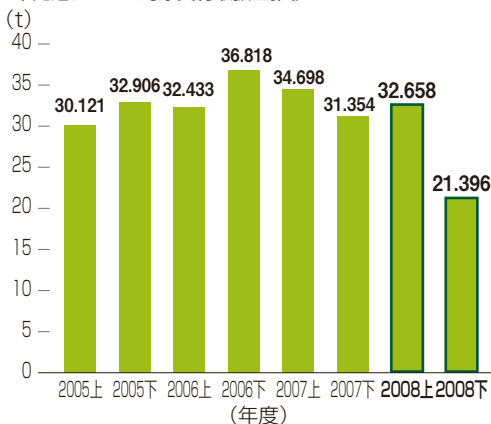
## 梱包資材の再利用化

### 海外向けノックダウン部品梱包資材の再利用による資材削減活動

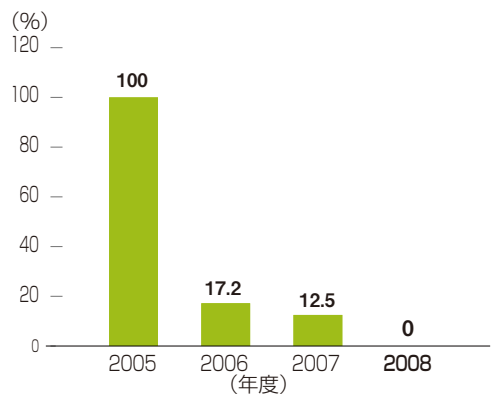
ノックダウン部品の梱包荷姿設計を担うスバルロジスティクス部品物流本部では、梱包資材の再利用化を柱に環境負荷低減活動に取り組んでいます。

取り組み内容としては、輸送効率を上げるために独自の寸法規格を用い、コンテナに効率よく詰め込むことを実現したスチール製通いパレットを採用している。また2006年3月より、発泡スチロール製および、真空成型製梱包資材の再利用を実施しており、海外からの返却荷姿においても、前述したスチール製通いパレットに収納して海外から返却できるよう、資材設計の面で考慮し、廃棄物を発生させないように取り組んでいます。

◆発泡リユース対象資材取扱量推移



◆発泡リユース対象資材購入量



# クリーンな販売・サービス

## クリーンな販売店に向けた取り組み

### 基本的な考え方

スバルでは使用済みバンパーの自動車部品へのリサイクルなど販売店でのリサイクルに積極的に取り組んでいます。販売会社における環境保全の取り組みを強化するために環境マネジメントシステム「エコアクション21」の導入を開始しました。

### 使用済みバンパーの回収

#### 使用済みバンパーを各種部品にリサイクル

当社では業界ガイドラインに先駆けて1973年度から樹脂部品への材料表示を行ってきました。この取り組みは現在、修理で交換した使用済みバンパーを回収して自動車部品にリサイクルする活動に役立っています。2008年度、全国から回収した使用済みバンパーの本数は41,055本(前年度実績41,412本の99.1%)でした。回収したバンパーは下表のように、スバルの各種部品にリサイクルされ、活用されています。

#### ◆使用済みバンパーの車種別部品活用例

対象車種	対象部品
R1,R2,プレオ	ユニバーサルジョイントカバー アンダーカバー
サンバー	エアガイド エンジンカバー
レガシィ (~2009年5月)	アンダースポイラー バッテリーパン リヤスカート エプロン
インプレッサ	トランクトリム

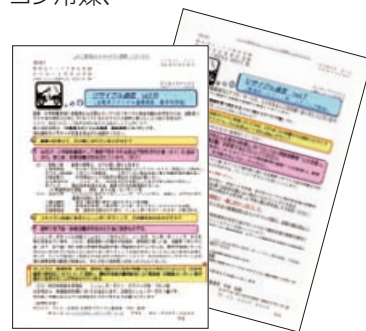
#### ◆使用済みバンパー回収本数の推移



### 当社と販売店のリサイクル推進コミュニケーション「リサイクル通信」の発行を2008年9月よりスタートしました。

月刊紙として発行しており、現在は特約店から回収された使用済みバンパー、エアコン冷媒、エアバッグなどが、どのように処理・リサイクルされているかを解説しています。

販売店からの内容に関する問い合わせにも応じており、自動車リサイクルに関したより活発な双方向コミュニケーションツールにしたいと考えています。



### 販売会社での環境保全の取り組み

#### エコアクション21(EA21<sup>\*1</sup>)の導入を開始

スバルでは、国内の販売会社における環境保全の取り組みを強化するために2008年9月から環境省がISO14001<sup>\*2</sup>をベースに策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21(EA21)」の導入を開始しました。

引き続きEA21の認証取得の範囲拡大を進めていきます。

#### ◆認証取得状況(直近の情報を含みます)

販売会社名	従業員数	認証登録日	認証対象店舗数
東京スバル株式会社	1,253人	2009年1月27日	全59店舗
埼玉スバル自動車株式会社	477人	2009年2月25日	全34店舗
名古屋スバル自動車株式会社	512人	2009年4月30日	全36店舗
四国スバル株式会社	160人	2009年5月29日	全14店舗
東四国スバル株式会社	177人	2009年5月29日	全13店舗



2009年2月25日  
埼玉スバル自動車株式会社に  
授与された認証と吉澤社長



2009年4月25日  
名古屋スバル自動車株式会社認証授与式  
左:水野社長  
右:竹内EA21中央事務局運営委員

※1  
EA21の認証取得には以下の施策が求められます。  
●環境マネジメントシステムの構築  
●CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物、水使用量の把握、削減目標設定と取り組み  
●環境活動レポートの定期的な作成と公表

※2  
ISO14001の認証につきましては以下の7社が取得しています。  
千葉スバル自動車株式会社、  
青森スバル自動車株式会社、  
富士スバル株式会社、  
大坂スバル株式会社、  
新潟スバル自動車株式会社、  
熊本スバル自動車株式会社、  
北陸スバル自動車株式会社  
[以上取得順]



### ■ 工場の概要 (2009年3月末現在)

工場名	本工場	矢島工場
所在地	群馬県太田市スバル町1-1	群馬県太田市庄屋町1-1
土地面積	585,521m <sup>2</sup>	549,845m <sup>2</sup>
建物面積	312,313m <sup>2</sup>	255,466m <sup>2</sup>
従業員数	3,088人	2,555人
主な生産品目	ステラ、R1、R2、プレオ、サンバー	レガシィ、エクシーガ、インプレッサ、フォレスター

## 地域社会とのかかわり

### 地域社会とのコミュニケーション

#### ■ 地域行事への積極的な参加

群馬製作所では、地域社会との共生を通じて、豊かな社会づくりに貢献していくことを目指して、ふれあい行

事、交流会、工場見学受け入れ、あるいは地域清掃活動、地域イベントへの参加など、さまざまなかたちで地域の皆さまとのコミュニケーションを積極的に図っています。ここでは、2008年度の活動の一部をご紹介します。



7月 「おおた夏まつり」にはスバルみこして600名参加



8月 一般応募の親子221名を招待し開催した「スバル体験教室」



9月 「太田市環境フェア」で電気自動車「プラグインステラ」をアピール



10月 「上州太田スバルマラソン」  
スバル地域交流会と共同で一般市民マラソンを開催。誘導スタッフ100名が参加し先導車両の提供やマラソン完走者1名へステラを1台贈呈するなど大盛況となりました



11月 矢島工場を一般開放し「スバル大感謝祭」を開催。来場者は3万人にのぼりました



年4回 一般の方を対象に無料コンサートを開催。地元出身者に出演の場を提供するほか、環境活動促進のため演奏会で花のタネと苗を無料配布しています。毎回約500名が集う恒例行事となっています

#### ■ スバルビジターセンター

地域交流の中でも中核をなすものが、工場見学を主とするスバルビジターセンターです。お客さまや地域の小学生を中心に年間10万人以上の来場者をむかえています。



スバルビジターセンター

#### ■ スバル出前環境教室

次世代の「モノづくり」を担う子どもたちに、環境問題の現状を正しく伝え理解してもらうとともに、当社が取り組んでいる環境保全活動を通じて、子どもたち自身の環境問題に対する気づきと実行のキッカケづくりにしてもらいたいという考えから、地域の小学生を対象に「スバル出前環境教室」を開催しています。

「みんなで地球をまもろう!」をテーマに、フラスコと炭酸ガスを使った「地球温暖化再現実験」、「環境クイズ」などで、「現在と将来の地球環境のために自分たちのやる





■ 工場の概要(2009年3月末現在)

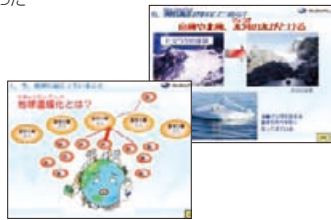
工場名	太田北工場	大泉工場	伊勢崎工場
所在地	群馬県太田市金山町27-1	群馬県邑楽郡大泉町いすみ1-1-1	群馬県伊勢崎市末広町100
土地面積	43,750m <sup>2</sup>	376,038m <sup>2</sup>	177,422m <sup>2</sup>
建物面積	26,841m <sup>2</sup>	179,984m <sup>2</sup>	58,866m <sup>2</sup>
従業員数	74人	1,535人	80人
主な生産品目	自動車用部品	自動車用発動機(エンジン)、自動車用変速機	自動車用補修部品

べきこと、できることを考え、行動にうつす」意識付けを目標とした内容となっています。

2004年度に16校から開始したこの出前環境教室は、徐々に範囲を拡大し、2008年度は、太田市と邑楽郡大泉町内すべての30校、伊勢崎市内1校、計31校の小中学校で実施しています。



スバル出前環境教室、フラスコを使った地球温暖化再現実験の様子



教育・啓発活動など

群馬製作所では、職種・階層に応じた教育や訓練を実施しています。また、関係会社・お取引先支援の一環としてさまざまな教育も実施しています。



4月 関係会社・お取引先の新入社員を対象とした安全衛生・環境教育



6月 スバル安全環境協議会RST(職長)教育が実施され、34名が参加しました

環境保全の取り組み

群馬地区<sup>※1</sup>の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、群馬地区では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。



—群馬地区 環境方針— [2002年6月改定]

富士重工業株式会社 群馬地区は豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐため環境にやさしい「クルマづくり」を目指し「クリーンなスバル」を「クリーンな工場」から提供します。

- (1) 自動車部門における環境への影響を考慮して、積極的な環境保全に努めます。
- (2) 関連する法規制・地域協定・業界規範を順守するとともに、環境上の目的・目標を定めて自主的な活動に取り組みます。
- (3) 「継続的な改善と汚染の未然防止」が重要であることを認識し、一人ひとりが自覚と責任を持って行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動のさらなる向上を図ります。
- (6) 社会の一員として、地域や社会との交流を図るとともに、環境保護活動に積極的に協力します。

※1 「群馬地区」とは、自動車の生産拠点である群馬製作所を中心に、同製作所に所在するスバル技術本部の群馬組織、および、栃木県佐野市に所在するスバル研究実験センター、ならびに、太田市朝日町に所在するスバル部品センターを範囲としたISO14001環境マネジメントシステムの外部審査適用範囲の総称です。

## 2008年度の主な環境保全活動実績

### ■ 地球温暖化防止活動

2008年度は、製造工程の省エネルギー改善、固定エネルギー抑制などを実施したほか、4基の天然ガスコージェネレーションシステムの効率的な稼働により、CO<sub>2</sub>排出量は、1990年度比23.4%低減しました。

また、水資源については、1999年度比52%低減しています。

### ■ 廃棄物削減活動

廃棄物削減につきましては、廃棄物が発生する量を削減する活動を継続しています。

2008年度は、総発生量(金属くず含む)を2007年度比3,224トン削減しました。また、電子マニユフェストへの対応も開始しました。



電子マニユフェストへの対応として廃棄物管理ソフトを試験的に導入しました

### ■ 公害防止活動

2008年度にいただいた苦情、化学物質の流出事故、環境関連法規制値の超過は46ページの一覧に示したとおりです。「すべてゼロ」を目標に、環境リスクアセスメントや工事業者教育をさらに推進していきます。

また、塗装工程などから排出されるVOCは、塗料の水溶性化などにより第4次環境ボランティアプラン目標<sup>※1</sup>を

達成しました。

今後もすべての環境保全活動において第4次環境ボランティアプラン目標の達成を目指して、積極的に活動を進めていきます。

## 環境監査結果

### ■ 環境マネジメントシステムに基づく内部監査の結果

2008年7月4日～10月27日の期間に、群馬地区内全部署を75に区分して、すべての部署を対象とした内部監査を実施しました。併せて、同期間中に環境関連法規を管理する9部署に対して、環境関連法規の順守監査を実施しました。是正処置要求事項は、77件発生しました。是正処置とともに予防処置も進め、群馬地区全体のレベルアップを図っています。今後も内部監査員の力量向上と内部監査の仕組みの改善を継続的に進めていきます。

### ■ ISO14001外部審査結果

2009年1月21日～23日の期間にISO14001サーベイランス審査を受審し、不適合2件・観察事項1件が指摘されましたが、直ちに不適合の是正措置を行ったことにより、ISO14001の認証継続が確認されました。



ISO14001外部審査のようす(トップインタビュー)

## 環境データ

### ■ CO<sub>2</sub>排出量 (単位:ton-CO<sub>2</sub>)

項目	2008年度実績
CO <sub>2</sub> 排出量	159,687
1990年度を100とした場合の指数	76.6

電力および化石燃料(重油、軽油、灯油、ガソリン、都市ガス、LPG)の合計使用量を換算しています。  
CO<sub>2</sub>換算係数の出典:社団法人日本自動車工業会(個別に把握した換算係数を使用している場合があります)

### ■ 水使用量 (単位:m<sup>3</sup>)

項目	2008年度実績
水使用量(m <sup>3</sup> )	2,417,893
1999年度を100とした場合の指数	48.0

※1 第4次環境ボランティアプランVOC低減目標  
VOC排出量原単位を2000年度比30%以上低減する。

### ■ 廃棄物・金属くず関連 (単位:ton)

項目	2008年度実績
金属くず	56,891
社内リサイクル量	1,491
直接埋立	0
外部中間処理	5,138
外部中間処理後埋立	0

## 地域社会とのかかわり

### 地域社会とのコミュニケーション

宇都宮製作所では、社会の一員として周辺地域や社会との共生を図り、ともに繁栄していくことが大切であると認識しています。地域とのふれあい行事や、交流会

の開催、クリーン活動、各種募金への積極的な協力など、さまざまなかたちで地域貢献を行っています。ここでは、2008年度の取り組み、活動の一部をご紹介します。



4月 敷地内の旧引込み線跡地を歩行者・自転車専用の遊歩道として地域に開放、地域の皆さまから「スバルロード」と命名していただきました。これまで迂回していた住民の方からたいへん喜ばれています



6月 障がいを持つ方とのふれあいの場となる「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」では、ボランティアで競技進行誘導係などを担当しました



8月 昭和59年から実施している「富士重工 盆踊り大会」には、地域自治会、婦人会、子ども会や協力企業など4,000名が参加し盛大に行われました



10月 「富士重工ふれあい祭り」では、従業員や地域住民の方約7,000名が集う大規模なものとなりました。この中で、環境PRブースを出展し「宇都宮製作所CSR環境の取り組み」や「緑化推進活動/緑の募金」をPRするとともに、社団法人栃木県緑化推進委員会の協力をいただき、ブルーベリーの苗木の無料配布を行いました。配布は今回で4回目となりますが、開始前から長蛇の列ができる盛況ぶりです。今後も緑化推進活動の輪を広げていきます



3月 「企業体験バスツアー工場見学会」宇都宮市初の試みの企業体験バスツアーの要請を受け、航空機産業の現場を体感していただくメニューを組込んだ見学会を実施。市内の高校・大学・大学院の学生が参加しました

### 教育・啓発活動など

宇都宮製作所では、人事階層別教育をはじめさまざまな機会を捉え従業員への環境教育、内部監査員教育、フォローアップ教育などを計画的に実施しています。また、地域の関係会社・お取引先支援の一環として、環境パトロールなどを積極的に実施しています。

毎年定期的に「環境事例発表会」を開催し、各職場の優秀な改善事例について活動内容や成果の発表を行っています。

さらに、各職場では事故の未然防止に向けた管理の徹底と、万が一の環境事故発生時に環境影響を最小限に抑えるため繰り返し訓練を実施しています。

### 宇都宮製作所サイトレポートの紹介

宇都宮製作所では、毎年サイトレポート(環境・社会報告書)を発行しています。地域の皆さまに当製作所の概要をお知らせするとともに、交流を深める資料として使われています。



宇都宮製作所  
環境・社会報告書2008



■ 工場の概要(2009年3月末現在)

工場名	本工場(航空宇宙カンパニー)	南工場(航空宇宙カンパニー)	第2南工場(航空宇宙カンパニー)
所在地	栃木県宇都宮市陽南1-1-11	栃木県宇都宮市上横田町1418	栃木県宇都宮市宮の内2-810-4
土地面積	337,457m <sup>2</sup>		
建物面積	176,895m <sup>2</sup>		
従業員数	2,035人		
主な生産品目	航空機、無人機、宇宙関連機器	航空機	航空機

## 環境保全の取り組み

### 宇都宮製作所の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、宇都宮製作所では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

—宇都宮事業所 環境方針— [2008年6月改定]

富士重工業(株)宇都宮製作所(航空宇宙カンパニー、エコテクノロジーカンパニー、輸送機工業株式会社および株式会社エフ・イー・エス)は、事業活動と地球環境の調和を目指し、環境保全への積極的な取り組みを通して、豊かな社会実現のため、以下の方針を定めます。

- (1) 事業活動の環境影響を評価し、開発・設計から生産・物流・サービス・廃棄等全段階における環境負荷を低減します。
- (2) 事業活動において、関連する法規制、地域協定およびその他の要求事項を順守し、さらに、自主管理基準を制定し、一層の環境保全に取り組めます。
- (3) 環境保全への目的・目標を設定して自主的な活動に取り組み、定期的なレビューを行いながら、環境の継続的な改善と汚染の予防を図ります。
- (4) 美しい地球環境をつくるため、二酸化炭素の削減、省エネルギー、省資源、化学物質の排出削減、産業廃棄物の削減・再資源化を促進します。
- (5) 社会の一員として、地域や社会との交流を図るとともに、環境保護活動に積極的に協力します。
- (6) 環境教育・啓発を通して、一人ひとりが環境を大切にす企業風土づくりを進めます。
- (7) 環境方針は文書化し、実行し、維持し、かつ製作所で働くまたは製作所のために働くすべての人に周知するとともに、必要に応じて社外へも公開します。

### 2008年度の主な環境活動実績

■ 地球温暖化防止活動

航空宇宙カンパニー

2008年度のCO<sub>2</sub>排出量は、22,104ton-CO<sub>2</sub>となり、目標を達成しました。2007年度と比較すると、14%削減しています。これは、ガス暖房機の間欠運転や、クリーンルーム与圧時間管理の見直し、そして南工場ボイラーの都市ガス化など、地道な省エネ活動によるものです。今後はコストも絡めたCO<sub>2</sub>低減活動を進めていきます。

エコテクノロジーカンパニー

大型都市ガスボイラーに自動省エネ運転装置の取り付け、電着塗料の不攪拌化による攪拌モーター停止、冷却モーターをインバーター化するなど、省エネ活動に継続的に取り組んだ結果、CO<sub>2</sub>排出量は2,394ton-CO<sub>2</sub>となり、目標を達成しました。2007年度と比較して

14.3%減少しています。なお1990年度比では69.1%低減となっています。今後は、老朽化機器更新や運転方式を見直すなど、さらなるエネルギー管理を強化し、CO<sub>2</sub>低減活動を進めていきます。

■ 廃棄物削減活動

航空宇宙カンパニー

2008年度の廃棄物量は2,267トンで目標を達成できました。2007年度と比較すると1%削減しています。これは、有効期限切れ廃棄物の削減や、電子閲覧業務を拡大してペーパーレス化に努めるなどの取り組みの成果です。2009年度は処理費用の発生抑制を絡めて、購買部門と連動した有効期限切れ廃棄物削減策を進めていきます。

エコテクノロジーカンパニー

2008年度の廃棄物量は576.5トンとなり、目標を



■ 工場の概要(2009年3月末現在)

工場名	半田工場(航空宇宙カンパニー)	半田西工場(航空宇宙カンパニー)	本工場(エコテクノロジーカンパニー)
所在地	愛知県半田市潮干町1-27	愛知県半田市上浜町102	栃木県宇都宮市陽南1-1-11
土地面積	49,041m <sup>2</sup>	49,244m <sup>2</sup> *1	171,816m <sup>2</sup>
建物面積	11,227m <sup>2</sup>	13,809m <sup>2</sup>	51,633m <sup>2</sup>
従業員数	196人	25人	198人
主な生産品目	航空機	航空機	塵芥収集車、風力発電システム、ロボット*2など

達成できました。前年度と比較すると、6.4%低減しています。これは、16棟排水処理設備改造による汚泥排出量の削減や、板取り実態に合わせた最適材種の見直しを実施するなどの取り組みの成果です。

今後は塗料スラッジを削減するための静電塗装導入などを進め、さらなる廃棄物発生量の低減を推進していきます。

■ 公害防止活動

2008年度は、統計開始以来はじめて「環境苦情ゼロ件」を達成しました。今後も継続して「ゼロ」を達成できるように公害防止活動に取り組んでいきます。

ただし、環境法規制値の超過と構内事故がそれぞれ1件発生しました。再発防止に向けて業者指導などを実施し水質管理強化と納入業者への環境教育を拡大して実施しています。「すべてゼロ」を目標に、環境リスクアセスメントや工事業者教育をさらに推進していきます。

\*環境法規制値超過と構内事故の詳細は46ページに示したとおりです。

環境監査結果

■ 環境マネジメントシステムに基づく内部監査結果

2008年5~6月および11~12月の期間に、宇都宮

製作所で59部署の内部監査を実施しました。その結果、不適合70件、観察事項74件となりました。不適合指摘を受けた部署については直ちに是正処置を実施し、EMSの完成度を向上させています。

また、昨年の指摘事項の「内部監査員の養成、増員」に対するフォローとして、2008年度は、新たに15名の監査員を加え、合計147名が登録されました。監査員は、外部機関での内部監査員研修または社内研修を受講したことを条件に養成され、自部門を監査しない独立性も確保されています。

今後も監査システムの一層のレベルアップを図っていきます。

■ ISO14001外部審査結果

2008年6月16日~19日の期間に、ISO14001更新審査を受審し、軽微なものを含め不適合はゼロで、ISO1400の認証更新が確認されました。また、今回の審査では当社の100%子会社の「株式会社エフ・エー・エス」を加えた適用範囲拡大が認められました。



ISO14001外部審査の様子

環境データ

■ CO<sub>2</sub>排出量

(単位:ton-CO<sub>2</sub>)

項目	事業所区分	2008年度実績	1990年度を100とした場合の指数
CO <sub>2</sub> 排出量	航空宇宙CP	22,104	81.0
	エコテクノロジーCP	2,394	30.9
	宇都宮製作所	24,498	69.9

電力および化石燃料(重油、軽油、灯油、ガソリン、都市ガス、LPG)の合計使用量を換算しています。  
CO<sub>2</sub>換算係数の出典:社団法人日本自動車工業会  
(個別に把握した換算係数を使用している場合があります)

■ 水使用量

(単位:m<sup>3</sup>)

事業所区分	2008年度実績	1990年度を100とした場合の指数
航空宇宙CP	735,892	84.7
エコテクノロジーCP	40,759	25.7
宇都宮製作所全体	776,651	75.6

■ 廃棄物・金属くず関連

(単位:ton)

項目	2008年度実績
金属くず	751
金属くずを除く産業廃棄物-特別管理産業廃棄物	2,092
直接埋立	0
外部中間処理後埋立	0

※1 半田西工場の土地面積49,244m<sup>2</sup>のうち、7,267m<sup>2</sup>は借用地として拡大しました。  
※2 清掃ロボットなどについては、当社 クリーンロボット部にて製造・販売しています。

## ■ 工場の概要 (2009年3月末現在)

所在地	埼玉県北本市朝日4-410など
土地面積	143,438m <sup>2</sup>
建物面積	92,061m <sup>2</sup>
従業員数	551人
主な生産品目	ロビンエンジン、エンジン発電機など



## 地域社会とのかかわり

## 地域社会とのコミュニケーション

## ■ 地域行事への積極的な参加

2008年11月1日、恒例の北本宵まつりに従業員とその家族290名が参加し、地域にお住まいの方々と一緒にねぶた曳きなどを楽しみました。北本宵まつりとは、埼玉県北本市主催のお祭りで、ねぶた、囃子山車などが北本市の駅前通りを練り歩くもので、この日は24台の山車が参加して地域を盛り上げました。埼玉製作所も毎年行列に参加しており、年々参加者が増加しています。

宵まつり翌日の産業祭には、ロビンエンジンを搭載した



11月 北本宵まつりでねぶた曳きに参加する従業員とその家族

製品や、充電式草刈機の展示を行っています。展示の際は、市民の方々に当製作所製品に親しみを持っていただくため、直接触れていただく工夫をこらした展示を行っています。

## ■ 環境教育型工場見学の受け入れ

埼玉製作所では、従来の生産工程を中心とした工場見学に加え、所内での環境保護の取り組みを盛り込んだ、小・中学生向け『環境教育型工場見学』を2008年4月から実施しています。これは、工場内のエネルギー、排水、ごみ処理など、埼玉製作所での環境への取り組みを紹介するもので、小学生でもわかりやすい資料づくり、事前見学会の実施を経て現在の形にしてきました。すでに数十回実施しており、参加者からの評判は良好です。今後もさらなる工夫を重ねてよりよい見学内容にしていきたいと考えています。



環境教育型工場見学のようす

## ■ エコライフDAY2008の展開

2008年6月には、環境月間に合わせてエコライフDAY2008(埼玉県主催のCO<sub>2</sub>削減活動)を展開し、従業員1,224名が参加しました。各自、家庭内におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減に積極的に取り組みました。

## 教育・啓発活動など

## ■ あったか子育て支援

埼玉県や北本市主催の、次世代育成計画推進会議、子育て支援セミナーなどへ積極的に参加することで、地域社会の子育て支援活動を進めてきました。

2008年11月の『埼玉県あったか子育て企業賞』受賞を機に、行政主催の男女共同参画および、子育てセミナーパネリスト依頼、女性活性化研修の講師依頼があり、埼玉製作所における子育て支援活動の実績を報告しています。



埼玉県あったか子育て企業賞受賞時の賞状とトロフィー

また、埼玉製作所では、毎年2回埼玉県から講師を招き、『お父さん応援講座』を開いて、子育てにおける父親の接し方の勉強も行っています。

## ■ 消火訓練実施

2008年11月埼玉製作所自衛消防隊の消火器・消火栓隊35名が参加し、北本消防署東分署の指導のもと、消火器の取り扱い訓練を実施しました。訓練の内容としては、初期消火への対応として、実際に火を燃やして、粉末消火器、水消火器を使った消火作業を実施しました。また、建物に設置されている消火栓設備の点検を兼ねた消火栓による放水訓練を毎月1ヶ所ずつ実施しています。消火栓の作動点検と万が一に備えた実地放水訓練を今後も引き続き実施していきます。

■ 産業機器カンパニーの主な製品

ロビンエンジン EH72FI

ポータブルインバータ発電機

充電式草刈機



## 環境保全の取り組み

### 産業機器カンパニーの環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、産業機器カンパニーでは環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

一産業機器カンパニー環境方針一 [2005年5月改定]

当カンパニーはエンジンおよび応用製品に対し、開発から廃棄にいたるまでのすべての活動において、地球環境保全を積極的に推進し、豊かな未来の実現を目指します。

- (1) 開発、設計から物流、廃棄段階における環境負荷の低減を図ります。
- (2) 関連する法規制、地域協定、業界規範を順守するとともに、環境保全への目的・目標を定めて自主的な活動を図ります。
- (3) 「継続的な改善と汚染の防止」が重要であることを認識し、一人ひとりが自覚と責任を持って行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動のさらなる向上を図ります。
- (6) 地域社会との交流を図り、環境保護活動に積極的に協力します。

### 2008年度の主な環境活動実績

■ 地球温暖化防止活動

2008年度のCO<sub>2</sub>排出量は、1990年度と比較して41%の低減となっています。2007年度との比較では1,884ton-CO<sub>2</sub>削減されました。2009年度は高効率照明、高効率変圧器への更新、エアリーク防止対策を主体に省エネ対応を進めていきます。

■ 廃棄物削減活動

2007年度に導入した研磨くずを固化して有償化する「研磨くず処理装置」の稼働が定着し、研磨くず廃棄物は2007年度に対し54トン削減されました。ただし、旧設備の廃却による廃液量が大幅に増加したため、廃棄物総量では2007年度に対し18トンの削減となり、固化分の効果が相殺された結果となりました。2009年度は洗浄液の寿命延長などで、廃液処理量の削減を進め廃棄物発生量の抑制を進めます。

■ 公害防止活動

環境事故ならびに苦情は2007年に引き続きゼロ件を継続できました。自主基準超過については、2008年度はゼロ件になりました(2007年度3件)。さらに、騒音については、2007年度に一部法規制値超過がありましたが、改善を加えた結果、2008年度はすべてのエリアで法規制値をクリアすることができました。2009年度以降も事故、苦情、自主基準超過ゼロを目標に日々の管理の徹底を図っていきます。

### 環境監査結果

■ 環境マネジメントシステムに基づく内部監査結果

2008年9月26日～10月16日にかけて、18部門で内部監査を実施しました。結果は不適合ゼロ、推奨項目24件となりましたが、すべて対策を完了しました。

■ ISO14001外部審査結果

2009年2月19日～20日にかけて、ISO14001サーベランス審査を受審しました。結果は、軽微な不適合1件、推奨項目20件を受けましたが、直ちに是正処置を実施したことにより、ISO14001認証の継続が認められました。



ISO14001外部審査の様子

## 環境データ

■ CO<sub>2</sub>排出量

(単位:ton-CO<sub>2</sub>)

項目	2008年度実績
CO <sub>2</sub> 排出量	6,835
1990年度を100とした場合の指数	59.0

電力および化石燃料(重油、軽油、灯油、ガソリン、都市ガス、LPG)の合計使用量を換算しています。  
CO<sub>2</sub>換算係数の出典:社団法人日本自動車工業会  
(個別に把握した換算係数を使用している場合があります)

■ 廃棄物・金属くず関連

(単位:ton)

項目	2008年度実績
金属くず	894
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物	291
直接埋立	0
外部中間処理後埋立	0



■ 東京事業所の概要(2009年3月末現在)

所在地	東京都三鷹市大沢3-9-6
土地面積	156,747m <sup>2</sup>
建物面積	69,210m <sup>2</sup>
従業員数	1,004人
主な事業内容	自動車用エンジン、トランスミッションの研究開発・実験、スバル製品の研究

## 地域社会とのかかわり

東京事業所では、社会の一員として地域や社会との共生を通して、豊かな社会づくりに貢献していくことを目指し、事業所見学を通じた小学生対象社会科授業の

お手伝い、地域とのふれあい行事、交通安全教室の開催などを積極的に行っています。ここでは2008年度の主な活動をご紹介します。



8月 従業員の家族や近隣にお住まいの方も招待し、約2,000名を集めて納涼祭を開催



毎月1回 スバル寮生が20名ずつ交代で周辺地域の清掃活動を行っています



12月 三鷹警察署交通課課長を講師に招き、550名が参加した安全運転講習会



9月 三鷹警察署より白バイ隊の方を指導員に迎え、二輪車安全教室を実施



10月 近隣の5つの小学校の児童(475名)を招いて開催した事業所見学会



10~11月 小学校5年生の社会科授業支援として、近隣の3つの小学校で出張授業を実施

\*この他に、近隣の小学生200名を招いて当社硬式野球部による「野球教室」を開催したり、当社施設(体育館や寮の大浴場)を一般の方向けに開放するなど、地域とのふれあいを大切に、積極的な活動をしています。

## 環境保全の取り組み

### 東京事業所の環境方針



当社企業理念および全社環境方針を受け、東京事業所では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

#### —東京事業所 環境方針— [2003年9月制定]

富士重工業株式会社東京事業所は、豊かな自然を守り次世代に引き継ぐため、環境にやさしい「クルマづくり」を目指し、「クリーンなパワーユニット」を提供します。

環境方針を実現するための運営基準を次のように定める。

- (1)自動車部門における環境への影響を考慮して、積極的な環境保全に努めます。
- (2)関連する法規制・地域協定・業界規範を順守するとともに、環境上の目的・目標を定めて自主的な活動に取り組みます。
- (3)「継続的な改善と汚染の未然防止」が重要であることを認識し、一人ひとりが自覚と責任を持って行動します。
- (4)環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5)計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動のさらなる向上を図ります。
- (6)社会の一員として、地域や社会との交流を図るとともに、環境保全活動に積極的に協力します。



## 2008年度の主な環境活動実績

### ■ 地球温暖化防止活動

昨年度の700トン増加をふまえて、2008年度は公害特定施設の管理強化や、重油ボイラーから天然ガスボイラーへと熱源設備を更新するなどの対策を計画的に実施し、NOx、SOx排出低減などに着実に効果を発揮しました。そうした地道な努力の結果、今年度のCO<sub>2</sub>排出量は前年度比約1,042トン減少しました。1990年度比では約25%の低減となっています。今後も実験設備の高稼働が予想されるため、高稼働を前提とした省エネ施策を進めていきます。

### ■ 廃棄物削減活動

廃棄物の発生量については、金属くずが前年度と比べ8トン減少しましたが、総発生量としては、41トン増加しました。これは、建物建て替えの際に、旧建屋解体に伴う長期保管物が想定以上に多量廃棄されたためです。今年度以降も、廃棄物発生量の削減を目指して取り組んでいきます。

### ■ 公害防止活動

2008年度には、油脂類の流出による構内環境事故が3件\*発生しました。いずれも適切な是正処置を行い管理しています。なお、近隣にお住まいの方から騒音に関する苦情を1件受け、すみやかに是正処置を実施しました。今後は、基準値超過・苦情・環境事故すべてゼロを目標に環境リスクアセスメントの実施などを進めていきます。

\*環境事故の詳細につきましては、46ページをご参照ください。

## 環境データ

### ■ CO<sub>2</sub>排出量

(単位:ton-CO<sub>2</sub>)

項目	2008年度実績
CO <sub>2</sub> 排出量	14,129
1990年度を100とした場合の指数	75.1

電力および化石燃料(重油、軽油、灯油、ガソリン、都市ガス、LPG)の合計使用量を換算しています。  
CO<sub>2</sub>換算係数の出典:社団法人日本自動車工業会  
(個別に把握した換算係数を使用している場合があります)

## 環境監査結果

### ■ 環境マネジメントシステムに基づく内部監査結果

2008年10月14日～11月6日の間に、事業所内全部署(23区分)を対象に内部環境監査を実施しました。その結果、不適合3件、観察項目51件が摘出されました。不適合については是正処置を行い、その効果の確認までを実施しました。内部監査を通して、各部署における「システムの欠如や機能不全」「法規制違反」などの重大な欠陥は確認されず、事業所全体のEMSは概ね良好に運用されていることが確認できました。また、今年度は、新たに20名の内部監査員を養成し、フレッシュな視点で内部監査を実施しました。

### ■ ISO14001外部審査結果

2008年12月15日～17日に、ISO14001サーベランス審査を受審しましたが、前回審査の不適合事項に対する修正および是正処置が認められ、不適合事項の指摘はありませんでした。改善推奨事項は27件の結果となり、ISO14001の認証継続が確認されました。特に、2007年度から開始した「第4次ボランティアプラン(環境保全自主取り組み計画)」において着実な改善が進んでいることや、内部監査において新たに20名の監査員が加わりの射た指摘がされていることが高く評価されました。今後も内容のレベルアップに取り組んでいきます。

### ■ 廃棄物・金属くず関連

(単位:ton)

項目	2008年度実績
金属くず	145
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物	326
直接埋立	0
外部中間処理後埋立	0

## ■ 本社の概要(2009年3月末現在)

	新宿サイト	大宮サイト
所在地	東京都新宿区西新宿1-7-2	埼玉県さいたま市北区宮原町1-1-2
土地面積	1,600m <sup>2</sup>	54,896m <sup>2</sup>
建物面積	7,254m <sup>2</sup>	4,255m <sup>2</sup>
従業員数	586人	39人
主な事業内容	スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート部門	



## 社内コミュニケーション

本社はスバルの商品企画、マーケティング、販売およびコーポレート部門などから構成される複合組織です。そのため、日ごろから社内コミュニケーションを重視し

ています。ここでは2008年度の活動の一部をご紹介します。



4月 新宿サイトISO14001  
2008年度キックオフ式



6月 マネジメントレビュー報告会  
環境保全統括者の説明を熱心に聴くEMS推進委員



9月 新任内部監査員に向けて、教育研修が行われました



10月 内部監査委員任命式



12月 外部監査説明会が新宿で行われました



2009年2月 第五回業務改善事例発表会  
毎年行い、優秀事例の水平展開を実施しています

## 環境保全の取り組み

## 本社(新宿サイト・大宮サイト)の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、本社(新宿サイト・大宮サイト)では環境方針を策定し、環境保全活

動に積極的に取り組んでいます。

2007年6月5日に、「社会的責任を全うする企業」の達成に向け、CSRへの取り組みを織り込んだ環境方針に改定しました。

## —新宿サイト・大宮サイト 環境方針— [2003年7月制定]—[2007年6月5日改定]

常に環境と事業活動の深い関わりを認識し、地球と社会と人にやさしい商品と環境づくりに努め、豊かな未来の実現を目指します。

- (1) 新宿サイトにおける、商品の企画・開発・設計・製造・販売・サービス・廃車など、各段階に関わる事業活動において、CSR(企業の社会的責任)や環境影響を考慮した企業活動に努めます。
- (2) CSR活動および環境保全活動を推進するため、関連する法規制・地域協定・業界規範を順守するとともに、目的・目標を定めて自主的な活動に取り組みます。
- (3) 事業活動における継続的な改善と汚染防止の重要性を認識し、一人ひとりが自覚と責任を持って行動します。
- (4) CSR活動および環境保全活動の推進を図るため、階層・職種に応じた教育を実施し、一人ひとりの意識向上を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動のさらなる向上を図ります。
- (6) 企業市民として、地域や社会との交流を図るとともに、社会を取り巻くさまざまな課題に対して、事業活動を主体としたCSR活動および環境保護活動に積極的に協力します。

※1 「本社」とは、スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート部門を行う新宿サイトと、スバルパーツ製品のマーケティングおよび販売、ならびにスバルITシステムの開発および構築を行う大宮サイトを範囲としたISO14001環境マネジメントシステムの外部審査適用範囲の総称です。



本社(新宿・大宮サイト)環境方針

## 2008年度の主な環境活動実績

### ■ 地球温暖化防止活動

2008年度のCO<sub>2</sub>の排出量は、約465ton-CO<sub>2</sub>となり、2007年度と比べて9%の削減ができました。これは、従業員一人ひとりにこまめな省エネ活動が浸透したこと、経費節減の一環で、出張や車両デモ活動の見直しを進めたことなどによるものです。

### ■ 廃棄物削減活動

2008年度は、本来業務の改善や削減プロセスを計画して発生抑制を強化したり、リサイクル用紙の分別廃棄などの取り組みの結果、PPC用紙排出量は27.4トンとなり、2007年度比約6%の低減が図れました。100%リサイクルも継続しています。

また、一般可燃物・雑芥などの排出量は18.2トンとなり、2007年度の17.7トンに対し、約3%の増加となりました。ただし、厨芥・茶殻の排出量は7.4トンから5.9トンへ減少しています。これは、厨芥・茶殻の分別廃棄方法を変更したためで、厨芥排出物のうち65%をリサイクルしています。

今後は、さらにリサイクル率を高め、排出量全体としても、年1%以上の低減に取り組んでいきます。

### ■ 環境関連法規制違反、行政指導、苦情などについて

該当事項はありませんでした。

## 環境監査結果

### ■ 環境マネジメントシステムに基づく内部監査の結果

2008年10月14日～11月5日の期間に、本社地区全部門を33部署に区分して、各部署より選任された32名の監査員により、内部監査を実施しました。

今回は、監査員の自主性を引き出し、より有効な監査実施を狙いとして、監査員独自の監査確認事項を準備して行いました。

結果、2007年度の指摘件数44件から、2008年度

の指摘件数56件と積極的な指摘ができ、有意義な監査を実施することができました。

また、不適合件数については1件摘出され、すみやかに是正処置を行いました。その後、効果の確認・地区内の水平展開を図り、全体のレベルアップを図っています。



ISO14001外部監査のようす 大宮サイト(左)新宿サイト(右)

### ■ ISO14001外部審査結果

2008年12月17日～19日、ISO14001継続審査を受審し、9件の推奨事項などを受けましたが、不適合は「ゼロ」で、ISO14001の認証継続が確認されました。パソコンの活用など、環境教育のためのインフラが行き届いていること、本来業務に環境を組み入れて対応することが各部に浸透し、業務見直しによる効率化への取り組みが高く評価されました。

### ■ 2009年度EMS活動予定

東京都八王子市にある研修施設「スバルアカデミー」も2009年度から本社のEMS活動の範囲に加わる予定です。

## ■ 会社概要(2009年3月末現在)

会社名	輸送機工業株式会社	富士機械株式会社	桐生工業株式会社
所在地	愛知県半田市上浜町102	群馬県前橋市岩神町2-24-3	群馬県桐生市相生町2-704
従業員数	99人	367人	82人
主な事業内容	航空機部品の製造、販売	自動車部品・産業機械・農業用 トランスミッションの製造、販売	スバル特装車の製造・スバル用品の 物流管理

## 地域社会とのかかわり

## 地域社会とのコミュニケーション

各社とも、さまざまな社内・外コミュニケーション、会社周辺の美化、清掃活動を実施しています。ここでは、

2008年度に実施した活動の一部をご紹介します。

(株)イチタン、桐生工業(株)、(株)スバルロジスティクスの3社は、スバル地域交流会※1活動にも参加しています。



桐生工業(株)の環境活動:工場周辺および学童通学路の清掃(線路際の草刈)



輸送機工業(株)では、「緑の募金」活動で集まった募金を愛知県緑化推進委員会へ寄贈しました。  
右:愛知県緑化推進委員会 柴田事務局長  
左:高橋業務部長



輸送機工業株式会社の職制がボランティアで参加した「EMSクリーン活動」



富士機械(株)では、前橋の花火大会に合わせ、従業員・町内にお住まいの方々・お取引先をご招待し納涼祭を開催しました。総勢600名が参加する大規模なものとなりました



(株)イチタンでは、従業員とその家族、そして地域にお住まいの方々をご招待して毎年8月に夏祭りを開催しています

## 環境教育、啓発、緊急時対応訓練実施状況など

各社とも、環境マネジメントシステムや法律に基づき、さまざまな環境教育開催や緊急事態に備えた訓練を実施しています。



桐生工業(株)の防災緊急対応訓練

企業名	実施日	内容	参加人数
輸送機工業(株)	9月22日	熱処理洗浄装置緊急対応訓練	8名
	2月25日	熱処理洗浄装置緊急対応訓練	8名
富士機械(株)	4月2日	環境基礎教育	6名
	3月16日	火災緊急対応訓練	65名
(株)イチタン	6月27日	騒音予防教育	38名
	12月24日	焼入炉火災緊急対応訓練	75名
桐生工業(株)	7月11日	ISO環境コンサルタント指導	7名
	11月20日	防災緊急対応訓練	110名
(株)スバルロジスティクス	随時	中入社員向け廃棄物分別教育	28名

※1 スバル地域交流会:富士重工業とその取引先54社からなる組織で、太田市と周辺住民との相互交流、ならびに地域発展を図り「住みよい街」づくりに貢献することを目的として、さまざまな地域貢献活動を行っています。

活動内容はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.chiiki-kouryukai.com/index.html>

■ 会社概要 (2009年3月末現在)

会社名	株式会社イチタン	株式会社スバルロジスティクス
所在地	群馬県太田市新道町74	群馬県太田市朝日町558-1
従業員数	200人	142人
主な事業内容	自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売	自動車およびその部品の梱包、出荷、陸送業、倉庫業、整備業、保険代理店業

## 国内関係会社の主な実績

スバルは、国内の関係会社のなかで環境負荷が多い製造関係および輸送関係の5社による「国内関連企業部会」を組織しています。この部会は、年2回定期的に開催して企業間の活動事例の共有化、水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。

### 主な部会活動実績

2008年度は、5月9日と10月31日に部会を開催しました。この部会では、廃棄物の削減・地球温暖化防止・省エネの目標が達成できたことを確認しました。

■ 5月開催の通算第16回部会の主な報告・討議内容

- ・各社の2007年度環境保全活動実績、2008年度計画および省エネ活動マスタープランについて
- ・部会全体で売上高が1%向上したものの、廃棄物削減目標を達成した。
- ・全企業ゼロエミッション・レベル1<sup>※2</sup>の維持、ゼロエミッション・レベル2<sup>※3</sup>への挑戦を推進していくことを確認した。
- ・省エネ・CO<sub>2</sub>削減やチームマイナス6%活動の推進について、など

■ 10月開催の通算第17回部会の主な報告・討議内容

- ・各社2008年度上期の実績および年度の計画について
- ・エネルギー改善の推進によるCO<sub>2</sub>排出量抑制の目標達成を目指す、など



### 主な環境活動実績

■ 環境マネジメントシステム構築

国内関連企業部会5社はすでにISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。

(株)スバルロジスティクスは、2008年度のISO14001認証継続はしましたが、方針転換により、12月14日付けで認証を返還しました。今後は、自主的なEMS活動を推進していきます。

■ 地球温暖化防止活動

2008年度のCO<sub>2</sub>排出量は5社合計で21,057 ton-CO<sub>2</sub>となり、前年度(24,198 ton-CO<sub>2</sub>)と比べ13%削減しました。

(株)スバルロジスティクスでは完成車輸送での、最適ルートの設定・モーダルシフトの推進・積載率向上などの効率化を進めることで環境負荷低減に貢献しています。

また、同業他社と完成車の共同輸送の取り組みを進め、2008年度の共同輸送取扱量(他社への委託台数と他社からの受託台数の合計)は、36,578台となりました。燃費データを集約することでより精度の高いエネルギー消費量(含むCO<sub>2</sub>排出量)の把握を行い、その結果、前年比約3%の燃費向上を達成し、年間1%以上のエネルギー消費量の低減を継続的に行っています。

## Topics

### (株)スバルロジスティクスとスバル輸送協力会 および関係会社による 「交通遺児助け合い募金」寄付について

2008年12月15日群馬県 太田市役所にて、賛同いただき、集めた募金を太田市の清水市長に手渡しました。これはスバルロジスティクスが中心となって、毎年実施しており、2008年は537,926円を寄付しました。



清水市長(中央)に集めた募金を代表して手渡す  
(株)スバルロジスティクス岡崎社長(右から3人目)

※2 レベル1

直接又は間接埋立量が、廃棄物発生量(発生物総量から金属くずなどを省いた量)の1%以下のこと。

※3 レベル2

直接又は間接埋立量が、廃棄物発生量(発生物総量から金属くずなどを省いた量)の0.1%以下のこと。

■ 廃棄物削減活動

2008年度は売上高が20%減少した影響により、原単位が未達となってしまいましたが、全体では「ゼロエミッション・レベル2」をほぼ達成しました。2009年度は売上高変動の影響を抑制し得るよう原単位管理の徹底に努め、「ゼロエミッション・レベル2」を定着させていきます。(2008年度埋立量実績7.8トン、前年度比較6.7トン削減)

環境関連法規制違反(自主基準値超過)、行政指導など

■ 環境関連法規制違反・自主基準値の超過について

● 騒音関係

(株)イチタンでは、2008年10月の夜間騒音自主規制値を超過したため、1月にバリ箱用防音室を設置するなど自主対策をしました。

その後48.2dBから45.3dBへ下がり、結果は良好となりました。なお、本件に関して公式な騒音苦情などは受けていません。



(株)イチタンのバリ落下音対策を施したバリ箱用防音室

● 水質関係

測定結果については、5社とも環境法規制違反・自主基準値の超過はありませんでした。

● 大気関係

測定結果については、5社とも環境法規制違反・自主基準値の超過はありませんでした。

■ 行政指導・勧告などについて

2008年度は、5社とも行政からの指導や勧告はありませんでした。

■ PCB含有機器などの保管状況について

輸送機工業(株)、(株)イチタン、桐生工業(株)の各社で、管理台帳とともに適正に保管しています。

環境に関する苦情・事故など

環境に関する公式な苦情・事故などについては、5社とも発生していません。

環境監査結果

■ ISO14001外部審査結果

各企業の審査結果は下表のとおりです。軽微な不適合については直ちに修正措置を行ったことによりISO14001の認証継続が確認されています。

企業名	実施日	軽微な不適合	観察事項	良かった点
輸送機工業(株)	2008年6月16~19日	0	4	0
富士機械(株)	2008年8月26~29日	2	33	2
(株)イチタン	2008年3月24~25日	1	4	0
桐生工業(株)	2008年8月19~20日	0	20	0
(株)スバルロジスティクス	2008年12月14日付けでISO14001認証登録を返還し、自主的なEMS活動を推進しています。			

\* 輸送機工業(株)については、富士重工業宇都宮製作所の認証範囲に加わりましたので、その審査時に受けた観察事項のうち輸送機工業にかかわるものをあげています。

環境データ

■ エネルギー使用量

	輸送機工業	富士機械	イチタン	桐生工業	スバルロジスティクス	5社合計	2001年度を100とした場合の指数
エネルギー使用量(原油換算kℓ)	568	4,485	6,239	224	568	12,084	79.6
CO <sub>2</sub> 排出量(ton-CO <sub>2</sub> )	897	9,538	9,977	377	269	21,058	76.5

■ 廃棄物発生総量

	輸送機工業	富士機械	イチタン	桐生工業	スバルロジスティクス	5社合計	2001年度を100とした場合の指数
廃棄物発生総量(ton)	85	1,571	4,735	281	273	6,945	62.5
直接埋立量(ton)	0.02	5.1	0.48	0.14	2.1	7.8	4.8

## ■ 会社概要 (2009年3月末現在)

会社名	SIA※1	SOA※2	SCI※3
所在地	インディアナ州ラファイエット	ニュージャージー州チェリーヒル	オンタリオ州ミシサーガ
従業員数	2,749人	761人	127人
主な事業内容	米国におけるスバル車の製造、トヨタ車の受託生産	米国におけるスバル車および部品の販売、整備	カナダにおけるスバル車および部品の販売、整備

## 地域社会とのかかわり

## SIAの社会貢献

## ■ 環境にやさしいSIA

SIAの取り組みの実績は各メディアで紹介されています。USA TODAYという発行部数世界第2位の新聞にも、2008年2月19日の紙面で「廃棄物ゼロ、環境先進企業のスバル工場」というタイトルで記事が掲載されました。



SIAの取り組みが掲載されたUSA TODAYの記事

## ■ 「Detrash the Wabash」活動

SIA近くを流れるWabash川の洪水による被害を受けた地域周辺を従業員で清掃しました。



Detrash the Wabash活動  
洪水に遭ったWabash川の周辺を清掃する従業員



## SOAの社会貢献

## ■ 「Cruisin' Not Boozin'」(飲んだら乗るな)プログラム

SOAは若者の飲酒運転などによる事故を減らすため、Bryn Mawr Rehab病院で安全運転指導を実施しています。飲酒などが原因で交通事故に遭った人と若者が、交流・対話するプログラムで、若者が交通事故の恐ろしさを目のあたりにして実感する貴重な機会です。このプログラムは今年で20年目の開催となり、これまでにペンシルベニア州、ニュージャージー州、デラウェア州の360,000人の学生を対象に実施しました。



飲んだら乗るなプログラム

## ■ 本のリサイクルプログラムを支援

「SCARCE ブック レスキュー」という本のリサイクルプログラムをボランティアで支援しています。

およそ25,000冊の本がリサイクルされ、子供たちや、学校、図書館、病院などに寄贈されています。



「SCARCE ブックレスキュー」活動で集ったリサイクル本

## ■ Alive at 25 プログラム

16～24歳の若年ドライバーによる違反や交通事故を減らすため、ニュージャージー州の安全委員会で実施しています。このプログラムでは、運転経験の浅さや注意散漫が、運転中に危険を引き起こす原因となり得ることを理解し、若者が自身の行動に責任を持って交通事故を起こさない運転をするよう指導しています。

## SCIの社会貢献

## ■ スバル・カート・チャンピオンシップ・シリーズ

2008年5月18日に、ミシサーガの本社でスバル・カート・チャンピオンシップ・シリーズを立ち上げました。

このチャンピオンシップは、モータースポーツに興味を持つ8～16歳の若者にモータースポーツ界への入り口を提供するために立ち上げられました。また、イベントを通して家族の交流を促し、子どもたちに遊びや楽しみを提供することも目的にしています。



SCI本社にて展示車に試乗する参加児童

※1 SIA  
Subaru of Indiana Automotive, Inc.  
※2 SOA  
Subaru of America, Inc.  
※3 SCI  
Subaru Canada, Inc.

■ 会社概要(2009年3月末現在)

会社名	SRD*1	RMI*2
所在地	ミシガン州アンナーバー	ウィスコンシン州ハドソン
従業員数	38人	22人
主な事業内容	北米市場におけるスバル車の研究開発	米国における汎用・四輪バギー・ゴルフカート用エンジンの製造、販売

環境保全の取り組み

主な委員会活動実績

スバルは、海外の関係会社の中で特に環境負荷が高い北アメリカの製造関係および販売関係の5社より、「北米環境委員会(NAEC)」を組織しています。この委員会は、年2回定期的に開催し、企業間の活動事例の共有化、水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。また、新たに2009年からは、「北米CSR委員会(NACC)」も発足させ、CSRについても、スバルのグローバルな情報共有および活動推進を図っています。

2008年は、2月19日と9月16日に北米環境委員会を開催しました。この委員会には日本からもCSR・環境委員委員長・事務局が参加し、北米環境委員会各社の活動報告とともに、日本のCSR・環境委員会の活動報告も行い、スバルのグローバルな情報共有を図っています。

2009年には、2月19日に北米環境委員会を開催し、ここでは2008年の実績と2009年の目標の確認ならびに、今後の活動体制についての討議がなされました。

なお、2008年については、廃棄物・埋め立て量・リサイクル率・エネルギー・CO<sub>2</sub>のすべての項目について目標を達成しています。また、2月24日には第一回CSR委員会を開催し、各社の活動事例に対し討議が行われました。

主な環境活動実績

■ 環境マネジメントシステム構築

北米環境委員会の5社はすべてISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。

特にSIAでは1998年11月に認証取得しており、これは日本国内のスバル生産拠点の群馬製作所よりも4ヶ月早い取得でした。

さらに2006年12月には、SIA・SOA・RMI 3社でさらに進んだ取り組みとして統合認証を取得しています。

■ 環境負荷(5社合計のCO<sub>2</sub>排出量と廃棄物埋立量)

CO<sub>2</sub>排出量は、こまめな省エネ活動により、一台あたり原単位は2007年の0.64トン/台から2008年は0.54トン/台へと改善しました。ただし総排出量は、SIAのトヨタ車受託生産を含めた生産増加分を吸収しきれずに、111千ton-CO<sub>2</sub>となり、2007年と比較して約9千ton-CO<sub>2</sub>、約8%増加しました。

地球温暖化防止のため、さまざまな対策を推し進め総量の削減に努めていきます。2008年度の廃棄物の埋立量については544トンとなり、2007年度と比較し約3%低減できました。なお、SIAについては2005年にゼロエミッションを達成し、現在も継続しています。

Topics

SOAでは、さまざまな環境への取り組みが認められ、雑誌「ワーキング・マザー」にて、2008年の子供が選ぶグリーンカンパニーTOP20にランクインしました。ランクイン企業は、革新的な思考と財源で環境保全に積極的に取り組み、次世代の子供達にとってクリーンな世界を築く企業です。

スバルは、「リサイクル先進企業」として選出され、特にPZEV\*3のクリーンなエンジン、クリーン・ディーゼルの開発、電気自動車、廃棄物の削減、リサイクル活動などが評価されました。また、アメリカで最も働きやすい職場に贈られるBest Adoption Friendly Workplace賞で2位に選ばれました。

地球温暖化防止への取り組み

SIAでは、積極的な省エネ活動を行うことにより、CO<sub>2</sub>排出量を25,435トン削減しました。そうした努力に対して、2008年には、米国環境保護庁(EPA)からWaste Wise賞を一昨年から引き続き3年連続で受賞しました。(2008年度は気候変化部門ゴールド賞、2006年度は新人賞、2007年度はリサイクル部門)



2008年Waste Wise賞にて気候変化部門ゴールド賞受賞の際の盾

\*1 SRD  
Subaru Research & Development, Inc.

\*2 RMI  
Robin Manufacturing U.S.A., Inc.

\*3 PZEV  
Partial-zero-emission vehicle  
カリフォルニア州の厳しい排出基準をクリアした  
クリーン排出ガス車。



SCIでは、CO<sub>2</sub>排出量を削減するため、DDS(直接配送サービス)プログラムを実施しています。倉庫から直接ディーラーへ配送するため、配送業者を介するより移動距離が短く、また、夜間に配送することで渋滞を避けられ、CO<sub>2</sub>排出量を削減できます。2006年よりトロント地域を中心に開始したこのプログラムは、2009年にはモントリオール地域まで範囲を拡張させる予定です。



DDSで使用しているトラックのひとつ

RMIでは、出入口のドア付近を断熱材で覆い、冷暖房にかかるコストとCO<sub>2</sub>排出量を削減する取り組みを行っています。



断熱材で覆われた出入口

SOAでは、「継続的な改善」活動により環境保全に積極的に取り組んでいます。2008年は、設備改良や省エネ対策により、エネルギー使用量の21.9%を削減し(前年比)、経費の削減やCO<sub>2</sub>排出量の削減も達成しました。

今後も、スバルはCO<sub>2</sub>排出量削減に向けて積極的に取り組んでいきます。

### 廃棄物削減への取り組み

各社は、輸送時の梱包材にリターナブルパレットの使用を進めています。これにより、廃棄物そのものを減ら

す取り組みを続けています。例えばRMIでは、現在93%リターナブルパレットを使用していますが、2009年度には、100%リターナブルパレット化を進める計画です。

また、RMI独自の活動として、e-RECYCLING活動を実施し、老朽した電子基板すべてをリサイクルして活用しています。



RMIのリターナブルパレット

SOAでは、配送段階において折り畳み式のリターナブルパレットを使用しています。この改善により、年間でダンボール40,000箱の削減になります。



SOAの折り畳み式リターナブル配送箱

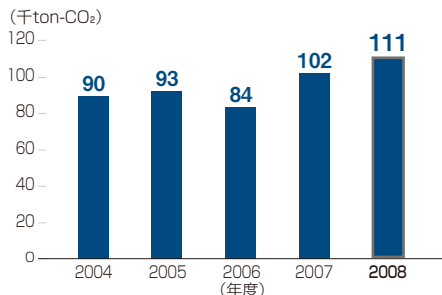
SRDでは、ハードコピーからオンラインでの注文システムに替え、郵便も電子データで保管することでペーパーレス化を図り廃棄物削減に取り組んでいます。

SIAでは、すでにゼロエミッションを達成していますが、さらに廃棄物の発生そのものを減らす取り組みを続けています。たとえば、工場で使用するオイルを遠心分離機を使って年間約6,000ガロン再利用したり、エンジン工場リターンプロジェクトにより、梱包材を年間2,122トン再利用するなど、積極的にリサイクル、廃棄物の削減を進めています。

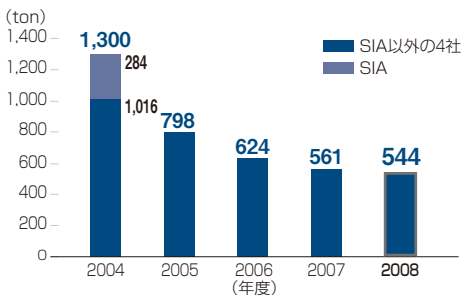
SCIの3R活動(Reduce, Reuse, Recycle)は、カナダの全国紙“NATIONAL POST”や“Canada.com”をはじめとしてさまざまなメディアに取り上げられました。今後もより高い目標を設定し取り組んでいきます。

## 環境データ

### ■ 5社合計のCO<sub>2</sub>排出量の推移



### ■ 5社合計の廃棄物埋立量の推移



# 環境・社会への取り組みの歴史

- マネジメント
- 自動車関連
- 自動車以外
- ▲航空宇宙カンパニー
- ◆産業機器カンパニー
- ★エコテクノロジーカンパニー、ほか

1993

- 3月 ●「地球環境保護に関する取り組み計画」制定
- 「総合環境委員会」とその下部組織「技術環境委員会」「工場環境委員会」発足

1994

- 4月 ■カーエアコンの冷媒を特定フロン(CFC12)からHFC134aに切り替え完了

1995



電気自動車「サンバーEV」

- 1月 ◆CARB排出ガス規則対応汎用エンジン生産を開始
- 4月 ■電気自動車「サンバーEV」を発売
- 6月 ■環境にやさしい新塗膜保護剤を開発。「レガシィ」「インプレッサ」に本格採用
- 8月 ★低公害CNG塵芥収集車を納入開始
- 10月 ●筒内噴射エンジン、ハイブリッドカーを東京モーターショーにて発表

1996

- 4月 ●「地球環境に関する2000年計画」策定

1998

- 2月 ●「使用済自動車リサイクルイニシアティブ自主行動計画」策定
- 4月 ●「環境方針」を策定
- 10月 ■社団法人日本自動車工業会のシステムを活用した特定フロン(CFC12)の回収・破壊取り組みの全国展開終了
- 11月 ●SIAにおいてISO14001の認証を取得

1999

- 3月 ●群馬製作所においてISO14001の認証を取得
- 5月 ●埼玉製作所においてISO14001の認証を取得
- 7月 ●宇都宮製作所においてISO14001の認証を取得

2000



「小型風力発電システム」の試作機

- 3月 ■使用済みバンパー回収の全国体制を構築
- ★高層ビルごみ分別搬送システム「ヒュー・ストーン」が平成11年度「通産省環境立地局長賞」を受賞
- 8月 ■新型「インプレッサ」発売、全モデルが低排出ガス車の認定基準を達成
- 9月 ●環境報告書を初めて発行
- 11月 ★スバル小型風力発電システムを公開
- ★低騒音新型塵芥収集車「LPO」型を発売

2001



ロビン汎用エンジンEXシリーズ

- 3月 ●群馬製作所においてゼロエミッションを達成
- 5月 ◆ロビン汎用エンジンEXシリーズを発売、低排出ガス、低騒音化、低振動化を図る
- 9月 ●社内の焼却炉をすべて停止

2002



小型風力発電システム

- 1月 ●スバル小型風力発電システムが平成13年度新エネ大賞の「資源エネルギー庁長官賞」を受賞
- 2月 ■新型「フォレスター」を発売、全モデルが2010年度燃費基準を達成するとともに良・低排出ガス車(GLEV)に認定される
- 5月 ●「第3次環境ボランティアプラン(2002~2006年度)」を公表
- 11月 ●航空機定期修理における無公害塗装剥離剤への転換について「防衛調達基盤整備協会賞」を受賞

2003



スバルビジターセンター



新型軽自動車「スバルR2」

- 5月 ■新型「レガシィ」を発売、2.0 GTspec.Bを除く全モデルで2010年燃費基準を達成
- 2.0L SOHCエンジン搭載車で平成12年基準排出ガス75%低減レベル達成
- 「無公害塗装剥離剤の開発」が(社)日本航空技術協会の「協会特別賞」を受賞
- 7月 ●「スバルビジターセンター」を群馬製作所矢島工場に開設
- 10月 ●平成15年度リデュース・リユース・リサイクル(3R)推進功労者等表彰において、群馬製作所が「会長賞」を受賞
- 12月 ■新型軽自動車「スバルR2」を発売、24.0km/ℓ(10-15モード)燃費を実現し(R)、平成12年基準排出ガス75%低減レベルを達成(R&i)

## 2004

- 5月 ◆V型2気筒エンジンがカミンズ社からサプライヤー・オブ・ザ・イヤー受賞
- 11月 ●身障者雇用優良事業所表彰受賞
  - 群馬製作所の塗料カスリサイクル工場が「資源循環技術・システム表彰」受賞
- 12月 ■福祉車両スバルトランスケアをR1およびインプレッサに新設定、R2およびサンバーに追加モデルを設定



インプレッサトランスケア  
ウイングシート

## 2005

- 1月 ●「スバルアカデミー」を東京都八王子市に開設
  - 自動車リサイクル法に対応した「スバル自動車リサイクルシステム」を稼働
- 3月 ●本社、部品センターを含む全事業所でISO14001認証取得を完了
- 5月 ●企業の社会的責任に対する考え方を「CSR方針」として明確化
- 6月 ●富士重工業グループとしての「環境シンボルマーク」を制定
- 7月 ●「チーム・マイナス6%」へ参加
- 12月 ★茨城県神栖市に2,000kW級の大型風力発電システム「SUBARU 80/2.0」試作機を設置し実証実験を開始



環境シンボルマーク

## 2006

- 3月 ■スバル環境交流会(出前環境教室)が第15回エネルギー広報活動・広報施設賞を受賞
- 5月 ▲エクシプス500量産主翼初納入
- 6月 ■東京電力(株)と当社で共同開発を行ってきた次世代型電気自動車スバル「R1e」試験車両を完成させ、東京電力の業務用車両として納車
  - 新型軽自動車「ステラ」を発売、22.5km/ℓの低燃費・グリーン税制適合車(L,LX,R)
- 8月 ●「第4次環境ボランティアプラン(2007~2011年度)」を公表
- 11月 ■電気自動車スバルR1eが「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞
  - ★大型風力発電システムが「新エネ大賞資源エネルギー庁長官賞」を受賞
- 12月 ★クリーンロボット部が「今年のロボット大賞2006(経済産業大臣賞)」を受賞
  - SIA、SOA、RMI3社によるISO14001の統合認証を取得



電気自動車  
スバル「R1e」



大型風力発電システム

## 2007

- 2月 ◆充電式草刈機「e-カッターPRO」発売
- 6月 ■新快適スタイル新型「インプレッサ」発売
- 9月 ★塵芥収集車「LP81型シリーズ」発売
- 12月 ■新世代クロスオーバー新型「NEW フォレスター」を発売



充電式草刈機  
「e-カッターPRO」

## 2008

- 4月 ■インプレッサが「自動車アセスメント グランプリ」を授賞
- 6月 ■7シーターパノラマツーリング新型車「エクシーガ」発売
- 10月 ■インプレッサに一部改良を施すとともに、「インプレッサアネシス」を追加発売
- 12月 ●環境総合展示会「エコプロダクツ2008」に初出展



自動車アセスメント  
グランプリ07/08  
授賞式

## 2009

- 1月 ■「水平対向ディーゼルエンジン」が第6回新機械振興賞「機械振興協会会長賞」を受賞
- 2月 ◆エンジン式刈払機 スバル ロビンカッターSCAシリーズ、SCMシリーズを発売
- 4月 ■フォレスターとエクシーガがともに「自動車アセスメント優秀車08/09」を受賞
- 5月 ■『グラントツーリング イノベーション』新型「レガシィ」を発売、全車、「平成17年度排出ガス基準75%低減レベル」(SU-LEV)を達成
- 6月 ■高性能リチウムイオン電池を搭載した電気自動車「スバル プラグイン ステラ」を発表
  - 守りのCSRと攻めのCSRの考え方に基づいて「CSR方針」を改定



新型「レガシィ」



電気自動車  
「スバル プラグイン ステラ」



株式会社創コンサルティング  
代表取締役

海野みづえ

本年は、富士重工業の主要工場である群馬製作所に加えて宇都宮製作所を訪問し、航空宇宙事業、エコテクノロジーの展開とこのサイトでの環境・社会への取り組みについて伺いました。今後とも海外を含めた富士重工業の社員全員がCSRの意識を持ち続けていくよう、継続して取り組んでください。

## CSR活動の全体

2009年にCSR方針を改定し、守るべき活動としてのCSRだけでなく、事業のなかで積極的に社会の課題解決につなげていく戦略的CSRについても明示されました。方向が示されたことは重要であり、今後は自動車メーカーとしてどのような課題に重点を置いていくのか、CSRボランティアプランの中で具体化して行ってください。現場の社員やステークホルダーに対して理解しやすく、実践的であることが大事です。

## 基本的CSRと戦略的CSRの課題整理

CSR方針の策定に伴い、CSRのリスクと機会の両面性を理解し基本部分(守り)と戦略部分(攻め)について、具体的に課題を整理して行ってください。

特にCSRに戦略性を意識するには、事業のコンピテンシーを中心におきつつ、世の中の関心事にその強みをどう適用できるかにあります。富士重工業では、「走りのよさ」が自動車開発の強みである一方で環境へのマイナスイメージを生んでいると伺いました。実際には環境性能をも達成する技術開発に取り組んでおり、その説明を今後とも継続してください。

また風力発電やエコテクノロジーなど、自動車以外の事業での富士重工業の取り組みは他の自動車メーカーにない特色です。さらに耐久力のあるエンジン開発は今後の途上国での発展に貢献できる事業であり、ニッチ事業も含めて世界での社会問題に取り組む姿勢を事業に位置づけることも有効であると考えます。

## トピック別の活動

### ■CSR調達

サプライヤーへのCSRの展開は、メーカー側の一方的な要請だけではできない分野で時間もかかる課題です。グリーン調達に加え、CSRについても自動車やその関連業界での共同したガイドライン策定の動きが始まっています。富士重工業においてもその流れを受けながら、企業間の協力をベースにしたCSR調達に対応して行ってください。

### ■顧客対応

「お客さま第一主義」の意識が徐々に社内に広がっています。顧客対応活動を評価に組み込み始めたことで、成果が上がってきています。毎年CSRレポートで積極的な特約店を紹介していくことも定着してきており、特約店同士の横展開や意識アップの全国展開のうえで大いに活用してください。

また、本社カスタマーセンターが特約店、販売店に定期的な教育、研修をしていくことも重要な取り組みです。今回のレポートでもその報告が記載されていますが、まだその内容は十分とはいえません。今後は、全国そして海外の特約店に対する意識啓発を深める仕組みを活性化させてください。

### ■CSR活動の3つの柱

富士重工業では海外を含めたグループ内の共通項目として「環境、交通安全、地域貢献」の3分野を定めています。このうち交通安全の分野については、どのような活動をしてステークホルダーにどのようなインパクトや成果があるのかが曖昧です。自動車メーカーとして特徴のある分野であり既に活動の随所に組み込まれているものと思いますが、3本柱として掲げている以上より明確に意識して展開してください。

### ■CSRでのPDCAの展開

昨年は北米事業でのCSR委員会を設置し、グローバル展開がさらに進みました。SIAでのこれまでの環境、社会活動を、改めて全社でのグローバルCSR展開のなかに位置づけることは意味があります。初年は現在の活動の整理にとどまっていますが、今後CSRボランティアプラン策定時には海外の主要サイトも含め、計画からレビューまで行っていくことが大事です。

## 報告の媒体と内容

本年から、冊子での報告とウェブでの詳細報告とを区分けし、内容を整理されました。それぞれのメディアの特徴を考慮し、読者にわかりやすく伝える工夫がみられます。ただし、今回の冊子版の内容が、この報告書だけを読む読者にとって必要とされる主要な項目にしばられているかについては、まだ検討すべきところが多いと考えます。読み手である各種ステークホルダーの評価を踏まえて、今後とも検討を続けてください。

### プロフィール

うんの  
海野 みづえ  
株式会社創コンサルティング 代表取締役  
<http://www.sotech.co.jp>

経営コンサルティング会社に勤務の後、1996年に創コンサルティングを設立。日本企業のグローバル経営に視点を置き、独自の分析眼で環境・CSR分野での経営のあり方を提言、企業活動の実務をサポートしている。東京大学大学院非常勤講師。著書に、「グローバルCSR調達」、2006年(共著)、「SRIと新しい企業 金融」、2007年(共著)、「企業の社会的責任[CSR]の基本がよくわかる本」、2008年などがある。

## 第三者評価をいただいて

昨年に引き続き、株式会社創コンサルティングの海野みづえさまに、当社CSR・環境委員会委員長の奥原取締役専務執行役員、同副委員長の高橋常務執行役員に対するトップ・インタビューや宇都宮製作所（航空宇宙カンパニー、エコテクノロジーカンパニー）のCSR、環境推進事務局へのヒアリングを通じ、スバルの社会性および環境活動を客観的にご確認いただきました。

今後、これまでにいただいたご意見を真摯に受け止めて、CSR、環境活動のレベルアップを図っていきます。

### (1) CSR活動全般

「企業行動規範や重要項目の尊重を主体とした守りのCSR」と「企業市民として事業活動を通じて社会課題に寄与することを主体とした攻めのCSR」をCSR方針として明示しました。今後は、常に変化する社会課題への対処を図るべく、攻めと守りのバランスを取ったCSRボランティアプランの策定を進めていきます。

### (2) CSR個別テーマ

#### ① CSR調達

サプライチェーンにおけるCSRの推進を効率的に進めるためには、自社のみならず産業界との連携が重要です。社内、グループにおける活動の浸透を前提にCSR調達ガイドラインの検討を進めています。

#### ② 顧客対応

「お客さま第一」のより一層の理解、啓発、実践に向けた教育・研修の充実、ベストプラクティスの把握と水平展開を踏まえつつ、スバルグループにおける「お客さま第一主義」の浸透、レベルアップを図っていきます。

#### ③ CSR活動の3つの柱

自動車を中心とした輸送機器メーカーの社会的責任として、「環境、交通安全、地域貢献」を共通活動項目として掲げて昨年から推進しています。特に交通安全はさまざまな取り組みがあるため、お客さま、地域、社内対応など対応分野や狙いを整理しながら進めていきます。

#### ④ CSRのPDCAの展開

2008年度から北米CSR委員会を立ち上げました。CSRに関する守りと攻めを明確化したCSR方針の展開およびCSRボランティアプランの策定に関しても、グループ企業間の連携を図りながらPDCAマネジメントを推進していきます。

### (3) CSRLレポートの媒体と内容

CSRLレポートとしての発行を契機にwebと冊子の位置づけを見直し、webをフルレポート、冊子を要約版としました。冊子版の内容に関しては読者の皆さまからのアンケート結果を踏まえつつ継続的に改善を図っていきます。

### 環境シンボルマークについて



2005年6月に、当社はスバルグループの環境シンボルマークを設定しました。マークの中心に「葉」をデザインし、「緑の大地」と「青い空」の地球をコンセプトとし、当社の環境方針に述べられている「地球と社会と人にやさしい商品と環境づくり」に積極的に取り組んでいく想いをこのマークに込めています。

スバルも「チーム・マイナス6%」に参加しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%



### 表紙のデザインについて

はじめてCSRLレポートとして発行するにあたり、本業を通じたCSR活動推進の想いを込めました。スバルの“CSR”と街中を走る電気自動車プラグイン ステラをつなぎ、事業活動を通じて社会、環境に貢献する姿を表現しています。

～編集・発行～

富士重工業株式会社 総務部 CSR環境推進室

お問い合わせ先 ● TEL 03-3347-2036 FAX 03-3347-2381

制作支援・印刷 ● 日本ビジネスアート株式会社



**富士重工業株式会社**  
Fuji Heavy Industries Ltd.

〒160-8316  
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

2009年8月発行